

2-53 水戸城跡（第7地点第25次）

所在地 水戸市三の丸1-6-29（特別史跡旧弘道館正庁諸役会所床下）

調査期間 平成22年10月4日～10月8日

調査面積 2m²（陥没した箇所1.5m四方）

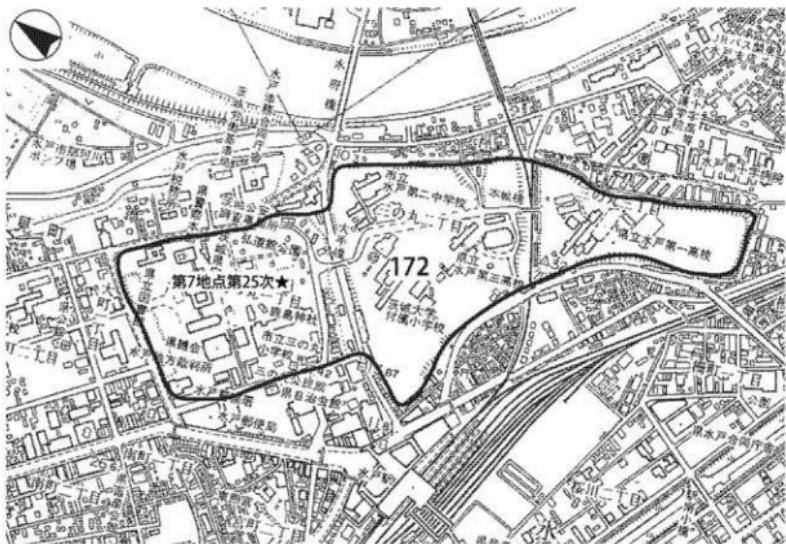
調査原因 史跡の毀損に伴う原状復旧

調査担当 澄美賀吾

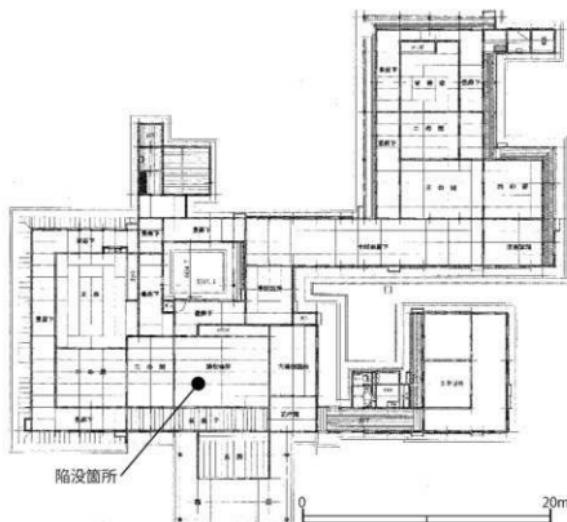
調査経緯 日常行われている重要文化財の見廻りの際、旧弘道館正庁の正面玄間に面した諸役会所の床下において東柱の礎石据え付け部分が大きく陥没し、礎石自体が崩落していたことが発見された事から（第141図）、平成22年7月13日付公街第153-2号及び7月22日付公街第163-2号にて、重要文化財及び特別史跡の毀損届が提出された。その後、平成22年8月4日付公街第181-3号にて特別史跡の現状変更許可申請書が提出され、平成22年9月17日付22受財第4号の921にて文化庁長官の現状変更許可を得たことから、陥没の原因と特別史跡旧弘道館の指定地内に包蔵されていると見込まれる重要な遺構への影響を明らかにするため、10月4日から諸役会所の南東部（陥没箇所とその周辺）の侵3枚分とその直下にある昭和35年修補の板材を暫定的に取り外し、投光器3基を配置して、調査員及び調査補助員が床下へと潜り込んだ。崩落土層を丁寧に除去した後、重要文化財である正庁を支える整地層のうち崩落の危険性のある部分を上層断面の観察を行なながら掘削し、崩落土層の直下に推定される遺構の検出にあたった。調査終了後、平成22年11月18日付公街第354-3号にて現状変更終了届が文化庁長官へと提出された。

(1) 調査の概要 遺構が確認されるまで、上層断面の確認等を行いつつ慎重に掘削を進めていたが、現況地盤から1mの深度までは、陥没に伴う整地土や地山層の崩落土層が続き、この間多くの石材の出土をみた。それは、折り重なるように出土したことから、崩落に伴い落ち込んだものと推定されるとともに、昭和34～38年の修理工事の際に礎石周囲に配置された根固め石と考えられた。また、瓦や土器・陶磁器の破片が大量に出土した。

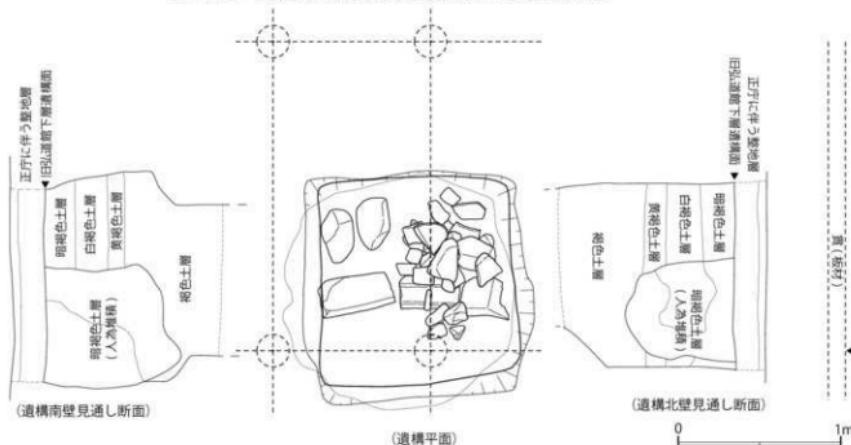
現況地盤から1mの深度を超えたところで、次第に掘方が方形形状になるのがわかったが、出土した石材の下になおも空洞があることが確認され、このまま調査を終了したとしても、礎石の復旧が難しいこと、未だ遺構の性格が判然としないことから、さらに30cm程度掘り下げを行った。その結果、平面プランが円形の大型土坑となること



第140図 水戸城跡（第7地点第25次）の位置



第141図 特別史跡旧弘道館正庁諸役会所床下陥没箇所の位置



第142図 特別史跡旧弘道館正庁諸役会所床下陥没箇所の大形円形土坑

が明らかとなった(第142図)。ここで遺構の埋土に対して、ピンボールによるボーリングを行ったところ、未掘削深度が1m以上の深さを有していることが判明したことから、当該遺構は、弘道館造営以前に廃絶した井戸跡である可能性が高いと判断した。また、現況地盤から1~1.3mにおいて、前述の石材や瓦、土器・陶磁器のほか多量の焼土が炭化物粒子とともに出土した。それが何に起因するのかを明らかにすることはできないが、近傍に焼成等



写真 173 諸役会所床下陥没箇所 (東から)



写真 174 諸役会所床下陥没箇所 (東から)



写真 175 諸役会所床下陥没状況 (北から)



写真 176 諸役会所床下陥没箇所掘削状況 (東から)



写真 177 諸役会所床下陥没箇所掘削状況 (東から)



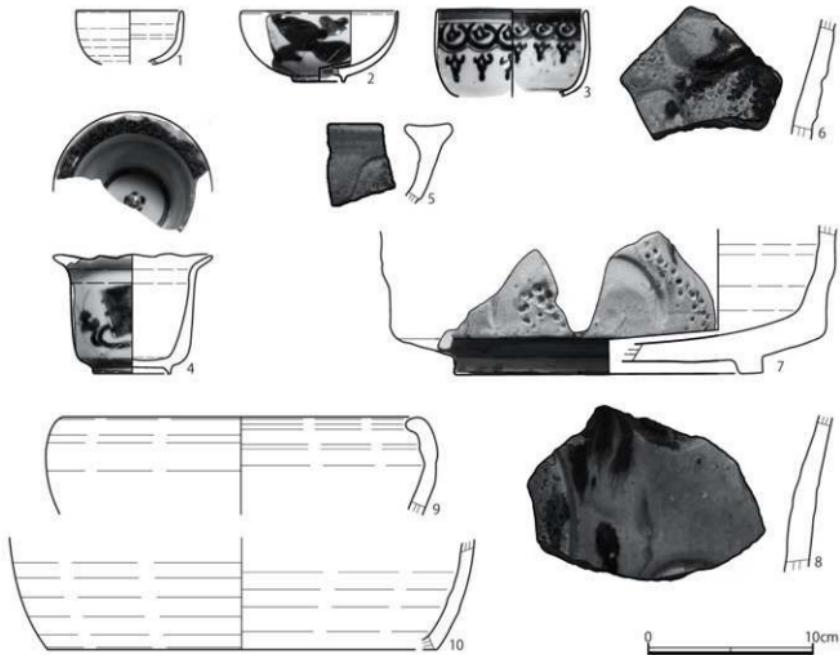
写真 178 諸役会所床下陥没箇所土層断面 (東から)

に関する遺構があったか、焼損した建造物等があったことが想起される。

観察した土層断面はほぼ堆積の混乱した崩落土層であり意味をなすものではなかったが、大型円形土坑の壁面の見通し断面において、正庁に伴う整地土層と土坑の関係が明らかであったことから、これを記録に留めた。さらに整地土層の直下で大型円形土坑の埋土を切る溝状遺構の断面が確認されたが、これについては調査面積が限られていることもあり、性格は不明である。なお、陥没の原因については、①大型円形土坑（推定井戸）の埋土が十分に堆積しておらず、弘道館造営当初からある程度の空洞があったこと、②調査における掘削の最中に鼠の巣とおぼしき物体が2基確認されたことから、当初から存在していた空洞がさらに広がっていたと考えられること、以上の2点により、東柱直下に大きな空洞が生じ、これが自然災害等により何らかの大きな力が加わったことで陥沒したものと推定される。

(渥美)

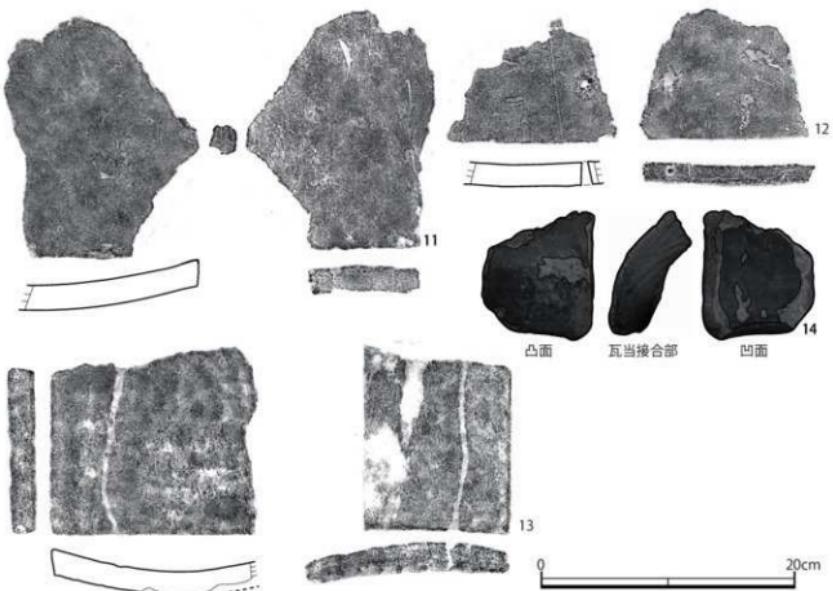
(2) 出土遺物 第143図1は器種不明の陶器であり、仏飯具の可能性がある。外面には灰釉が掛かっており、内



第143図 水戸城跡（第7地点第25次）大形円形土坑出土遺物①

面底部以下は無釉である。底部（脚部カ）を欠失しており、外面に貫入がある。生産地は不明だが遺構の検出状況から18世紀後半の年代が推定される。2は磁器の半球碗で、外面は透明釉、脛付は無釉で、外面に染付で花卉文が描かれている。肥前産と推定され、1700年代～1860年代の年代が与えられる。3は磁器の小丸碗で透明釉、外面口縁部の帶線に一重團線、体部に瓔珞文、高台脇に二重團線、内面口縁部帶線に瓔珞文、見込みに二重團線が染付で描かれている。肥前産と推定され、1760～1810年代の年代が与えられる。4は磁器の折線筒型碗で、透明釉が掛けられ、脣付は無釉、外面には花蝶・本・波文、高台脇には一重團線、高台には二重團線、折線上面には四方攢文（輪花）、見込みには二重團線、見込み中央には五弁花文が染付により描かれている。肥前産と推定され、17世紀～18世紀前半の年代が与えられる。5～8は陶器・水鉢（植木鉢転用）での破片である。いずれも同一個体と考えられ、5は口縁部、6・8が胴部、7が胴部～底部の破片である。紐作り成形で、外面には灰釉と鉄釉が掛けられ、外面には流水文、水飛沫部分を刺突で表現している。高台は削出高台で、内面には目痕が2箇所認められる。瀬戸・美濃産と推定され、18世紀後半以降の年代が与えられる。9・10は土師質土器の火鉢である。別個体と考えられ、9は口縁部、10は底部の破片である。いずれも輪轂成形で、外面にミガキ調整が施され、9は内面に、10は内外面に煤が付着している。10の底部には砂目が認められる。在地産と考えられ、近世以降の製品と考えられる。第144図11～13は平瓦で、いずれも板作り・型当て成形による。12は穿孔が1箇所に認められ、釘孔の可能性が考えられる。いずれも在地産と推定され、17～18世紀の年代が与えられる。14は軒丸瓦で、板作り・型巻成形によるもので、面には布目痕が認められる。瓦当面を欠失しており、剥落面には瓦当との接着効果を高めるための円弧状の沈線が施されている。在地産と推定され、17～18世紀の年代が与えられる。

（渥美・岡口）



第144図 水戸城跡（第7地点第25次）大形円形土坑出土遺物③

(3) 確認された埋蔵文化財の取扱い 特別史跡旧弘道館造営以前の遺構であるが、指定地内の遺構であることから、遺構の覆土は完掘せず、空洞部分を山砂により埋め戻し原状復旧することとした。
（渥美）

第3章 個人住宅建築に伴う本発掘調査

第2章で報告した試掘調査のうち個人住宅建築に伴うもの及び平成20年度・平成21年度試掘調査分の個人住宅建築に伴うもので、記録保存を目的とした本発掘調査を6件実施した。このうち、アラヤ遺跡第3地点（台渡里第73次）については今後刊行を予定している『平成23年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』に収録予定である。以下、遺跡毎・地点毎に報告する。

3-1 番掛遺跡（第4地点第2次）

所 在 地 見川町 2570-1, 2570-4

調査面積 418 m²

調査期間 平成22年4月13日～平成22年6月11日

検出遺構 土坑15（近世1・時期不明14）、ピット10（古墳時代1、時期不明9）

出土遺物 繩文土器（早期後葉・中期中葉・後期）、土師器（古墳時代）、陶器・土師質土器皿・錢貨（近世）

調査担当 米川暢敬

調査概要 平成21年度の試掘調査で遺構が確認された区域について、個人住宅の建築が予定され、伐根及び切り土が生じるため、申請建物建築部分を中心に行根・切り土の及ぶ範囲を調査対象とし、発生残土置場の確保の都合上、北区・南区に分割して調査した。

(1) 土坑 計15基を検出した。計測値については、第5表のとおりである。時期については、SK03より近世の土師質土器皿（カワラケ）の底部片が1点出土していることから、近世の所産である可能性が考えられる。他の土坑については時期不明である。

(2) ピット 計10基を検出した。P05からは古墳時代前期の土師器表片が出土したことから、古墳時代まで遡る可能性があるが、他の9基は出土遺物がないため、時期は不明である。計測値は、第5表のとおりである。（米川）

(3) 出土遺物 第146図1は表土中より出土した縄文土器である。単節LR縄文が立て方向と横方向に分けて回転



写真179 北区遺構検出状況（南東から）



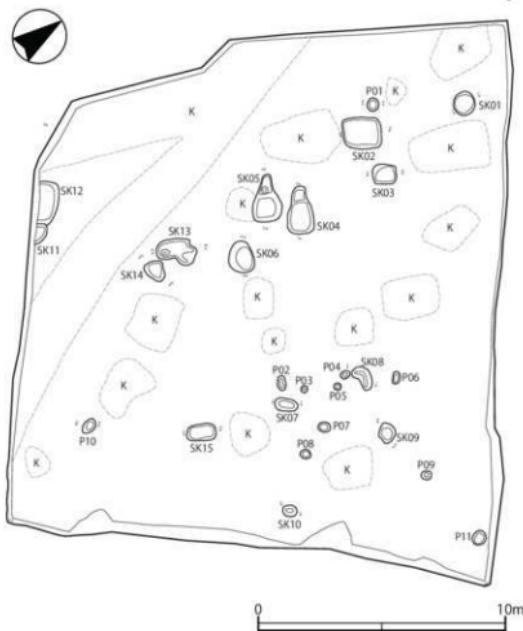
写真180 北区遺構完掘状況（南東から）



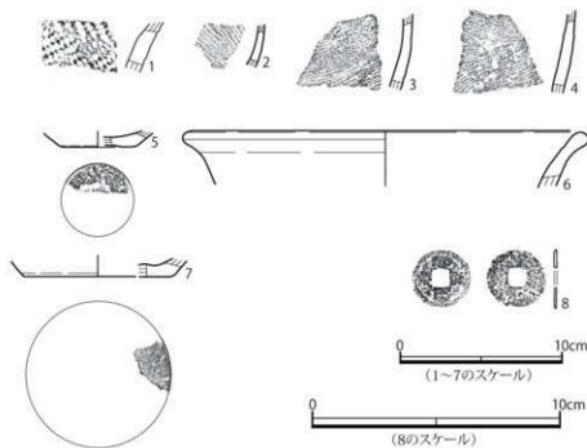
写真181 南区遺構検出状況（南東から）



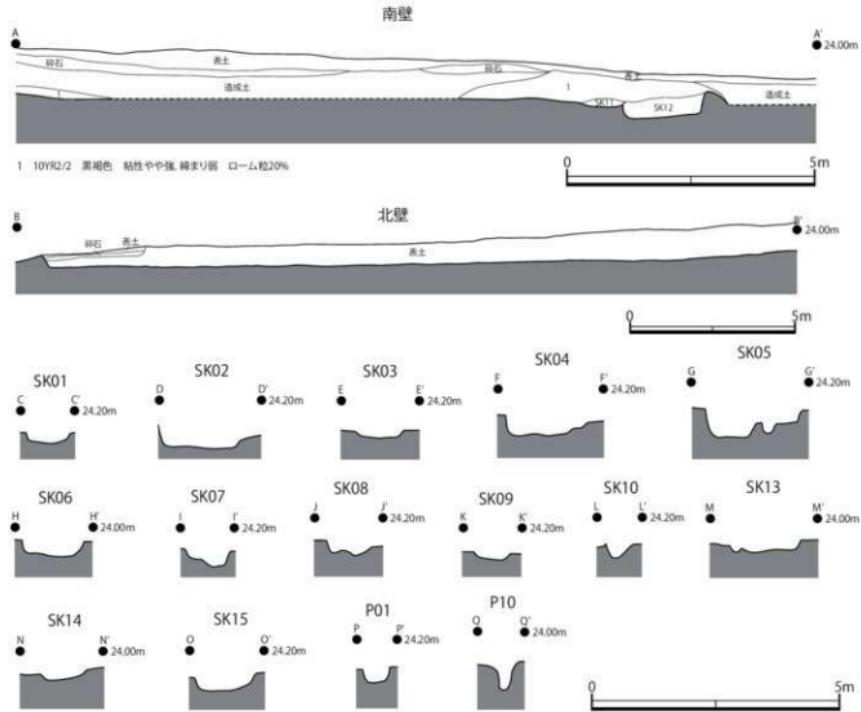
写真182 南区遺構完掘状況（南東から）



第145図 斧掛遺跡（第4地点第2次）における遺構の配置



第146図 斧掛遺跡（第4地点第2次）出土遺物



第147図 倉掛遺跡（第4地点第2次）の本調査区・遺構土層断面

第5表 倉掛遺跡（第4地点第2次）本発掘調査検出の土坑・ピット一覧

遺構名	規模 (m)	深さ (m)	形状	遺構名	規模 (m)	深さ (m)	形状
SK01	0.8 × 1.0	0.22	円形	P01	0.5 × 0.58	—	円形
SK02	1.7 × 1.3	0.26 ~ 0.42	隅丸長方形	P02	0.35 × 0.6	—	長楕円形
SK03	1.0 × 0.9	0.16	隅丸方形	P03	0.28 × 0.3	—	円形
SK04	1.1 × 1.9	0.1 ~ 0.4	長方形	P04	0.42 × 0.38	—	長楕円形
SK05	1.1 × 2.0	0.25 ~ 0.6	長方形	P05	0.38 × 0.32	—	円形
SK06	1.1 × 1.7	0.3 ~ 0.35	円形	P06	0.34 × 0.5	—	長楕円形
SK07	1.9 × 0.6	0.2 ~ 0.35	長楕円形	P07	0.5 × 0.42	—	長楕円形
SK08	1.9 × 1.0	0.26 ~ 0.28	不整形	P08	0.45 × 0.38	—	円形
SK09	0.7 × 1.1	0.12	不整形	P09	0.4 × 0.4	—	円形
SK10	0.6 × 0.5	0.28	円形	P10	0.55 × 0.6	0.5 ~ 0.6	長楕円形
SK11	(0.7) × 0.9	—	—	P11	0.58 × 0.62	—	円形
SK12	(0.8) × 1.9	—	隅丸長方形				
SK13	1.7 × 1.1	0.26	不整形				
SK14	0.8 × 0.9	0.2	三角形				
SK15	1.2 × 0.75	0.34	隅丸長方形				

施紋されている。器厚や縄文の在り方からみて中期中葉の加曾利E式期に帰属するものと考えられる。2は遺構確認面より出土した縄文土器である。単節RL縄文が回転施紋されており、器厚からみて後期以降の所産と理解される。3～6は古墳時代前期の土師器である。3～5は表土中、6はP05より出土した。3～4は脛部片で外面に刷毛目調整の痕跡が残されている。5は底部片である。6は土師器の壺もしくは甕の口縁部片で、内面には刷毛目調整の痕跡が残されている。7はSK03より出土した土師質土器皿の底部片である。糸切りの回転方向については未詳だが、胎土や色調などから近世の所産と理解する。図8は錢貨である。腐食が著しく、文字の判別はできなかった。法量と裏面に文字がないことから、銅一文古寛永（寛文8（1668）年初鋤）の可能性が高い。（川口・関口）

3-2 一戦塚遺跡（第1地点第2次）

所在地 牛伏町181-1, 182, 185, 186の一帯

調査面積 168.32 m²

調査期間 平成22年7月13日～平成22年8月13日

検出遺構 穴穴建物跡1（古墳前期）、溝跡1（奈良・平安）、ピット2（時期不明）

出土遺物 弥生土器（弥生後期）、土師器（古墳前期・古墳終末期・奈良・平安）、須恵器（古墳終末期・奈良・平安）、打製石斧（縄文）、砥石（奈良・平安）、鏡形石製模造品（古墳中期）、炉石（古墳前期）、青銅製品（奈良）

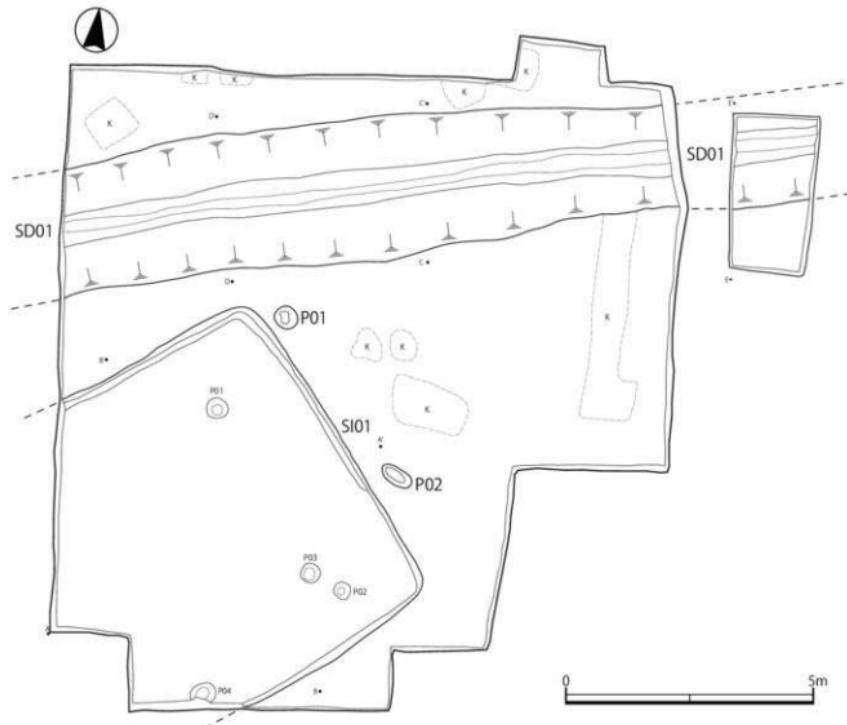
調査担当 米川暢敬・色川順子

調査概要 平成20年度に実施した試掘調査の際に竪穴建物跡3軒が確認され、西側へ申請建物を移動したが、SI03の延長部分が検出されることが予想されたため、申請建物部分を調査範囲とした（第148図）。表土を除去した結果、SI03の延長部分は検出されず、別の竪穴建物跡1軒と溝跡1条が検出された（第149図）。

(1) 竪穴建物跡(SI01) 調査区の南側半分で検出された。調査てきたのは2/3程度で残りは調査区外へ伸びている。主軸方向はN-130°-Wで、規模は東西長が7.0m以上、南北長は7.3mである。耕作による擾乱が床面まで到達しており、遺存状況は良くないが3層の覆土から成る（第150図上段）。壁から床面までの深さは0.44～0.6mで、北壁～東壁の途中までは壁溝が巡っている。東壁の南側半分～南壁では壁溝は検出されていない。屋根を支える柱を埋設したとみられる主柱穴は4基確認されており(P01～P04)、中でもP02とP03は近接して構築されている。



第148図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）の本発掘調査範囲の位置



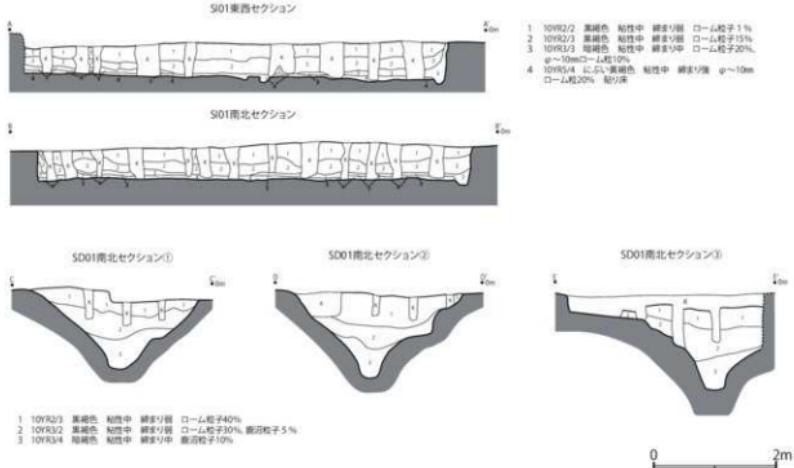
第149図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）の本発掘調査の遺構配置

ことから、いずれかが柱の据え替えに伴い新たに構築されたものと理解される。攪乱により検出は困難であったが、炉石とみられる石器が出土していることから床面に灼跡が存在した可能性が高い。遺物は土師器と炉石が出土した。

第151図1～2は有段口縁壺形土器である。1は頭部が細いのに対し、2はかなり幅広で腹と壺の折衷のような印象を持つ。1は有段口縁部に刷毛目が僅かに観察され、稜の部分に細かい刻み連続して施されている。2は刷毛目は持たないが、胴部は板状工具によりナデ調整が施されている。3～14は壺形土器で、6・7は口縁部に連続する刻みを有するのに対し、3～4と8～10は口縁部に刻みを持たない。5は底部～胴部にかけての破片である。10は他の資料に比べてやや小形で鉢としても分類できるかもしれない。3～5・8～10は外面に刷毛目調整が施されている。第152図11～13は底部の破片で13はかなり大きく、大形の壺形土器の底部である可能性もある。14は頭部以上を欠失しているが、小形の壺形土器の可能性もある。15～16は器台形土器で外面は縱方向のナデもしくはミガキ調整が施されている。15の脚部が柱実状であるのに対し、16は中空状となっており、円形の透しを有する。17は高环形土器の脚部で外面は縱方向のミガキ調整が、内面は横方向の刷毛目調整が施されている。柱実状を呈する。18～20は小形の壺形土器で18は赤色塗彩されている。21～35はミニチュアの手捏ね土器である。36は被熱によるクレーター状の剥落と赤化が顕著に観察されることから炉石とみられる。以上の遺物の技術的・形態的特徴から、S101は古墳時代前期後半～末の堅穴建物跡と考えられる。

（米川）

(2) 溝跡 (SD01) 調査区を北東方向から南西方向に横断する溝で他の遺構との重複はない。主軸方向はN-110°-Wで、上面幅2.5～3.0m、中面幅0.5～0.75m、底面幅0.15～0.3mで深さは1.28m～1.4mを測る。断面は



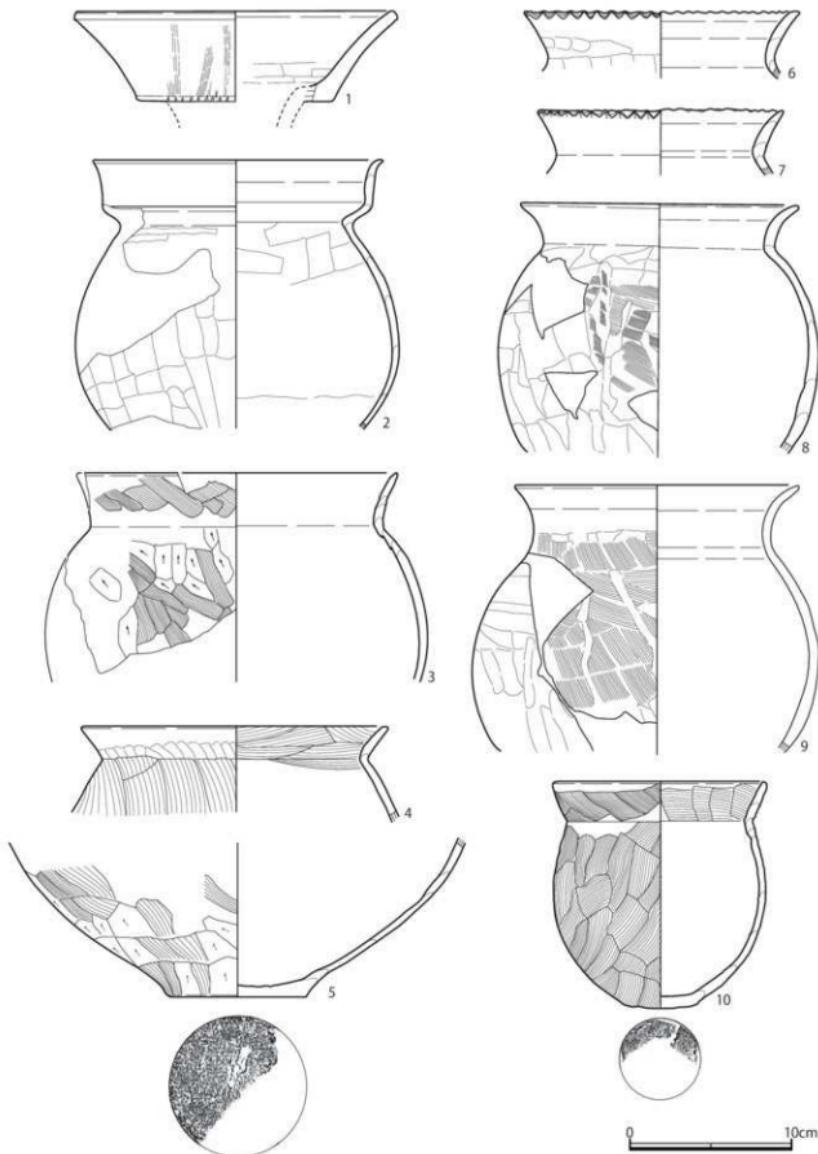
第150図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）本発掘調査区の遺構土層断面

薬研状を呈し、北側に幅の狭いテラス部分が観察できる箇所もある（第150図下段）。上面が攪乱されているが、覆土は3層に分層される。遺物は土師器・須恵器・磁石が出土した。

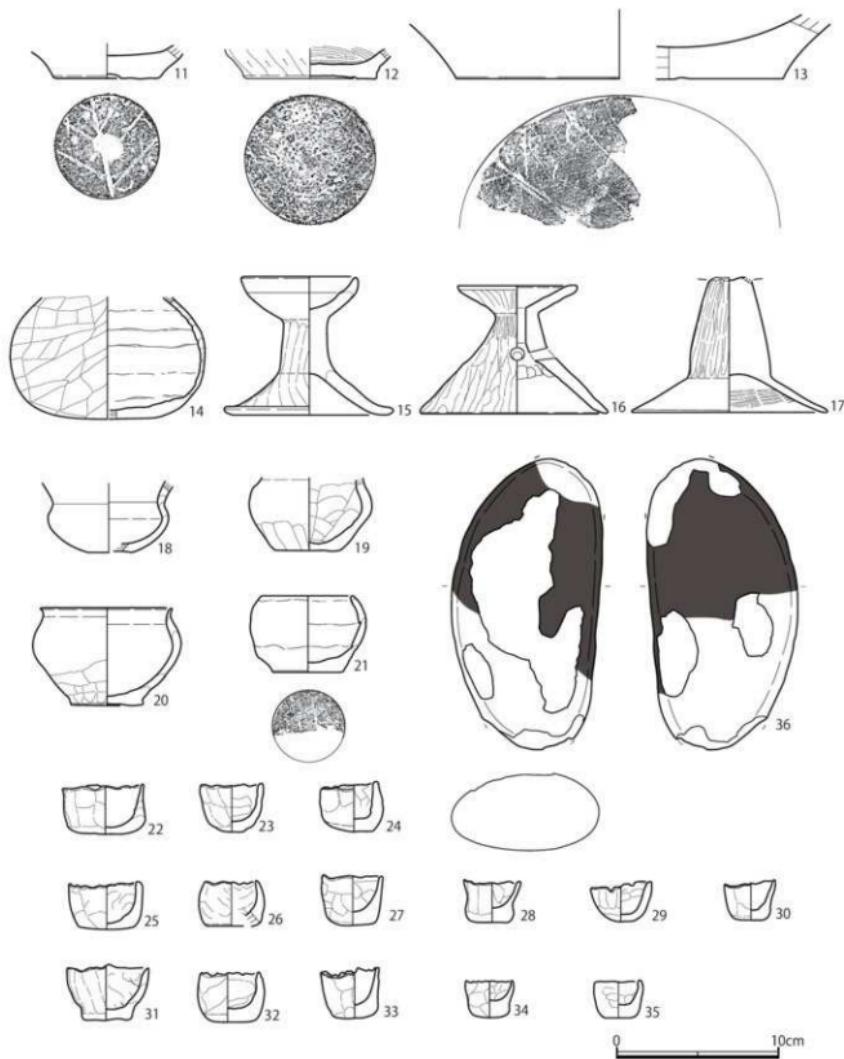
第153図は土師器環で体部はヘラ削り、胴部中央の稜から上はミガキ調整が施されている。技術的・形態的特徴から6世紀前葉～中葉に位置づけられる。2・3は須恵器の無台环である。4は須恵器の有台环である。5・6は須恵器の杯蓋である。摘まり部は欠失しているが、端部は折り返しなっており、技術的・形態的特徴から8世紀第3四半期頃の製品とみられる。7は三方透しを持つ高环で、8世紀第2四半期頃の製品とみられる。8～10は須恵器環で、8が口縁部～頸部片、9が頭部～胴部片、10は胴部～底部片である。いずれも内外面に叩きや当て貝痕はみられず、9世紀以降の製品と理解される。11は高台が付く須恵器の短頭壺で8世紀第2四半期以降の製品とみられる。12は壺の底部片で外面には平行叩きの痕跡がみられる。9世紀以降の木葉下窓跡群とみられる壺はいずれも外面に叩きの痕跡が見られないことから8世紀代の製品と理解しておきたい。13は須恵器環の胴部片である。外面には擬格子状叩きが、内面には同心円文の当て貝痕跡が顯著にみられる。こうした特徴を持つ須恵器環は水戸市山田窓跡群（常陸古代窯業史研究会 1998）で出土していることから、7世紀第4四半期の製品と考えられる。第154図14は須恵器環の胴部片である。15は磁石である。打撃による剥離面が數力所に認められ、表面裏面・左右両側面には頗るな研磨の痕跡が認められる。以上のようにSD01からは、6世紀前葉～9世紀と幅広い時期の遺物が出土しているが、機能していた時期は1世紀代で9世紀以降に埋没したと理解しておく。（米川）

(3) 遺構外出土遺物 第155図1は縄文土器の深鉢形土器の口縁部片で前期後葉浮島式と考えられる。2～4は弥生時代後期の壺形土器である。3は底部片、2・4は胴部片である。いずれも後期十王台式と考えられる。5は打製石斧である。器体中央～刃部を欠失しているが短冊形に分類されるものと考えられる。帰属時期については不明確であるが、縄文時代のものであろうか。同様の製品は南側に接する牛伏古墳群4号墳の調査（内原町教育委員会 1999）でも出土している。6～8は古墳時代前期の土師器である。6は小型の平底になる壺形土器で、胴部外面はヘラナデ調整が施され、内外面ともに赤彩されている。7は高环の脚部片で柱突状を呈するものである。8は壺形土器の底部に近い部分で外面はヘラナデ調整、内面は一部に刷毛目とナデ調整が施されている。9は滑石製の双孔円板で古墳時代中期中葉に位置づけられる。10は土師器環で胴部はヘラ削りと一部ミガキ調整が施されている。技術的・形態的特徴から6世紀前葉～中葉に位置づけられる。11は須恵器環で、胎土や色調などから水戸市木葉下窓跡群の製品と考えられ、9世紀以降の製品と考えられる。12は刀装具の鍔である。青銅製で奈良時代～平安時代の製品と理解しておきたい。

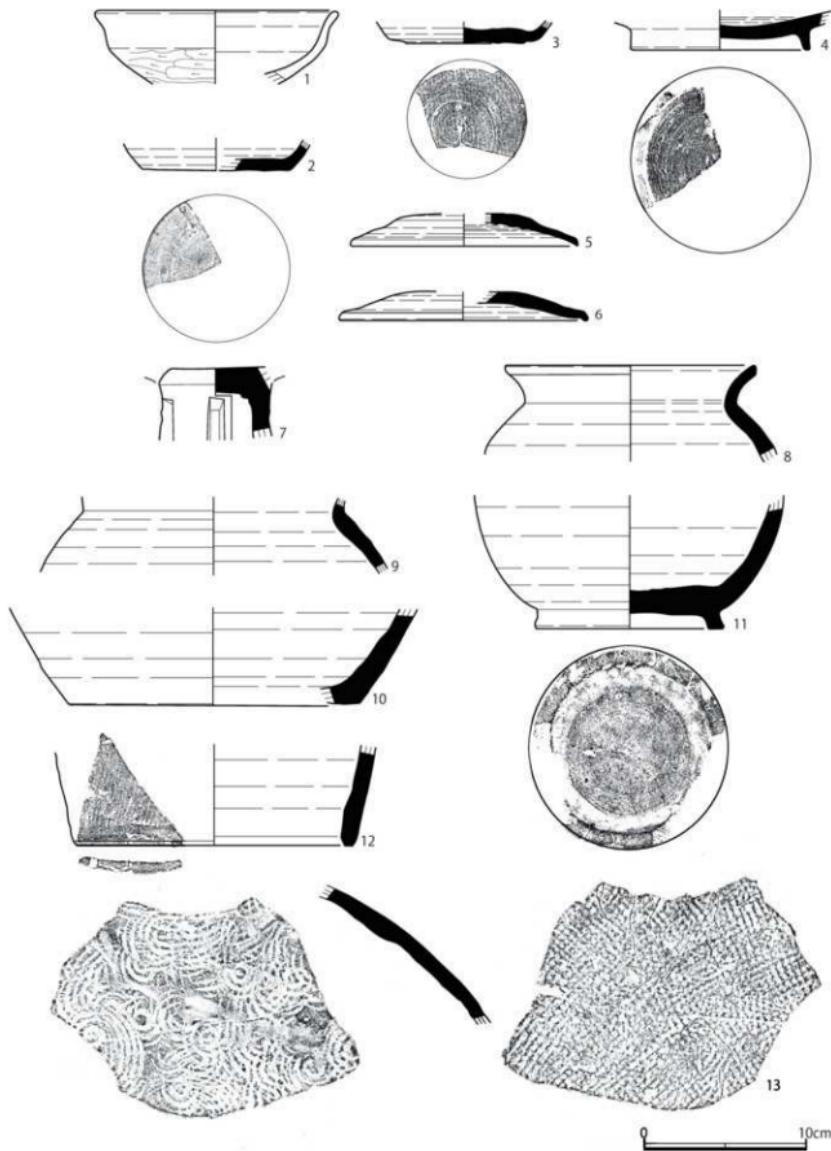
（川口）



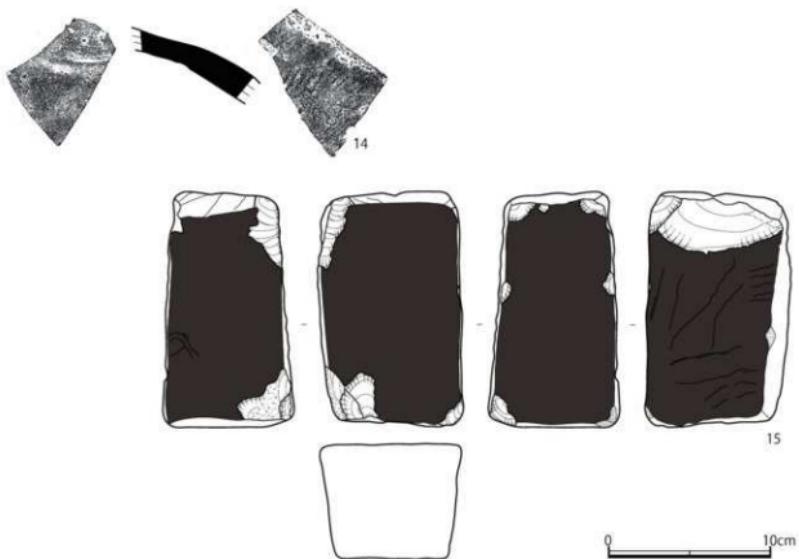
第151図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）本発掘調査S101出土遺物①



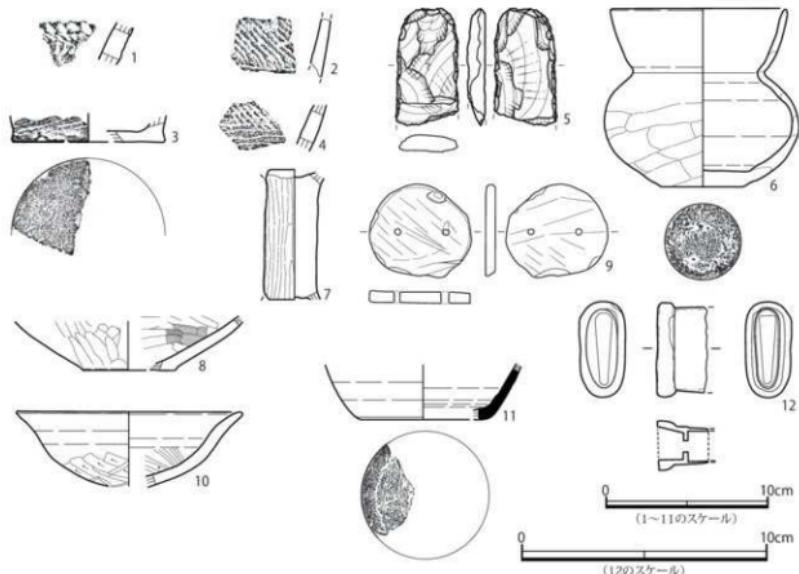
第152図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）本発掘調査S101出土遺物②



第153図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）本発掘調査 SD01 出土遺物①



第154図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）本発掘調査SD01出土遺物②



第155図 一戦塚遺跡（第1地点第2次）本発掘調査遺構外出土遺物

3-3 台渡里官衙遺跡（台渡里第69次）

所在地 水戸市渡里町字前原 2865-6 番地

調査面積 67.26 m²

調査期間 平成22年10月2日～平成22年10月7日

検出遺構 棚列1（古墳終末期）、井戸跡1（中世～近世）

出土遺物 土師器・須恵器（古墳時代終末期）、瓦（奈良・平安時代）、瓦質土器・土師質土器・陶器（中世～近世）

調査担当 川口武彦

調査概要 埋蔵文化財に影響がある申請建物建築部分を調査対象範囲とし、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第156図）。

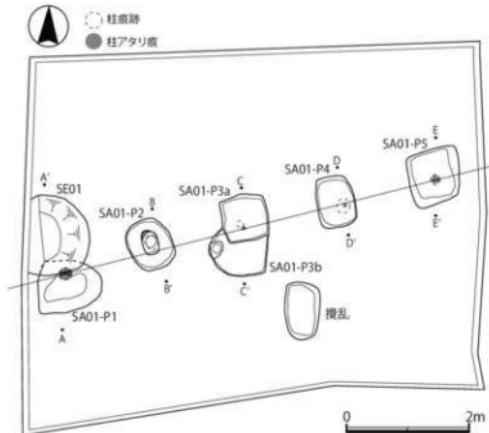
(1) 棚列（SA01） 調査区の中央で検出された（第156図）。柱穴は計5基確認されており、P1が井戸跡SE01により切られている。個々の柱穴の属性は第6表に記載のとおりである。P3bを除きいずれも隅丸方形に近い形を呈しており、1辺が0.8m～1.3mと規模は大きく、深さも0.6m～1.0mと深い。一般的な集落遺跡でみられる平面形状が円形のものとは明らかに異なり、官衙的な様相を呈している。埋設されていた柱の直径は柱痕跡の規模から直径0.25m～0.35mと推定され、柱間

はP1～P3が6尺（1.8m）で、P3～P5 第6表 台渡里官衙遺跡（台渡里第69次） 棚列 SA01 柱穴属性

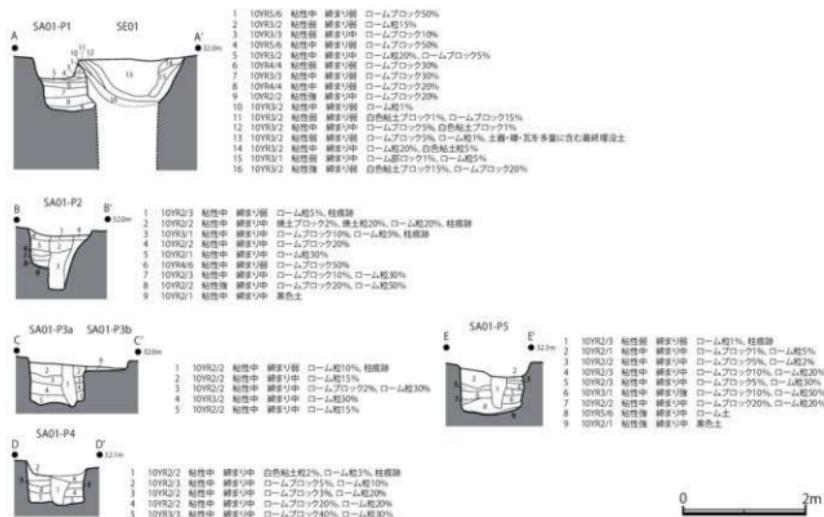
は8尺（2.4m）と異なっている。周辺における既往の発掘調査の成果から、これら5基の柱穴は掘立柱建物跡を構成するものではなく、一直線に続くことが確認されていること、主軸が周辺で確認されている7世紀後半の遺構群と同じであること（第160図）。柱掘り方埋土に7世紀第4四半期に操業していた水戸市山田窯跡群の製品とみられる須恵器が含まれていることから、7世紀後半に造営された棚列であると判断した。

(2) 井戸跡（SE01） 調査区中央の西端で確認された。南北1.75m、東西1.2m以上で、推定直径1.75mである。遺構確認面までが深く、安全確保の観点から0.75m以上の掘削はできなかった。深さは1.8m以上あることをボーリングステッキにより確認している。SA01-P1を切って構築されている。断面は漏斗状を呈しており、人為的に埋め戻されていた。遺物は最終埋没土である1層を中心に覆土上層からまとめて出土した。近世期の遺物が最終埋

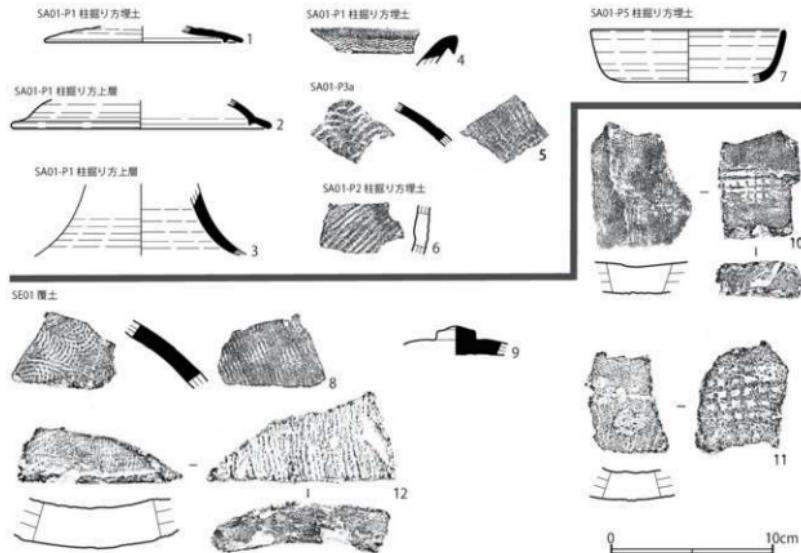
柱穴名	東西長（m）	南北長（m）	深さ（m）	柱痕跡径（m）	平面形
SA01-P1	1.3	1.2	0.87～0.9	0.25	隅丸方形
SA01-P2	0.9	1.05	0.6～1.0	0.35	隅丸方形
SA01-P3a	0.95	0.95	0.7～0.8	0.25	隅丸方形
SA01-P3b	1.2	1.1	0.15～0.19	—	不整形
SA01-P4	0.8	1.05	0.67～0.73	0.25	隅丸方形
SA01-P5	1.05	1.1	0.77～0.83	0.25	隅丸方形



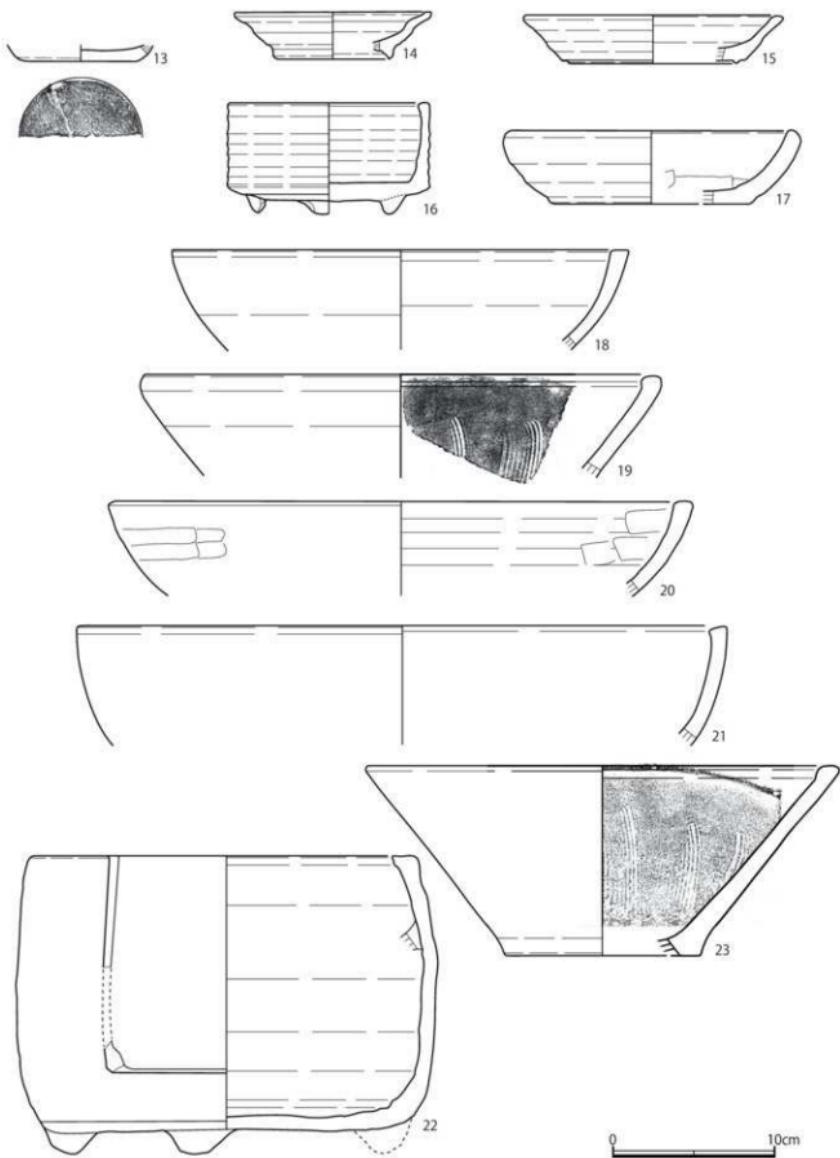
第156図 台渡里官衙遺跡（台渡里第69次） 本発掘調査区遺構配置



第157図 台渡里官街遺跡（台渡里第69次）SA01柱穴土層断面



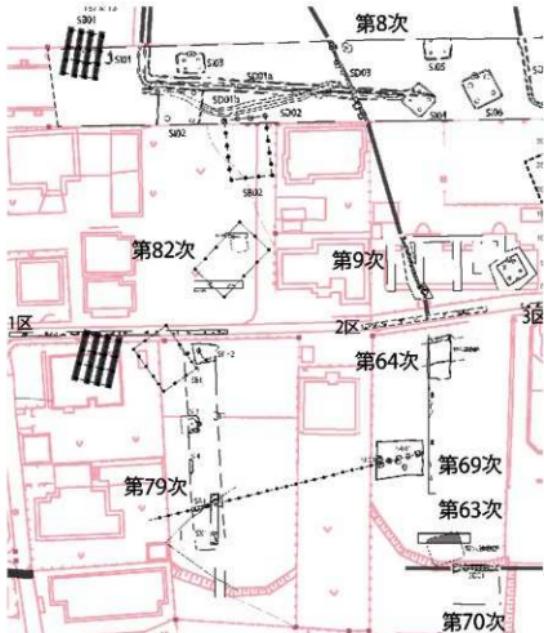
第158図 台渡里官街遺跡（台渡里第69次）出土遺物①



第159図 台渡里官衙遺跡（台渡里第69次）出土遺物②

没上である第13層を中心に覆土上層に含まれていることから、中世の井戸跡と考えられ、近世に至って人為的に埋め戻されたと理解される。

(3) 出土遺物 第158図1～7は柵列SA01を構成する柱穴から出土した遺物である。1はSA01-P1柱掘り方埋土から出土した須恵器環蓋である。内面にかえりを有しており、7世紀第4四半期に位置づけられる水戸市山田窯跡群の製品とみられる。2はSA01-P1の柱掘り方上層から出土した須恵器環蓋で、内面にかえりを有しており、7世紀第4四半期に位置づけられるが、胎土に雲母を含んでいることから、新治窯跡群の製品とみられる。3はSA01-P1の柱掘り方上層から出土した短脚環盤の脚部の破片とみられ、近隣で実施した第26次調査の際にも7世紀第4四半期に位置づけられるT5-001号遺構(窪穴建物跡)から出土している(川口・渥美編 2007)。4はSA01-P1の柱掘り方埋土から出土した須恵器表の口縁部片である。折り返し口縁になっており、口唇直下に4条の柳描き波状文が施紋されている。5はSA-1-P3aから出土した須恵器表の胴部片で、凸面には擬格子状叩きが、内面には青海波文が施紋されている。同様の製品は水戸市山田窯跡群の須恵器表にもみられる事から、7世紀第4四半期の製品とみられる。6はSA01-P2柱掘り方埋土から出土した土師器の表である。外面には粗い平行叩き痕が施されている。7はSA01-P5柱掘り方埋土から出土した須恵器無台环である。同様の製品は水戸市山田窯跡群第2号窯の須恵器にもみられる事から、7世紀第4四半期の製品と考えられるが、山田窯跡群第2号窯の製品には高台が剥落した痕跡があり、有台环の可能性もある。第158図8～第159図23は井戸跡SE01から出土した遺物である。8は須恵器表の胴部片である。外面には格子叩き痕、内面には青海波文が施紋されている。同様の特徴を持つ須恵器表は水戸市山田窯跡群の須恵器表にもみられる事から、7世紀第4四半期の製品とみられる。9は須恵器環蓋である。胎土は灰黄色を呈しており、薄緑色の自然釉の付着が認められる。こうした特徴は水戸市木葉下窯跡群の須恵器にはみられず、静岡県湖西市の湖西窯跡群の製品である可能性が高い。7世紀末～8世紀初頭頃の製品と考えられる。10～12は平瓦である。10と11は凸面に正格子叩き痕が残されているのに対し、12は凸面に長櫛叩き痕が残されている。10は門面に枠板压痕の一部が見られる事から、桶巻作りによる製品



第160図 台渡里官衙遺跡(台渡里第69次)周辺における遺構の確認状況



写真 183 遺構検出状況（南西から）



写真 184 SA01-P1 完掘状況（南から）



写真 185 SA01-P2 土層断面（西から）



写真 186 SA01-P2 完掘状況（北から）



写真 187 SA01-P3a・P3b 土層断面（西から）



写真 188 SA01-P3a・P3b 完掘状況（北から）



写真 189 SA01-P4 土層断面（西から）



写真 190 SA01-P4 完掘状況（北から）



写真 191 SA01-P5 土層断面（西から）



写真 192 SA01-P5 完掘状況（北から）



写真 193 SE01 土層断面（東から）



写真 194 遺構完掘状況（東から）

と考えられる。12は台渡里官衙遺跡群での出土例から一枚作りによる製品と考えられる。

(川口)

今次調査でSE01から出土した中～近世遺物のうち、11点を図示した。詳細は観察表（第7表）を参照されたいが、内耳土鍋の可能性のある土器類（17・18・20・21）、カワラケ（13）、風呂（22）等の土器類が目立つ。また瀬戸・美濃産陶器皿（14・15）や擂鉢（19・23）等も出土している。これらの遺物群は、中世末～近世初頭のものと近世（18世紀以降か）のものとに大枠でグルーピングできる。すなわち前者が14・17～21・23で、後者が13・15・16・22である。おおむね日常雑器に属する器種が多く、中近世農村における遺物組成の一端を窺うことができよう。

(川口・岡口)

3-4 台渡里官衙遺跡（台渡里第70次）

所在地 水戸市渡里町字前原 2865番地

調査面積 68.0 m²

調査期間 平成22年10月2日～平成22年10月15日

検出遺構 溝跡1(古墳終末期～奈良時代)

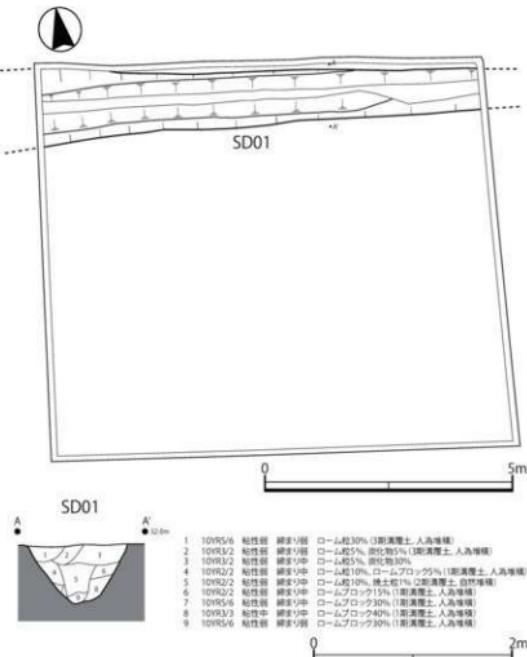
出土遺物 土師器・須恵器(古墳時代終末期～奈良時代)

調査担当 色川順子

調査概要 埋蔵文化財に影響がある申請建物建築部分を調査対象範囲とし、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削したところ、東西方向に走る溝跡1条が検出された(第161図)。

(1) 溝跡(SD01) 調査区の北端で検出された(第161図)。進行方向は東西を向いており、トレッチャによる攪乱が著しく及んでおり、遺存状況は良くなかったが、上面幅1.0m～1.8m、底面幅0.15m～0.45m、深さ0.53m～0.69mを計り、断面は逆台形状を呈する。覆土は9層に分層され、その埋没状況から少なくとも3回の掘り直しが行われていることが想定され、最終埋没土(層～層)には炭化物が認められることから、周辺に存在した建物等が火災により焼失している可能性が考えられる。遺物は7世紀第4四半期から8世紀初頭頃の遺物が覆土中より出土していることから、7世紀第4四半期に構築され、8世紀初頭には埋没していると考えられる。現在のところ、このSD01の延長部は周辺における調査では確認されていない(第164図)。(川口)

(2) 出土遺物 第162図1～5はSD01の東区上層から出土した須恵器である。1は須恵器環蓋の摘み部で、環状鉢に分類されるものである。2～4は須恵器环蓋であり、2～3は内面に短いかえりを持つものでかえりの稜はシャープである。4は端部を折り返し、外面に面を形成する形状のものである。5は長頸壺の口縁部と考えられ



第161図 台渡里官衙遺跡（台渡里第70次）本発掘調査区遺構配置

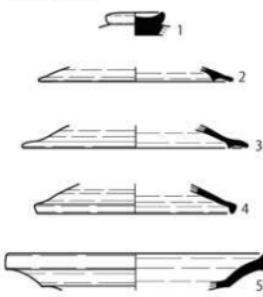


写真 195 SD01 遺構検出状況（南から）



写真 196 SD01 土層断面（西から）

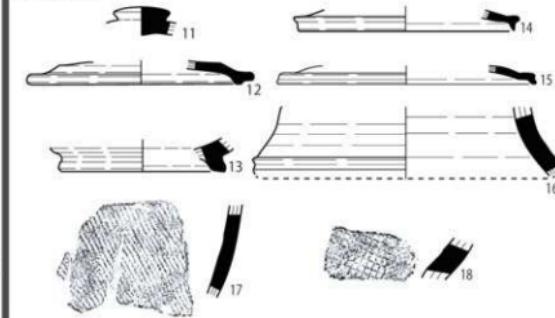
SD01 東区上層出土



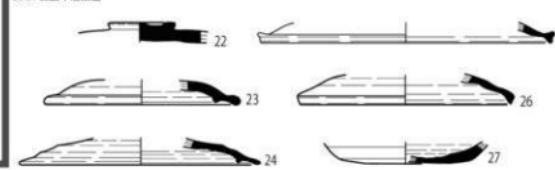
SD01 東区下層出土



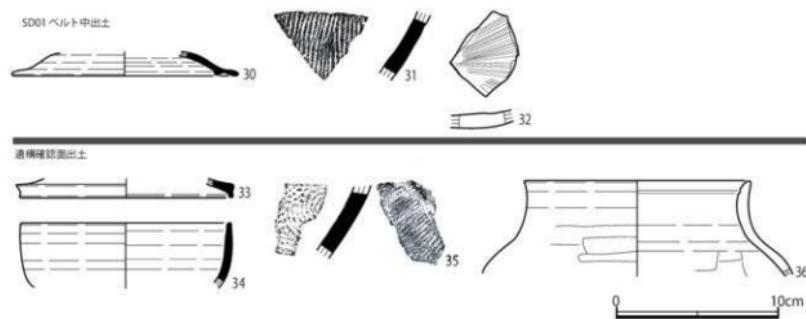
SD01 西区上層出土



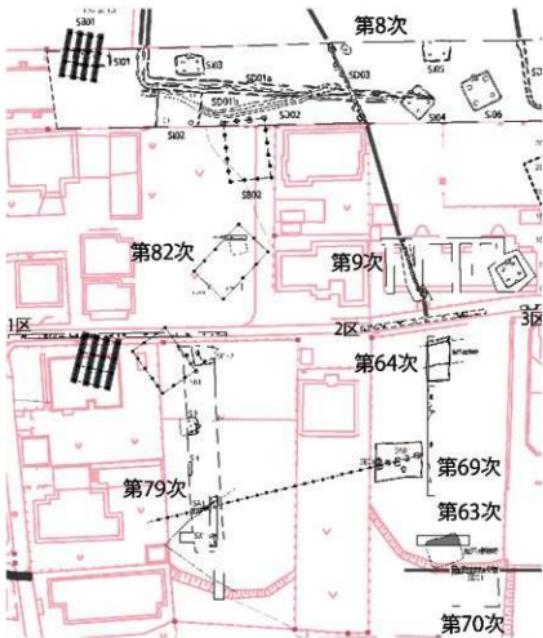
SD01 西区下層出土



第 162 図 台渡里官衙遺跡（第 70 次）SD01 出土遺物



第163図 台渡里官衙遺跡（第70次）SD01及び遺構確認面出土遺物



第164図 台渡里官衙遺跡（第70次）周辺における遺構の確認状況

る破片で湖西窯跡群産の可能性がある。1と3は胎土に雲母を含むことから新治窯跡群の製品とみられ、それ以外は雲母を含まないことから、2は山田窯跡群、4は木葉下窯跡群の製品とみられる。

5～10はSD01の東区下層から出土した須恵器で、6～8は須恵器环蓋で、9は無台环としたが、低脚もしくは高台が付く有台环の可能性もある。10は外面に同心円文叩きが施された須恵器甕である6～9は胎土に雲母を含ます。6・7は山田窯跡群、8・9は木葉下窯跡群の製品とみられる。10は胎土に雲母を含むことから新治窯跡群の製品と考えられる。

11～20はSD01西区上層から出土した須恵器と土師器である。11は須恵器环蓋の摘まみ部で宝珠状だが、丸みを帯びているうえにかなり扁平に近い形状となっている。12～15は須恵器の环蓋で、12は内面にかえりを持つが、かえりの後はシャープさを失い丸みを帯びている。14は端部を下方へ短く屈曲させ、端部外面上部が稜を持って突出する形状であるのに対し、15は外面に面を形成する形状のものである。13は須恵器有台环の高台部である。16は須恵器円面鏡の脚部片と考えられる資料で、刻線や方形通しは見られない。17～20は須恵器甕の脚部片で、17・19・20は外面に擬格子状叩きが、18は正格子叩きが施されている。21は土師器甕の底部片で脚部と底部の境界はヘラ削り調整が施されている。胎土に雲母を含むことから、12と20は新治窯跡群と筑波山南麓地域の製品とみられ、それ以外は雲母を含まないことから、山田窯跡群もしくは木葉下窯跡群の製品とみられる。22～29はSD01西区下層から出土した須恵器である。22～26は須恵器环蓋で、22は環状鉢を呈する摘まみ部である。23・24は内面にかえりを持つが、23は24に比べるとかえりの稜がシャープさを失っており、丸みを帯びている。25は端部を下方へ短く屈曲させ、端部外面上部が稜を持って突出する形状のものであるのに対し、26は外面に面を形成する形状のものである。27は底部がやや突出する須恵器無台环である。28は脚付長頸甕の脚部から頸部にかけての破片である。29は須恵器甕の脚部片で、内面に同心円文の当て具痕が、外面には平行叩きの痕跡がみられる。胎土に雲母を含むことから、22～27は新治窯跡群の製品とみられ、それ以外は雲母を含まないことから、山田窯跡群もしくは木葉下窯跡群の製品とみられる。

第163図30～32はSD01のセクションベルト中より出土した須恵器と土師器である。30は須恵器环蓋で、内面にかえりを有するが、かえりの稜はやや丸みを帯びている。胎土に雲母を含むことから新治窯跡群の製品とみられる。31は須恵器甕の脚部片で外面には擬格子状叩きの痕跡がみられるが、胎土に雲母を含まないことから、山田窯跡群もしくは木葉下窯跡群の製品とみられる。32は赤褐色を呈する土師器環の底部片で、内面にはミガキ調により放射状の暗文が描かれている。

33～36は遺構確認より出土した須恵器と土師器である。33は須恵器环蓋で端部を下方へ短く屈曲させ、端部外面上部が稜を持って突出する形状のものである。34は須恵器無台环もしくは有台环の口縁部～脚部片である。35は須恵器甕の脚部片で、内面には同心円文の当て具痕が、外面には平行叩きの痕跡がみられる。33～35はいずれも胎土に雲母を含まないことから、山田窯跡群もしくは木葉下窯跡群の製品とみられる。36は土師器の甕の口縁部～脚部上半部の破片である。

(川口)

3-5 堀遺跡（第22地点第2次）

所 在 地 水戸市渡里町字高野台 3307番20

開発面積 65.3 m²

調査期間 平成22年9月9日～10月2日

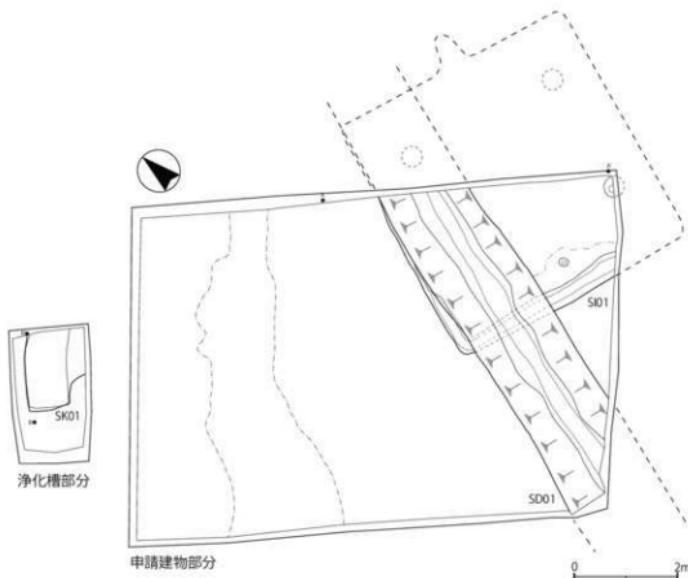
検出遺構 竪穴建物跡1（古墳終末期）、溝跡1（平安時代）、土坑1（時期不明）

出土遺物 土師器・須恵器（古墳時代終末期～平安時代）、瓦（奈良・平安時代）

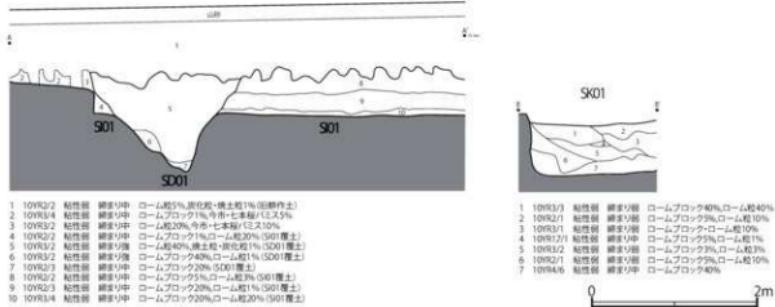
調査担当 川口武彦

調査概要 埋蔵文化財に影響がある申請建物建築部分を調査対象範囲とし、関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削したところ、南北方向に走る溝跡1条とそれに切られる竪穴建物跡1軒、時期不明の土坑1基が検出された（第165図）。

(1) 竪穴建物跡(SI01) 申請建物部分の北東で部分的に検出された。溝跡SD01と重複しており、SD01に切られている。東西5.7m以上、南北4.7m以上と推定され、調査区の北東隅で検出された支柱穴とみられる1基のビットと西壁の位置関係を考慮すると、東西6.6m、南北7.0m程度の規模と推定される。東西の柱間は4.2m(14尺)、南北の柱間は3.3m(11尺)と推定され、南壁に近い位置に出入り口ビットとみられる直径0.2mほどのビットが検出されている。出入り口ビット周辺は硬化しており、一定程度の期間、使用されたとみられる。壁の深さは0.5～0.6mで（第166図）、壁溝が南側から南西部にかけて掘られていた。幅は0.19m～0.28mで深さは0.1mほど



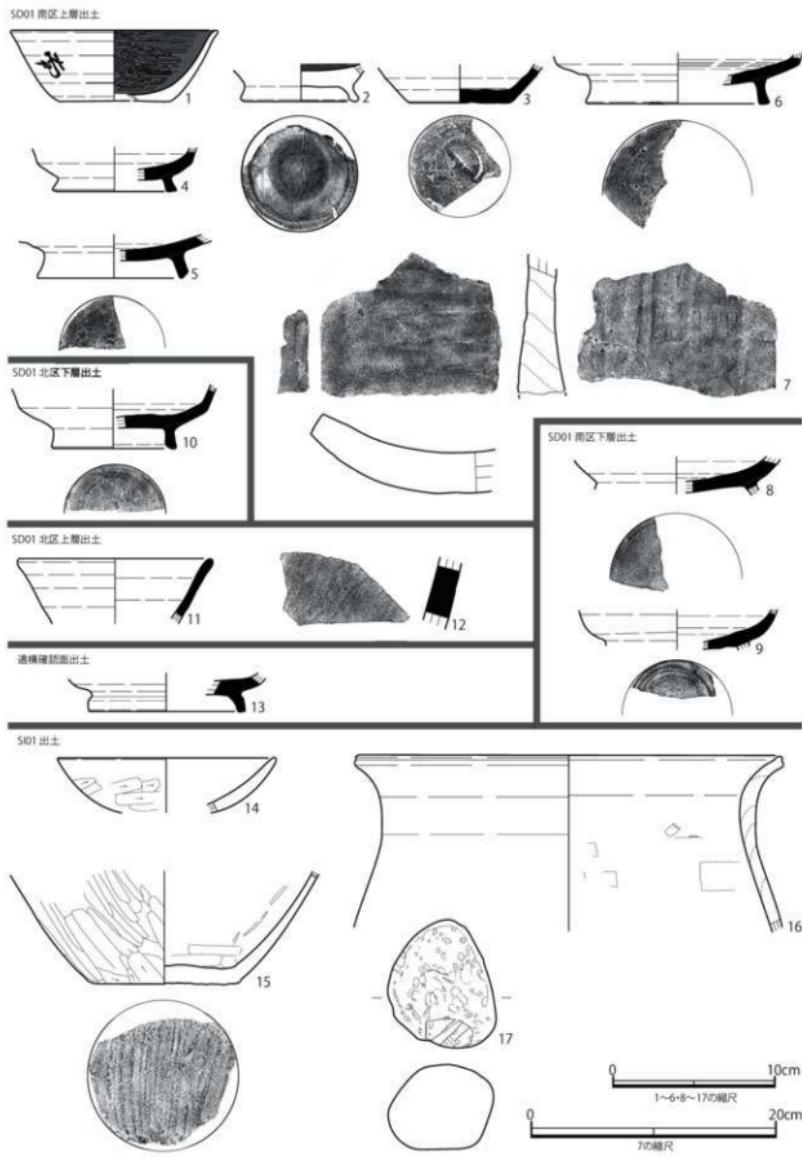
第165図 堀遺跡（第22地点）本発掘調査区遺構配置



第166図 堀遺跡（第22地点）本発掘調査区土層断面

である。覆土は6層に区分され、人為堆積である。時期については、出土している土器から7世紀後半の堅穴建物跡と推定される。

(2) 溝跡（SD01） 申請建物部分の東側で検出された。SI01と重複しており、SI01の一部を壊して構築されている（第165図）。上面幅1.68m～1.88m、中面幅0.44m～0.7m、底面幅0.2m～0.4m、深さ1m～1.15mを測り、断面は築研状を呈する（第166図）。主軸方位はN-14°-Eである。覆土は3層に区分され、遺物は下層よりも上層に集中して出土した。出土遺物の技術的・形態的特徴から、9世紀第2四半期以前に構築され、9世紀第2四半期～第4四半期にかけて徐々に埋没していったと考えられる。なお、本遺構については、隣接する堀遺跡（第9地点）における既往の調査成果とも照合し、9世紀以降に造営された官衙関連施設に伴う区画溝と評価している（川口・米川・



第167図 堀遺跡（第22地点）出土遺物

源美・閑口 2020)。

(3) 土坑 (SK01) 清化槽埋設部分で検出された。東西 1.2m 以上、南北 1.5m 以上、深さ 0.6 ~ 0.65m である。遺物については図化に耐えうる資料はなく、構築時期は未詳である。

(4) 出土遺物 第 167 図 1 ~ 7 は S101 との重複部分よりも南側の南区上層からの出土遺物、8 ~ 9 は南区下層からの出土遺物、10 は S101 との重複部である北区下層からの出土遺物、11 ~ 12 は北区上層からの出土遺物である。

1 は内面黒色処理が施された土師器環である。内面は横位・斜位方向の細かなヘラミガキが丁寧に施されており、外面はロクロ水挽整形痕が残されている。体部外面には「南□」の文字が横位方向に墨書きされている。9世紀第3 ~ 第4四半期頃の製品であろう。2 は内面黒色処理が施された土師器の高台付环の底部片である。外面はロクロ水挽整形痕が遺されている。1 と同様、9世紀第2 ~ 第3四半期頃の製品であろう。3 は須恵器無台环である。内外面ともにロクロ水挽整形痕がみられ、底面と体部の部分は未調整。底面は回転ヘラ切りの後、ヘラ記号がヘラ書きされている。胎土にチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品とみられ、技術的・形態的特徴から 9世紀第3四半期頃のものと考えられる。4 ~ 5 は須恵器有台环で、いずれも内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。4 は内面に降灰釉がみられ、焼成時に正位に置かれたと考えられる。5 は内面に墨の付着がみられることから、破損後に硯として再利用されたとみられる。6 は須恵器高台付盤で内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。4 ~ 6 はいずれも胎土に海綿状骨針やチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品と考えられる。7 は軒平瓦である。瓦当文様は剥落により欠失しているが、断面形状から直線蟹で、泥条盤築技法による製品とみられる。凸面側は縦方向のヘラ削り調整が、凹面側は粘土紐のつなぎ目をナデ消す横方向のナデ調整が施されている。台渡里唐寺跡出土瓦の類例等から、3290 型式もしくは 3291 型式に分類される交差線文式軒平瓦であった可能性が高い。

8 ~ 9 は須恵器有台环である。いずれも内外面にはロクロ水挽整形痕がみられ、8 は底部に墨の付着がみられることから、破損後に硯として再利用されたとみられる。9 は底面にヘラ記号の一部が認められる。いずれも胎土にチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品と考えられる。

10 は須恵器有台环で、内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。内面に降灰釉がみられ、焼成時に正位に置かれたと考えられる。内面に顯著な研磨痕がみられ、破損後に硯として再利用されたとみられる。胎土に海綿状骨針やチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品と考えられる。

11 は須恵器無台环である。内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。12 は須恵器甕の胴部片である。外面には幅広の平行叩き痕が、内面には当て具痕はみられない。いずれも胎土に海綿状骨針やチャート礫が含まれることから木葉下窯跡群の製品と考えられる。

13 は遺構確認面より出土した須恵器有台环である。内外面にはロクロ水挽整形痕がみられる。内面に降灰釉がみられ、焼成時に正位に置かれたと考えられる。

14 ~ 17 は S101 からの出土遺物である。14 は土師器の丸底环である。外面は時計回りの方向にヘラ削り調整、内面は横位のナデ調整が施されている。15 ~ 16 は土師器甕である。15 は胴部から底部にかけての破片で、底部は細かなヘラナデ、胴部は縦位・斜位のヘラ削りが施されている。16 は口縁から胴部上半部の破片である。17 は輕石製品である。面取りのような切り欠きが下端にみられる。魚網用の浮子などであろうか。技術的・形態的特徴から 14 ~ 16 の土師器環と土師器甕は 7世紀後半の製品と考えられる。

(川口)

第4章 開発に伴う立会調査

今年度、実施した立会調査のうち遺構・遺物が書くにされたのは2件であった。以下、遺跡毎・地点毎に報告する。

4-1 谷田遺跡（第1地点第2次）

所在地 谷田町 630-1

調査期間 平成22年11月15日

検出遺構 竪穴建物跡5（古墳時代3、平安2）

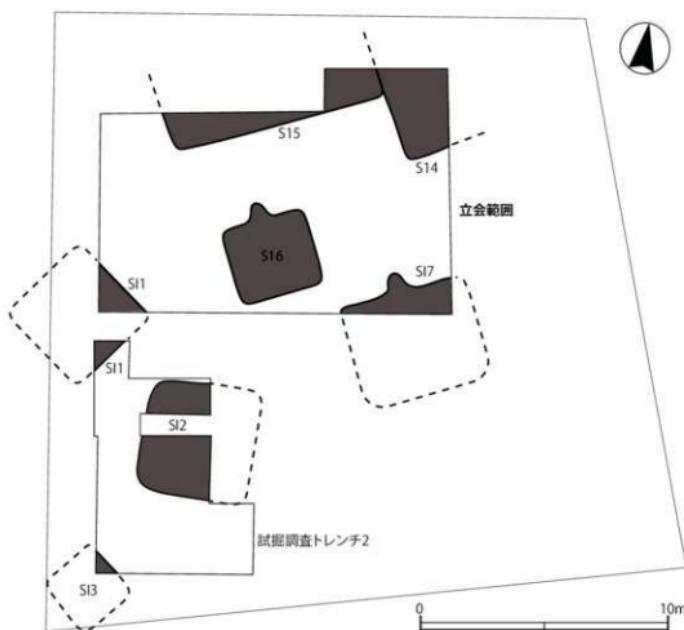
出土遺物 繩文土器（前期・中期・後期）、土師器（古墳前期・後期・終末期・平安）、須恵器（平安）、支脚（平安）

調査担当 米川暢敬

調査概要 試掘調査の結果、工事立会扱いとした申請建物の基礎根切りの際、試掘調査で確認していたSI1の延長部分が検出されたが、設計図よりも掘削深度が深く、SI1以外の未確認の竪穴建物跡が他に4軒検出された。施工業者とその場で協議したが、設計変更は困難であるとの回答で、本来であれば記録保存を目的とした本発掘調査の実施が必要となる旨も伝えたが、1ヶ月以上の工事中止は現実的に困難であることから、根切りを進めながら、可能な限り遺物の回収に努めることとした。遺物を回収し、洗浄・注記・接合を行った結果、SI1を含む古墳時代の竪穴建物跡3軒と平安時代の竪穴建



第168図 谷田遺跡（第1地点）の位置



第169図 谷田遺跡（第1地点第2次）で確認された遺構の配置



写真 197 SI1 挖削状況（北東から）



写真 198 SI4 検出状況・SIS 挖削状況（南東から）



写真 199 SIS 検出状況（南西から）



写真 200 SI6 挖削状況（南西から）



写真 201 SIS 検出状況（北東から）



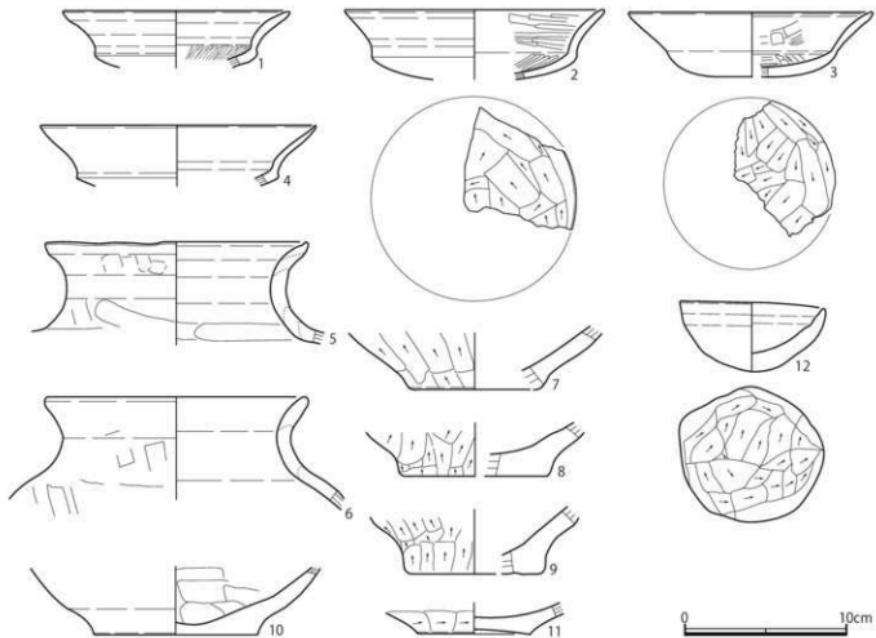
写真 202 SI7 挖削状況（北西から）

物跡が 2 軒重複していた可能性が高いことが判明した。

(米川)

(1) SI1 出土遺物 第 170 図 1 ~ 4 は土師器の环である。いずれも丸底と考えられ、体部に稜を有し、口縁が大きく外反する形態となる。内面は丁寧なヘラミガキ、底部外面はヘラ削りが施されている。1・3・4 が橙系の色調であるのに対し、2 は暗灰黄系の色調である。5 ~ 11 は土師器の裏である。5 ~ 7 が口縁～頸部で、8 ~ 11 は底部である。外面はヘラナデやヘラ削りが施され、特に底部にはヘラ削りの痕跡が特徴的にみられる。10 は被熱しており、器面の剥落が著しい。12 は丸底の碗である。底部外面はヘラ削りが施されている。以上の遺物の技術的・形態的特徴から、SI1 は 5 世紀後葉～6 世紀前葉くらいに帰属すると考えられる。

(2) SI4 出土遺物 第 171 図 13 は弥生土器の壺形土器の口縁～頸部片である。上部は折り返し口縁状となっており、単節 RL 繩文が横位に回転施文されている。その直下には板状工具で波状文と縦位区画文を描いている。十王台 2b 式に分類されるもので、古墳時代前期の土師器と共に作成したものと考えられることから、SI4 は古墳時代前期前葉に



第170図 谷田遺跡（第1地点第2次）SI1出土遺物

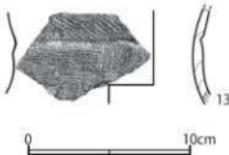
帰属する可能性がある。

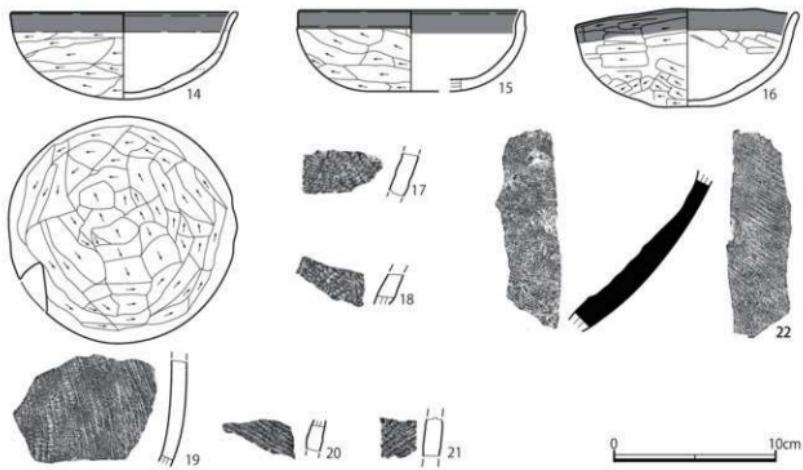
(3) SI5出土遺物 第172図14～16は金属器模倣の土師器環である。いずれも底部は丸底で、外面は反時計回りの方向に丁寧なヘラ削り調整を施し、形を整えている。口縁部は外反せずに垂直に立ち上がるか、僅かに外反する。口縁の内外面には漆を塗布した痕跡が顕著に残されている。このような技術的・形態的特徴を有する土師器環は7世紀前葉に特徴的に見られることから、SI5は7世紀前葉に帰属する可能性が高い。17～22はSI5に伴う遺物ではないが、ここで取り扱うことにして。17～21は縄文土器の深鉢形土器の胸部片で、17は胎土に繊維を含むことから前期中葉の黒浜式。18は縦位の沈線文による磨り消し繩文が施されていることから、中期後葉の加曾利E式。19～21は目の細かい繩文が回転施文されており、後期前葉の堀之内式土器の粗製土器ではないかと考えられる。22は須恵器縄の胸部片で、外面には斜位の平行線文叩きの痕跡が残されており、内面には當て具痕が見られない。胎土に丸底か平底かは不明だが、丸底のものであった場合には、8世紀第1四半期～第3四半期に、平底のものであった場合には、8世紀第4四半期～9世紀第2四半期に位置づけられる（佐々木 2001）。

(4) SI6出土遺物 第173図23は土師器の环である。内面

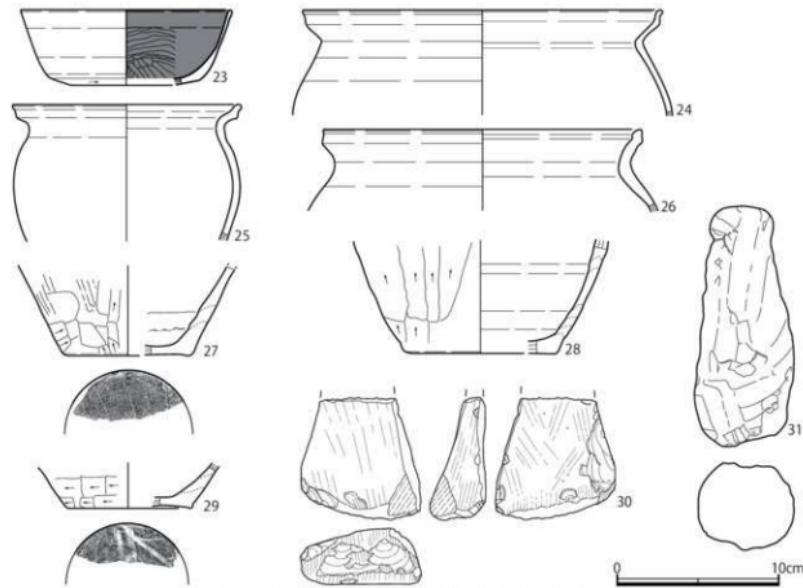
は丁寧なヘラミガキ調整が施された後、黒色処理が施されている。底部は時計回りの方向に回転ヘラ削り調整が施され、二次底部面を作りだしている。26～29は土師器の縄で、25～26は口縁部が残存しているのに対し、27～29は底部が残存している。ロクロ水挽成形によるもので、底部に近い胸部下半はヘラミガキやヘラ削り調整が施されている。

30は砥石である。撥形を呈するもので、上半部は欠失している。左右両側面・底面には顯著な研磨の痕跡が認められる。第171図 谷田遺跡（第1地点第2次）SI4出土遺物

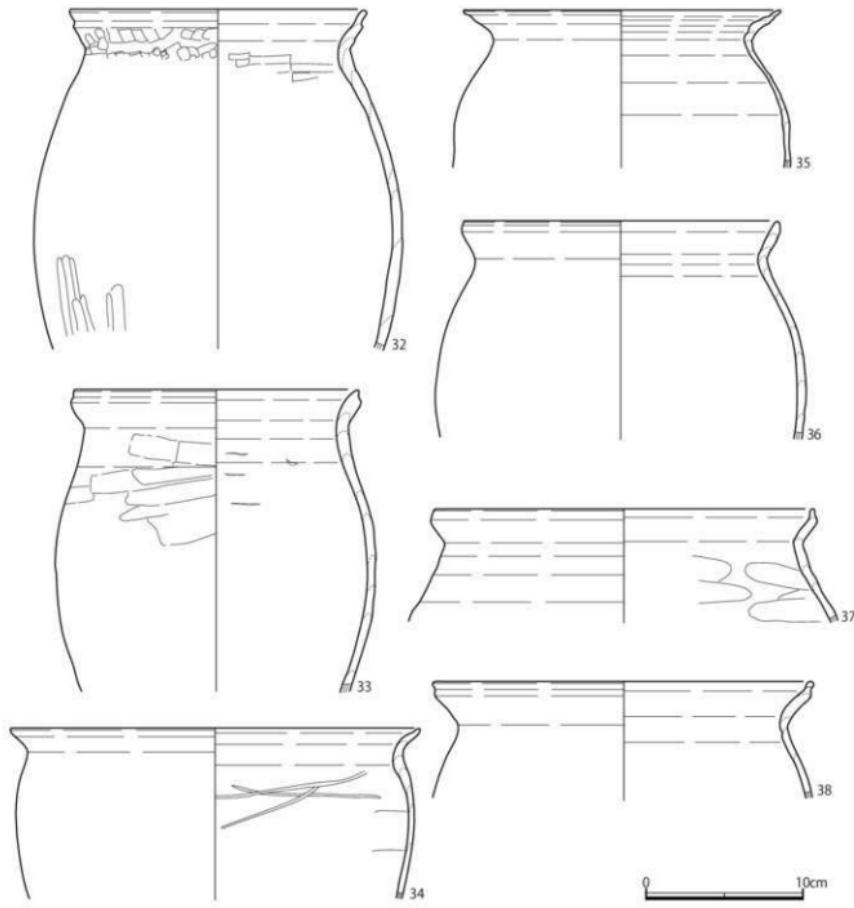




第172図 谷田遺跡（第1地点第2次）SI5出土遺物



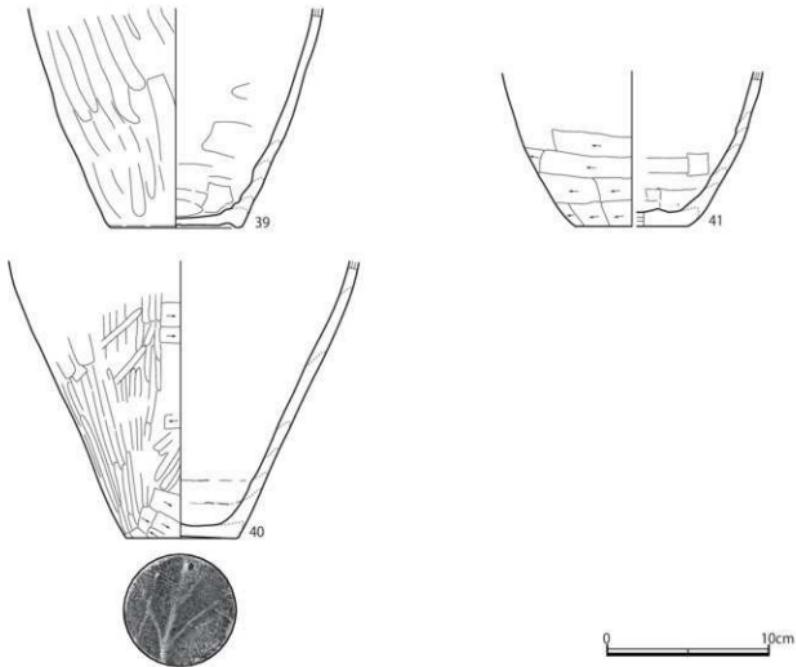
第173図 谷田遺跡（第1地点第2次）SI6出土遺物



第174図 谷田遺跡（第1地点第2次）SI7出土遺物①

石材は不明だが、板状に割れる片岩系の石材である。31は土製の支脚で全面被熱している。23の环の技術的・形態的特徴からSI6は9世紀第4四半期頃に位置づけられる。

(5) SI7出土遺物 第174図32～第175図42は土師器の甕である。32～38は口縁～頸部までが残存しており、39～42は底部が残存している。ロクロ水挽成形によるもので、底部に近い胴部下半はヘラミガキやヘラ削り調整が施されている。32～36・37は9世紀の第1四半期～第4四半期のいずれかに位置づけられる可能性が高く、36・37は他のものと口唇部の断面形状が異なっており、時期がやや降る可能性がある。
(米川・川口)



第 175 図 谷田遺跡（第 1 地点第 2 次）SI7 出土遺物②

4-2 水戸城跡（第7地点第27次）

所在地 三の丸1丁目6-29（旧弘道館）

調査期間 平成23年1月12日

検出遺構 なし

出土遺物 磁器・瓦（近世）

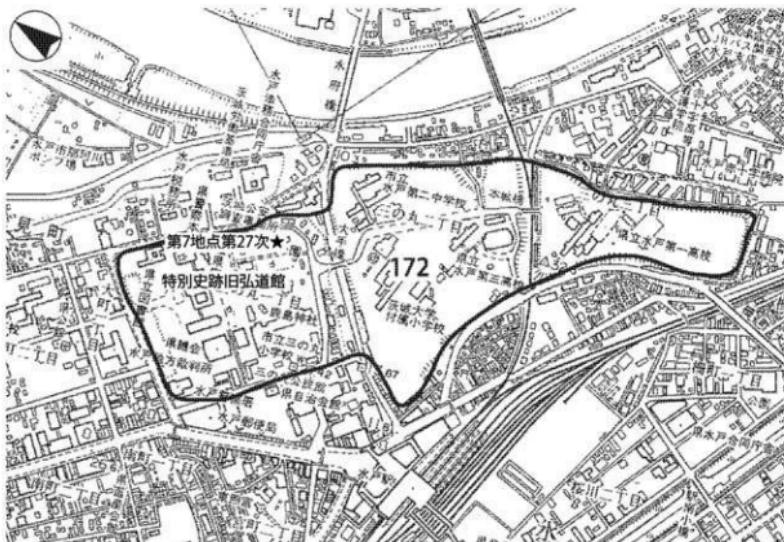
調査担当 涼美賀吾

調査経緯 特別史跡内にある藤棚（第177図）の柱脚の根元が腐食しており、倒壊の恐れがあったため、これを除却し、新しい柱脚に取り替える工事と正門前門扉の取替え工事が計画された。当該工事は、文化財保護法施行令第5条第4項に記載されている「ハ 工作物（建築物を除く。以下このハにおいて同じ。）の設置若しくは改修（改修にあつては、設置の日から五十年を経過していない工作物に係るものに限る。）又は道路の舗装若しくは修繕（それぞれ土地の掘削、盛土、切土その他土地の形状の変更を伴わないものに限る。）」の前者に該当することから、水戸市教育委員会教育長の権限で許可を行うこと出来る現状変更であった。平成22年9月15日付公街第254-1号にて特別史跡の現状変更許可申請書が水戸市教育委員会教育長へと提出され、平成22年9月29日付教文指令第47号にて現状変更の許可を受けた。現状変更工事は、平成22年10月25日から平成23年2月17日の期間に行い、工事終了後、平成23年3月7日付公街第497号にて現状変更終了届が水戸市教育委員会教育長へと提出された。

(1) 調査の概要 藤棚の既存の柱脚のうち、掘削を伴うものが5本あり、掘削作業の際に立会調査を行った。掘削はいずれも埋設に伴う搅乱内に止まっていたが、搅乱土中から磁器と瓦が出土した。（涼美）

(2) 出土遺物 第178図1は磁器の碗である。丸碗Aに分類されるもので、透明釉が掛けられ、疊付は無釉。染付で外面には折枝文、高台脇には如意頭文、高台には二重團線が描かれている。肥前產と推定され、1680年代～1700年代の年代が与えられる。2は磁器の便利で、逆蘆形を呈するものと考えられる。透明釉が掛けられ、疊付は無釉、内面も無釉である。外面は高台内に白泥が全面に塗布され、文様は描かれていない。高台内にはハリ痕が1箇所認められ、内面には砂の付着が認められる。七面製陶所産と推定され、1838（天保9）年以降の年代が与えられる。胎土は極めて良質で、いわゆる「精製七面焼」（岡口・涼美・米川編 2017）に分類されるものである。

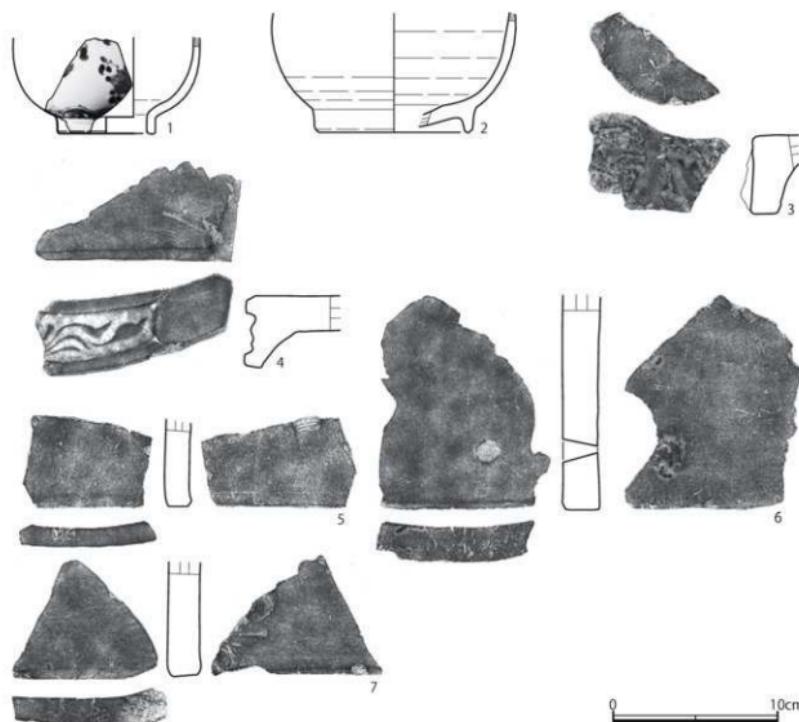
3・4は小丸軒桟瓦である。いずれも板作り・型當て・型押成形によるもので、焼しがある。3は小丸瓦当部を欠



第176図 水戸城跡（第7地点第27次）の位置



第177図 水戸城跡（第7地点第27次）立会箇所の位置



第178図 水戸城跡（第7地点第27次）出土遺物

損している。いずれも生産地は不明だが、1841 年前後以降の年代が推定される。5・7 は板状の瓦で、いずれも板作り・型当て成形によるもので、焼しがある。端面に刻印「丸に安」が押印されている。こうした端面に刻印「丸に安」が押印されている瓦は、特別史跡旧弘道館内において実施した水戸城跡（第 7 地点第 13・15 次）や水戸市立第二中学校の校舎建替工事に伴う発掘調査（第 4 地点第 6 次・18 次）においても出土が確認されている（川口・色川編 2010）。6 は平瓦で、板作り・型当て・型押成形によるもので、焼しがある。5・7 と同様に生産地は不明だが、1841 年前後以降の年代が推定される。

（源美・間口）

第5章 開発に伴う現地踏査

国指定史跡「愛宕山古墳」、国指定史跡「台渡里廐寺跡」、四又入窓跡、藤井町遺跡において現地踏査を行った際、遺物が採集された。以下、遺跡毎に報告する。

5-1 愛宕山古墳

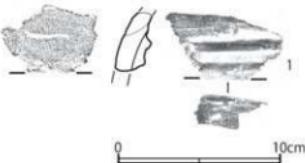
所在地 水戸市愛宕町 2133 外

踏査日 平成 22 年度

採集経緯 墳丘上に樹立している危険木の現況確認に伴う踏査。

採集者 渥美賀吾

採集遺物 第 179 図 1 は愛宕山古墳で採集された円筒埴輪片である。外側には M 字形の低凸帯を貼り付けており、凸帯より上部には縱方向の刷毛目が観察される。内側は横向向のナデ調整が施されている。凸帯の下部には方形の透孔の痕跡が認められる。（川口）



第 179 図 愛宕山古墳採集遺物

5-2 台渡里廐寺跡（観音堂山地区）

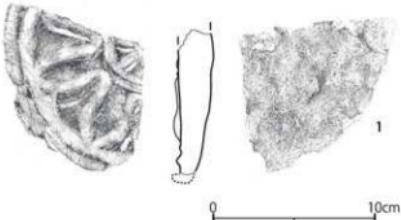
所在地 水戸市渡里町字アラヤ前 2973-3

踏査日 平成 22 年度 5 月 21 日

採集経緯 史跡指定地の現況確認に伴う踏査。

採集者 川口武彦

採集遺物 第 180 図 1 は観音堂山地区の指定地内にある中門付近で採集された軒丸瓦である。瓦当面径 1/4 程度の破片であり、瓦当文様では外区外縁と中心蓮子の部分を欠失している。また、丸瓦部も欠失している。周縁蓮子は扇状を呈し、劍状の花弁とサメの歯状の間弁は丸みを帯びている。それぞれの部位の形状及び瓦当文様構成の特徴から 3127A 型式（川口・渥美・木本編 2009）と考えられる。（川口）



第 180 図 台渡里廐寺跡採集遺物

5-3 四又入窓跡群

所在地 水戸市木葉下町 271 付近墓地

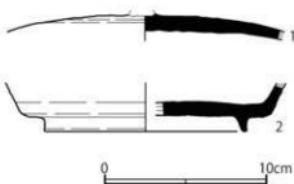
踏査日 平成 22 年度

採集経緯 埋蔵文化財包蔵地の現況確認に伴う踏査。

採集者 渥美賀吾

採集遺物 第 181 図 1・2 は採集された須恵器である。1 は、壺蓋である。摘まみ部や端部を欠失しているが、2 の有台环の口径と近い大きさとみられることから、有台环の蓋である可能性が高い。

2 の有台环は口縁部を欠失しているが、高台の形状から佐々木義則氏による木葉下窓跡群須恵器有台环の分類（佐々木 2013）の C1 類に分類されるもので、8 世紀後半期～第 3 四半期頃に位置づけられるものである。（川口）



第 181 図 四又入窓跡群採集遺物

5-4 藤井町遺跡

所 在 地 水戸市藤井町地内

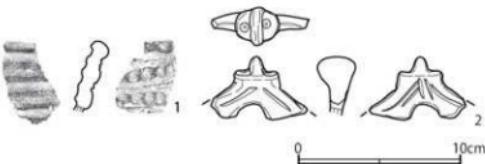
踏 查 日 平成 22 年度

採集経緯 開発行為に伴う現地踏査。

採 集 者 潤美賀吾

採集遺物 第 182 図 1・2 は採集された縄文土器である。1 は加曾利 B 式の粗製深鉢形土器である。外面には横走する細い沈線が巡らし、その間に隆帯を貼り付け、指頭を押しつけて連続する押圧隆帶が施されている。内面には 5mm 幅の

横走する沈線が 3 条巡らされている。2 は加曾利 B1 式新段階の 3 単位の把手を持つ精製深鉢形土器である。外面中央には 2 対の弧線文が配置され、それに向かう長い弧線文が描かれている。内面にも同様の長い弧線文が描かれしており、丁寧に磨きが施されている。把手部分は梢円形を呈し、中央に半円状の突起を配置し、左右に直径 4.5mm 程度の竹管状工具で円形の刺突文が配置されている。



第 182 図 藤井町遺跡採集遺物

(川口)

第7表 土器・陶磁器・瓦・土製品・ガラス製品観察表

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形				法量 (cm)	観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等	
				細別	口径	底径	器高								
4	1	金剛寺遺跡 (第8地点)	トレンチ1・溝跡	土器・不明	—	—	(2.0)	輪輪成形／外 面に輪目(5 本以上)／土 師質	—	砂粒(白 多・透少)	良好	2.5Y5/2(暗 灰黄)		产地不明 近世以降	
13	1	大井古墳群 (第1地点 第2次)	トレンチ1 縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.6)	—	外面上には水平 方向の輪帶を貼 り付け、水平方向 の輪帶上に波状工 具による刻み。内面 には貝造織縫による 斜め条痕	—	砂粒(白 多・透多)	良好	5YR6/6(橙) 5YR7/8(橙)		早期後半	
	2			弥生土器・ 壺	—	—	(2.9)	—	上部には4条 単位の波状工 具による波状文。 下部には回転推文によ る斜め条文	—	砂粒(白 多・透)	良好	7.5YR7/6(橙) 10YR7/4(に ぶい黄橙)		後期(十 王台式)
	3			トレンチ1・ 地下式坑 覆土上層	土師器・高 台付櫛	—	(2.3)	—	輪輪成形／高 台部貼付／底 部回転糸切り	—	砂粒(白 多・透多)	良好	10YR4/2(灰 黄褐)		9世紀第 4四半期
	4			土師器・碗	(14.1)	6.4	4.3	輪輪成形／底 部回転ヒラカ リ	55	砂粒(白 多・黒・ 透)	良好	10YR7/4(に ぶい黄橙)		10世紀第 1四半期	
	5			トレンチ1・丸瓦	全長 (4.7)	厚さ 2.1	重量 180g	凸面平行引き 後、ヘラ削り、 凹面布目無段式 の筑地部割き	—	砂粒(白 多・透多)	堅緻	2.5Y5/2(暗 灰黄)		奈良	
	6			トレンチ1・陶器・天目茶 碗	地下式坑 床面	11.8	4.4	6.1	輪輪成形／削 り出し高台／光沢のある茶 色の鉄釉、体 下部半は粗胎	99	砂粒(白 多)	硬質	2.5Y4/3(オ リーブ褐)		15世紀末 ～16世紀初頭 (大室 4期未央)
	7			トレンチ1・陶器・甕	地下式坑 覆土上層	—	(16.4)	(3.0)	輪輪成形／底 部のみ残存、 内面見込み輪目	—	砂粒(白 多)	硬質	2.5Y4/3(オ リーブ褐)		常滑 中世末
16	1	渡里町遺跡 (第11地点)	トレンチ2 表土	平瓦	全長 (7.4)	厚さ 2.4	重量 224g	凸面正格子引 き、凹面布目、 桶巻き作りか	—	砂粒(白・ 赤・透)	普通	10YR7/3(に ぶい黄褐)		奈良・平安	
	2		トレンチ1 硬化面	土師質土器・ 土鍋	(25.0)	—	(3.5)	輪輪成形／外 曲口ローラー文	—	砂粒(白 多・透)	良好	5YR4/6(橙) 5YR6/6(橙)		在产地カ シ近世	
	3		瓦質土器・ 火鉢	(21.4)	—	(4.3)	—	輪輪成形	口径 16	砂粒(白 多・透)	良好	7.5Y4/1(灰) 7.5Y3/2(オ リーブ黒)		在产地カ シ近世	
	4		瓦質土器・ 火鉢	—	(16.5)	(4.1)	—	輪輪成形／底 部切後ヘル ナテ	底径 23	砂粒(白 多・透)	良好	7.5Y4/1(灰) 7.5Y3/2(オ リーブ黒)		在产地カ シ近世	
	5		トレンチ2	磁器・小杯・ 薄手酒杯	(7.0)	—	(2.4)	輪輪成形／透 明釉	—	—	—	—	—	瀬戸・美濃 1820年代以	
	6		磁器・瓶・型 紙給付瓶	(12.0)	—	(3.7)	—	輪輪成形／型 紙給付／外面 菊文・花卉文、 内面口輪部瓈 塔文	—	—	—	—	—	产地不明 1870年代～	
	7		磁器・湯飲み み輪カ	(7.8)	—	(5.5)	—	輪輪成形／給付 (朱・黒)、口輪 外面部に花卉文、 内面部湯文、 内外面貫入あり	—	—	—	—	—	产地不明 近代	
19	1	渡里町遺跡 (第12地点)	トレンチ 一括	磁器・有台杯	—	7.8	(2.3)	内外面口クロ 水挽整形	底径 56	砂粒(白 多・黒多)、 骨針	堅緻	5Y5/1(灰) 5Y4/1(灰)		木屋下堂跡南 木屋下堂跡北	
	2		トレンチ 一括	須恵器・环蓋	(18.0)	—	(2.9)	内外面口クロ 水挽整形	口径 15	砂粒(白 多・黒多・ 透)	堅緻	10YR6/1(褐)		木屋下堂跡南 8世紀後半	
	3		扇南端東 側住居覆土	土師器・甕	(16.8)	—	18.0	口輪内外面輪 ナテ、内部輪部 瓈塔文	口径 23	砂粒(白 多・透多)	普通	10YR5/3(に ぶい黄褐)、 7.5YR7/6(橙)		7世紀後半	

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数	出土位置	種別・器形 法量 (cm)				観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等	
				細別	口径	底径	器高							
24	1	赤塚遺跡 (第6地点)	トレンチ1 端反砦A	磁器・碗・ 端反砦A	(9.8)	(4.0)	5.1	輪輪成形／染付／透明釉、口部付無釉 ／外縁部一帯黒漆、青花文、高台盤一帯黒漆、高台二重黒漆、内面 見込み青花文	40	—	—	—	瀬戸・美濃窓 1810年代～ 1820年代	
	2			磁器・碗・ 小丸碗	(7.8)	(3.9)	(5.2)	輪輪成形／染付／透明釉、口部付無釉、外 面松に馬文	30	—	—	—	肥前窓 1760～ 1810年代	
	3			磁器・伝皿	(6.9)	—	(4.2)	輪輪成形／染付／透明釉、脚部付無釉、脚 部一重黒漆、脚部上部一重黒漆、脚部 上部一重黒漆	60	—	—	—	肥前窓 17世紀末～ 19世紀前半	
	4			土製品・玩 貝・食事道 具(土瓶)	(3.0)	(3.2)	3.7	型押成形、上下合 わせ、把手・注口・足踏き・体部上半 に青白色料を塗布、体部下半に灰 白色料を塗布	60	—	普通	2.5Y7/4(浅 黄)・5G7/1 (明緑色)	在地産カ 近世～	
	5			陶器・片口 鉢カ	(17.5)	—	(8.5)	輪輪成形／筋輪 ／口縁部玉筋状、内面釉拭き取り	—	—	—	—	瀬戸・美濃窓 18世紀以降	
	6			施釉土器・ 鉢カ	—	—	(5.5)	輪輪成形／内外 面釉輪・折筋	—	—	—	—	在地産カ 近代	
	7			土製品・人 形(大)	高さ 4.5	幅 4.9	重量 37g	手捏ね成形／頭部 兜欠損	70	砂粒(白 多・赤・金)	普通	5YR6/6(橙)	在地産カ 近世～	
	8			瓦・小丸軒 瓦	全長 10.1	厚さ 1.8	重量 168g	型押成形／小丸 瓦・当部欠損	—	砂粒(白 多・金多・ 透)	堅緻	N4/1(灰)	产地不明 18世紀以降	
	9			表探	—	—	—	—	砂粒(白 多・透)	良好	5Y5/1(灰)	木下・室町朝 9世紀第2～ 第3四半期		
27	1	台渡里官 師道跡(台 倉院内側区 画内第62 段落(SD01) 次、第72 次)	トレンチ1 須恵器・無 台杯	—	7.2	(2.4)	内外面ともにロ クロ口水挽整形、 底部は回転へつり 切り後、未調整	20	砂粒(白 多・黒多) 3mmの チャート鐵	良好	5Y5/1(灰)	木下・室町朝 9世紀第2～ 第3四半期		
	2			トレンチ2 須恵器・無 台杯	—	(6.6)	(1.1)	内外面ともにロク ロ口水挽整形、底部 は回転へつり	—	砂粒(白 多・透多)	堅緻	5Y6/1(灰 リーフ)	8世紀第3～ 第4四半期	
	3		トレンチ1正 倉院内側区 画内(SD01) 覆土	土師質土器・ 小皿	—	(5.0)	(1.3)	内外面ともにロ クロ口水挽整形、底部 は回転式切 切り後、ヘラナテ	—	砂粒(白 多・透多)	良好	10YR6/4(に ぶい黄橙)	中世	
	4			陶器・鉢	(17.2)	—	(3.6)	—	—	—	—	—	近世	
	5			軒丸瓦・ 3113型式	外区径 (13.0) 内区径 (9.0)	厚さ 2.9	重量 202g	瓦当側面・瓦当 裏面はヘラ削り 後ナデ調整	—	砂粒(白 多・透)	良好	7.5Y7/1(灰 白)	奈良・平安	
	6			平瓦	全長 (18.0)	厚さ (2.4)	重量 1,019g	粘土板焼き作り、 凸面は布目、斜板 は正格子、正格子 引張、ナデナテ	—	砂粒(白 多・橙・ 黒)	良好	7.5YR6/6(橙)	奈良	
	7			トレンチ1正 倉院内側区 画内(SD01) 覆土	平瓦	全長 (11.4)	厚さ (2.3)	重量 211g	一枚作り、凹面 は布目、凸面は 短縄引き後、 ヘラ削り	—	砂粒(白 多・透多)	良好	10YR6/4(に ぶい黄橙)	平安
	8			平瓦	全長 (9.5)	厚さ (2.7)	重量 325g	一枚作り、凹面 は布目、凸面は 短縄引き後、 ヘラ削り	—	砂粒(白 多)	良好	7.5Y6/1(灰)	平安	
	9			丸瓦	全長 (13.6)	厚さ (1.3)	重量 276g	凸面正格子引 き、凹面布目、 側面ヘラ削り	—	砂粒(白 多・透多)	良好	2.5Y7/3(浅 黄)	奈良	
	10		トレンチ1	ガラス製 品・茶漬カ	口径 1.6	底幅 38×22	器高 8.3	型吹き成形／無色 透明／1cm以下の 気泡を含み、1～ 2mmの気泡点在 ゴルク粒	100	—	—	—	产地不明 近代	
34	1	台渡里官 師道跡(台 渡里第66 次)	トレンチ2 須恵器・环 蓋	最大径 3.4	—	(1.0)	複扁平宝珠狀 紐	—	砂粒(白 多・黒)	堅緻	2.5Y5/1(灰)	木下・室町朝 8世紀前半		

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形				法量(cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等	
				細別	口径	底径	器高	(1.0)	(4.9)								
34	1	台渡里官 街道跡(台 渡里第 66 次)	トレンチ2	須恵器・环 蓋	最大径 3.4	—	(1.0)	擬扁平宝珠状 紐	—	砂粒(白 多・黒)	堅織	2.5Y5/1(灰)	木葉下窯群 8世紀前半				
37	1	台渡里官 街道跡(台 渡里第 67 次)	トレンチ1	縹文土器・ 深鉢	—	—	(4.9)	上部は無文帶、 中央部に横走す る隆帯を1条貼 付け。隆帯の下 には単節LR 縹文を回転施文	—	砂粒(白)・ 骨針	普通	7.5YR7/6(橙)	中期後葉 加曾利式				
				須恵器・环 蓋	(15.0)	—	(2.1)		5	砂粒(透 多・白・ 通)	良好	5Y6/1(灰)	新出窯跡群 7世紀第 4四半期				
				須恵器・円 面鏡	—	(18.0)	(3.2)	コロ口と浅整形に より中央に横走す る隆帯を削り出し し、その上に0.7 ～1.0cmの感覚 で幅1mmほどの 輻方向の切り込み を連続的に施す	底径 13	砂粒(白 多)	堅織	5Y8/1(灰白)	产地不明				
40	1	台渡里官 街道跡(台 渡里第 72 次)	トレンチ1	土師器・高 台付榦	(12.8)	—	(4.8)	内外面ともに コロ口と水挽整 形	口径 5	砂粒(白 多・透) ・ 骨針	良好	10YR6/6(明 黄褐)	10世紀前半				
43	1	台渡里官 街道跡(台 渡里第 74 次)	トレンチ4 確認面	須恵器・横 瓶カ	—	(5.6)	(2.8)	底部・体部外 面は回転ヘラ削 り、内面はコロ 口と水挽整形	—	砂粒(白 多・透 黒多)	堅織	5Y7/1(灰)	产地不明 7世紀後葉				
				須恵器・甕	—	—	(4.9)	外面 平行 卷 き、内面は當 て具痕なし	—	砂粒(白 多)・骨針	堅織	7.5Y6/1(灰)	木葉下窯 群				
49	1	台渡里官 街道跡(台 渡里第 76 次)	トレンチ1	土師器・無 台付	—	(8.2)	(1.2)	内外面ともに コロ口と水挽整 形後、内面を丁 寧な磨きによる 黒色処理	—	砂粒(白)	良好	7.5YR6/6(橙 7.5YR2/1(黒))	9世紀第2～ 第3四半期				
				土師器・高 台付榦	—	—	(1.4)	外面ともに コロ口と水挽整 形	—	砂粒(透) ・ 金	良好	7.5YR7/6(明 褐)	10世紀後葉 11世紀 前葉				
				土師器・小 皿	—	(5.2)	(0.8)	外面ともに コロ口と水挽整 形、底部は回 転糸切り	22	砂粒(透 多・赤)	普通	7.5YR7/6(橙)	11世紀前葉				
				須恵器・甕	—	—	(5.0)	外面 平行 卷 き、内面は當 て具痕なし	—	砂粒(白 多・黒多) ・ 銀	良好	2.5Y5/1(黄灰)	9世紀中葉 ～後葉				
52	1	台渡里官 街道跡(台 渡里第 78 次)	トレンチ1 調査土上	土師器・高 台付榦	(10.1)	—	(3.1)	外面コロ口と水 挽整形、内面は 輪方向のミガキ調整後、 内面は黒色処理	—	銀・砂粒 (透・黒)	良好	7.5YR7/6(橙 5Y2/1(黒))	10世紀後葉 2と同一個 体				
				土師器・高 台付榦	—	—	(1.4)	外面コロ口と水 挽整形、内面 は輪・斜め 方向のミガキ 調整後、内面 は黒色処理	—	銀・砂粒 (透・黒)	良好	7.5YR7/6(橙 5Y2/1(黒))	10世紀後葉 1と同一個 体				
			トレンチ3 確認面	土師器・甕	—	(5.2)	(4.2)	底面・内面は 丁寧なナデ調整、 胴部外面は斜め 方向のヘラ削り	—	砂粒(白 透・赤)	良好	7.5YR6/6(橙)	奈良・平安				
				平瓦	全長 (10.3)	厚さ (1.8)	重量 160g		—	砂粒(白) 5mm大砂 礫	良好	5Y7/2(灰白)	奈良				
				平瓦	全長 (7.0)	厚さ (2.2)	重量 129g		—	砂粒(黑・ 透)	良好	5Y7/1(灰白)	奈良				

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数	出土位置	種別・器形				法量 (cm)	観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等	
				細別	口径	底径	器高								
55	1	台渡里官 街道跡(台 渡里第80 次)	トレンチ3	繩文土器・ 粗製深鉢	—	—	(9.5)	地面上に単脚窓文を 回転施紋した後、 縦・横・斜方向の空 窓で施す。口内部には 粘土板を模様に貼り付 け、表面で押出し、内 面は模様方向の丁寧 なナット調整。	—	金・砂粒(白 多)・チャー ト窓	良好	5YR6/6(桙) 7.5YR7/6(桙)	後期 加曾利B式		
	2			繩文土器・ 粗製深鉢	—	—	(5.6)								
	3			繩文土器・ 粗製深鉢	—	—	(8.6)								
	4			繩文土器・ 粗製深鉢	—	—	(4.6)								
	5			繩文土器・ 粗製深鉢	—	5.1	(3.3)								
	6			トレンチ1	平瓦	全長 (7.2)	厚さ 1.5	重量 68g		粘土板巻き作 りか。凹面には布目 仕組、凸面は目の 大きさ・量ナット 押しき。	底径 100	金・砂粒(白 多・透)	良好	7.5YR5/4(に ふい相) 10YR6/4(に ふい黄)	後期 加曾利B式カ
	7				平瓦	全長 (7.8)	厚さ 1.6	重量 113g							
	8				平瓦	全長 (16.1)	厚さ 2.0	重量 588g		粘土板巻き作 りか。凹面は目仕組、 凸面は正格子切妻 形。端面へラテラ 削り、凸面は端面 削り。	砂粒(白・ 透・黒)・ 5mm 大砂 礫	堅密	5Y7/1(灰白)	奈良時代カ	
	9				平瓦(擬斗 瓦カ)	全長 (8.5)	厚さ 1.7	重量 127g		粘土板一枚作り、 凹面は目仕組、 凸面は正格子切妻 形。端面へラテラ 削り、凸面は端面 削り。	砂粒(白多・ 透)・4mm 大砂礫	堅密	5Y6/1(灰)	奈良・平安 時代	
	10				平瓦	全長 (12.5)	厚さ 2.4	重量 494g		粘土板一枚作り、 凹面は目仕組、 端面は斜方角の系 切り型、凸面は端面 方向の系切り型と 端面押しき。	砂粒(白・ 金・赤・黒・ 2 ~ 3mm 大砂礫)	良好	10YR8/3(浅 黄)	平安時代カ	
	11				平瓦	全長 (9.0)	厚さ 2.0	重量 195g		粘土板一枚作り、 凹面は目仕組と 端面方向の系切 り型、凸面は端面 方向の系切り型と 端面押しき。	砂粒(白多・ 透)	良好	2.5Y7/4(浅黄)	奈良時代カ	
	12				平瓦(擬斗 瓦カ)	全長 (7.7)	厚さ 1.4	重量 103g		粘土板一枚作り、 凹面は目仕組と 端面方向の系切 り型、凸面は端面 押しき。	砂粒(白多・ 透)	良好	5Y6/1(灰)	奈良時代カ	
	13				平瓦	全長 (10.2)	厚さ 2.4	重量 207g		凹面は布目仕組、 凸面はラテラ削 り、凸面は端面 削り。	砂粒(白多・ 透)	良好	2.5Y6/3(に ふい黄) 2.5Y6/4(に ふい黄)	奈良時代カ	
	14				平瓦	全長 (5.4)	厚さ 1.6	重量 80g		粘土板一枚作り、 凹面は布目仕組と 端面押しき。	砂粒(白多・ 透)	良好	5Y5/1(灰)	奈良時代カ	

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
56	15	台渡里官 衙道跡(台 渡里第80 次)	トレンチ1 トレンチ2 トレンチ1 丸瓦	平瓦	全長 (4.7)	厚さ 2.0	重量 65g	瓦端部の露き粘土 板一枚作り、凹面は 布目模様、凸面は側 面に引抜き、正面に 切妻形	一	砂粒(白 多・透多) 3mm 大砂 礫	良好	2.5Y6/2(灰黄)	平安時代カ		
	16			平瓦	全長 (9.3)	厚さ 2.1	重量 151g	粘土一枚作り、凹 面は布目模様、側 面に引抜き、正面に 切妻形	一	砂粒(白 多・透多)	良好	5Y6/1(灰)	平安時代カ		
	17			平瓦	全長 (6.5)	厚さ 2.0	重量 65g	粘土一枚作り、凹 面は四曲、側面 に引抜き、正面に 切妻形	一	砂粒(白 多・透) 2mm 大砂 礫	堅緻	5Y5/1(灰)	平安時代カ		
	18			丸瓦	全長 (12.4)	厚さ 2.5	重量 674g	一枚の器物を用いた 粘土組立作り、側 面に布目模様と輪 積み模様、下端部は ラ削り、側面・広面 にはラ削り、凸面 は下端部は側面のヘ ラ削りで中間から上 部は側面のナギ調整	一	金・砂粒(白 多・透) 4mm 大砂 礫	良好	2.5Y7/2(灰黄)	奈良時代		
	19			丸瓦	全長 (13.1)	厚さ 1.6	重量 238g	一本の板瓦を用いた 粘土組立作り、側 面に布目模様と輪 積み模様、下端部は ラ削り、側面は はラ削り、凸面 は側面のナギ調整	一	砂粒(黑・ 白多・透)	堅緻	5Y6/1(灰)	奈良時代		
61	1	笠神町遺跡 (第5地点)	トレンチ1 トレンチ2 トレンチ1 トレンチ2 トレンチ1 トレンチ2 トレンチ1 トレンチ2 トレンチ1 トレンチ2 トレンチ1 トレンチ2	縄文土器・ 深鉢	—	—		側部、單節 LR 縄文が壁位方 向に回転施文。	—	砂粒(白多 透)・骨針	普通	10Y4/2(灰黃褐色) 10Y6/6(明黃褐色)	中期後半		
	2			磁器・小碗・ 腹部丸形	7.1	3.8	4.7	輪轂成形/染付・ 費付無釉・削り出し 高台・外面彫文	80	—	—	—	—	肥前產 18世紀~	
	3			磁器・碗・ 半球碗 C	—	(4.0)	(3.15)	輪轂成形/染付・ 費付無釉・外面矢 羽彫文、高台脇一 重圍縁	—	—	—	—	—	肥前產 1750年代~ 1860年代	
	4			磁器・皿カ	—	5.8	3.2	輪轂成形/染付・ 費付無釉・高台・ 外面竹節彫文	—	—	—	—	—	產地不明 近代	
	5			磁器・碗・ 不明	—	4.2	2.8	輪轂成形/透明 釉・費付無釉・ 高台内に袖下墨 落「□」	—	—	—	—	—	產地不明 近代	
	6			陶器・土瓶 蓋	最大径 9.0	受部径 6.3	(1.9)	輪轂成形/覆 水・受部貼付・ 輪積み欠け /上部鉄錆、下部鐵 錆、上面糸目、受部 内に茶葉紋「茶」	80	—	—	—	—	瀬戸・美濃產 近世	
	7			施釉土器・ 皿カ	(14.8)	—	(2.9)	輪轂成形/内 外面鉄錆・折 縁	—	—	—	—	—	在地產カ 近代カ	
	8			土器・人形 (鰐)	最大長 (5.1)	最大幅 (1.6)	(2.3)	型押成形、左右合 わせ/斜・白色、 表面にキラ多量 付着	—	—	良好	—	—	產地不明 近世以降	
	9			土器・サナ	最大径 (11.0)	最大長 (5.7)	重量 70g	型押成形/焼成前 穿孔5箇所焼成後、 下部・上部ともに 灰付着	45	砂粒(白 多・透)	良好	5Y5/5/8(明黃褐色)	產地不明 近世~近代		
	10			磁器・皿カ	(7.8)	(3.2)	1.9	輪轂成形/色鉻 (青・緑・黒)・ 費付無釉・内面 竹節彫文	40	—	—	—	—	產地不明 近代	
	11			磁器・碗・ 統制陶器	—	3.8	(4.9)	輪轂成形/白泥塗 布の上に透明施 鐵錆(統制柄)・岐 52[口] (ゴル)	—	—	—	—	—	美濃 1941年~ 1945年 戦時統制期	
64	1	笠神町遺跡 (第24地点)	トレンチ1 トレンチ2	陶器・燒締 皿	(7.5)	3.3	1.6	輪轂成形・鉄錆・ 外表面取脱・内 面込み釉ハギ あり	40	—	—	—	—	七音製陶所 (精製七音焼) 1838(天保 9)年以降	
	2			磁器・皿・ コバルト染 付皿	(13.8)	(7.8)	2.6	輪轂成形/コバルト 染付・四付輪輪 ・内面竹節彫文・ 另文・外 面高台一重圍縁	—	—	—	—	—	產地不明 1870年代~	

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数	出土位置	種別・器形	法量(cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					細別	口径	底径						
64	3	釜神町遺跡 (第24地点)	トレンチ1 塊乱	陶器・段重	—	(8.5)	(3.6)	輪轂成形／鉄輪	—	—	—	—	瀬戸・美濃作 近世以降
	4			陶器・皿・ 不規	—	(5.6)	(1.6)	輪轂成形／白泥／ 削出輪台、質あり	—	—	—	—	瀬戸・美濃作 近世以降
	5			陶器・徳利	2.5	最大径 (13.0)	15.8	輪轂成形／灰釉／ 鶴首逆輪形、口縁 部玉筋状	—	—	—	—	仁海製陶所(新 潟七曲院) 1838(天保9) 年以前
	6			陶器・片口 鉢	14.6	9.5	7.6	輪轂成形／灰釉／口縁 部玉筋形、口縁削出、 内面に込み目(8 箇所)、足(1箇所) 高台輪台に差し 金(裏)	100	—	—	—	产地不明 19世紀以降
	7			土器・鉢カ・ 土師質	(27.0)	—	(4.8)	輪轂成形／折 縁	—	—	—	—	产地不明 近世以降
	8			磁器・碗・ コバルト染付	11.8	4.5	5.7	輪轂成形／コバルト染 付、質文無、高台輪 台・直腹輪、高台輪 台・直腹輪、高足輪 台・直腹輪	70	—	—	—	产地不明 1870年代～
	9			磁器・碗・ コバルト染付	10.0	3.6	4.7	輪轂成形／コバルト染 付・吹付、質文無、 外面花文	70	—	—	—	产地不明 近代後期 (20世紀～)
	10			磁器・碗・ コバルト染付	(11.4)	(2.4)	5.7	輪轂成形／コバルト染 付、質文無、外面花文 高足・直腹輪	—	—	—	—	产地不明 近代後期 (20世紀～)
	11			磁器・碗・ 統制陶器	10.9	5.0	5.8	輪轂成形／白泥塗 布の上に透明釉／ 口・外周・削出輪形 裏路(口開閉)	100	—	—	—	美濃か 1941年～ 1945年 戦時統制期
	12			磁器・徳利・ コバルト染付	(2.6)	5.8	15.7	輪轂成形／コバルト染 付・吹付・質文無、 内面玉筋状、足(1箇所) 高台輪台・直腹輪	90	—	—	—	产地不明 近代後期 (20世紀～)
	13			陶器・擂鉢	—	(13.2)	(4.5)	輪轂成形／コバルト染 付・吹付無、内面 玉筋子・足(1箇所)、 外高台輪台・直腹輪	—	—	—	—	产地不明 1870年代～
	14			磁製品・ミ ニチュア碗	2.4	0.9	0.9	輪轂成形／コバルト染 付・質文無、質文 高台輪台・直腹輪、 高台輪台・直腹輪、 高足輪台・直腹輪	100	—	—	—	产地不明 近代以降
	15			ガラス製品・ 化粧クリーム瓶	3.1	2.5	2.9	型吹き成型／乳白色 底部鋸歯切 [18]	100	—	—	—	产地不明 近代
	16			ガラス製品・ 化粧クリーム瓶	3.3	3.3	3.5	型吹き成型／乳白色 底部鋸歯切 [18]	100	—	—	—	产地不明 近代
	17			磁器・小壺	2.2	2.5	4.1	輪轂成形／無釉／質 文無、質文無 MADE IN ITALY、質文無、質文 無にかけて白付済	100	—	—	—	产地不明 近代
	18			ガラス製品・ 巻瓶	1.1	36×28	9.3	型吹き成型／透明感 ゴケ感、外高台輪台・ 直腹輪、[18]	100	—	—	—	产地不明 近代
	19			ガラス製品・ 巻瓶	0.9	2.8	6.7	型吹き成型(割り) 無透明感、ゴケ感、 外高台輪台・直腹輪	100	—	—	—	产地不明 近代
75	1	片遺跡 (第14地点)	第1次調査 表面採集	織文土器・ 深鉢	—	—	(2.2)	口縁部に刻み、 底下に角神文が 施紋されている	—	銀・砂粒 (白多)	良好	5YR5/6(明赤褐色)	中期中葉 阿王台1b式
	2			織文土器・ 深鉢	—	—	(3.4)	側部に纏糸文が 纏糸位に回転施紋 されている	—	銀多・砂粒 (白多)	良好	10YR6/6(明黃褐色)	中期後葉 加曾利E1式
	3			織文土器・ 深鉢	—	—	(2.8)	側部に単節RL 纏糸文が纏糸位に 回転施紋されている	—	金・砂粒(白 多・透多)	良好	10YR6/4(ふ い黄緑)	中期後葉 加曾利E2式も しくは大式
	4			織文土器・ 深鉢	—	—	(1.7)	側部に単節LR 纏糸文が纏糸位に 回転施紋されている	—	砂粒(白多・ 赤)	良好	2.5YR5/6(明 赤褐色)	中期後葉 加曾利E2式も しくは大式

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数	出土位置	法量 (cm)				観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外・内面)	生産年・ 年代等
				細別	口径	底径	器高						
75	5	坪道跡 (第14地点)	第1次調査 トレンチ1	縄文土器・ 深鉢	—	—	(4.2)	外面に単節LR 縄文が横位に回転施紋されている。 外面に単節LR 縄文が横位に回転施紋されている。 外面に単節LR 縄文が横位に回転施紋されている。 外面に単節LR 縄文が横位に回転施紋されている。 須恵器・無 台环	—	金・砂粒(白 多)	良好	2.5Y4/2(黒灰黄)	中期後葉 加曾利E式も しくは大式
	6			縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.8)		圓・砂粒(白 多)	良好	2.5Y6/3(ふい黄)		
	7			縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.4)		砂粒(白多)	良好	7.5YR7/6(橙) 2.5Y7/4(浅黄)		
	8			縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.5)		金・砂粒(白 多)	良好	7.5YR6/6(橙) 7.5YR4/3(褐)		
	9			須恵器・無 台环	—	(9.0)	(4.0)		砂粒(白多)・ 骨片・6mm の大環	良好	5Y5/1(灰)		
	10			土師質土器・ 内耳口銅	(28.0)	—	(3.8)		砂粒(白多)	良好	10YR2/1(黒) 10YR6/4(黄柏)	中世	
	11			縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.2)		金・砂粒(白 多・透)	良好	2.5Y2/1(黒)		
	12			第2次調査 トレンチ1	縄文土器・ 深鉢	—	—		骨針			中期後葉 加曾利E式 連続文系・點	
	13			第2次調査 トレンチ2	縄文土器・ 深鉢	—	—		圓・砂粒(白 多・透)	良好	5YR6/6(橙) 7.5YR4/3(褐)		
	14			縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.8)	口周部無口唇部に半円形の 窪みが認められ、口周部は鋸歯目が施されて いる。	砂粒(白多)	良好	5YR6/6(橙) 10YR4/3(ふい黄)	中期後葉 曾利式カ	
	15			縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.2)		骨針	良好	5YR6/6(橙) 10YR4/3(赤褐)	中期後葉 加曾利E式 ～E3式	
	16			第2次調査 トレンチ1	縄文土器・ 深鉢	—	—	単節LR 縄文を回転施 紋した後、覆走する纹 面より擦り消して いる。	金・砂粒(白 多)	良好	5YR6/6(橙) 5YR4/6(赤褐)	中期後葉 加曾利E式も しくは大式	
	17			縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.5)		骨針	良好	5YR6/6(橙) 5YR4/6(赤褐)		
	18			土師器・甕	—	—	(2.6)	外面に条線が 横位に施されて いる。	金・砂粒(白 多・透)	良好	2.5YR6/8(橙) 7.5YR4/2(灰)	中期後葉 加曾利E式も しくは大式	
	19			土師器・甕	—	—	(2.9)		砂粒(白多)	良好	5YR6/8(橙) 7.5YR6/6(橙)		
	20			土師器・甕	—	—	(3.7)	外面はヘラ削り 後、ナマ調整	砂粒(白多)	良好	10YR4/1(灰) 10YR7/6(橙)	古墳時代 以前	
	21			土師器・甕	—	—	(3.4)		やや 軟質			古墳時代 以降	
78	1	坪道跡 (第16地点)	トレンチ1 SD01	縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.5)	単節LR 縄文を横位に 回転施紋した後、2条 の筋で割り切れて区 画を割り切っている。	砂粒(透)	良好	7.5YR7/6(橙) 2.5YR7/4(浅黄)	中期後葉 加曾利E式も しくは大式	
	2			縄文土器・ 深鉢	—	—	(2.9)		砂粒(白多・ 透)	良好	10YR3/3(灰) 10YR7/4(青褐)		
	3			縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.0)		砂粒(透多・ 白・黒)	良好	10YR3/4(灰) 10YR7/6(橙)		
81	1	墓王院東遺跡 (第2地点区 画No.2)	トレンチ2 SI01	弥生土器・ 甕	—	—	(3.0)	縄織工具によ り波状文が織 込まれていて いる。	砂粒(白多) 骨針	良好	10YR7/4(に ふい黄柏)	後期 十王台式	
	2			弥生土器・ 甕	—	—	(1.5)		砂粒(白多)	普通	10YR6/4(に ふい黄柏)		
	3			弥生土器・ 甕	—	—	(3.3)		砂粒(白多) 骨針	良好	10YR3/2(黒) 7.5YR6/6(橙)		
	4			弥生土器・ 甕	—	—	(3.0)		砂粒(白多)	良好	10YR4/2(灰黄) 10YR3/3(ふい黄)		
	5			土師器・甕	—	—	(4.8)		砂粒(白多) 骨針	良好	2.5Y4/1(灰黄) 10YR3/3(ふい黄)	後期 十王台式	
84	1	墓王院東遺跡 (第2地点区 画No.6)	トレンチ1	土師器・环	13.0	6.0	2.8	内外面ともにロク 口挽き整形、底面 は回転式切り	砂粒(透) 金	良好	10YR3/3(に ふい黄)	10世紀第2 四半期～第3 四半期	

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数)	出土位置	法量(cm)				観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外・内面)	生産地・ 年代等	
				細別	口径	底径	器高							
84	2	葵院東遺跡 (第2地点区 画No.6)	トレンチ1 確認面	土師器・高 台杯碗	—	7.0	(2.0)	内外面ともにロクロ口水挽形 底部は丁寧なハラミ 子の先、裏面は 目地有り、子面は 斜め方向のナデ調整 外縁は横筋の小穴開 き、内面は斜め方向の ナデ調整。底面はナ デ調整	—	金・微砂粒 (透・白・ 赤)	良好	10YR7/4 (に ない・黄褐) 2.5Y2/1 (黒)	平安時代後 半期	
				土師器・甕	(26.0)	—	(9.5)						平安時代カ 3と同一個体	
				土師器・甕	—	(12.8)	(2.2)							
87	1	堀遺跡 (第3地点 区画No.1)	トレンチ1 一括	須恵器・無 台杯	(16.0)	—	(4.2)	内外面ともにロ クロ口水挽形 底部未調 整、底面に墨有 り	—	砂粒(白多・ 透)・ 骨針・ 4mm大の櫛	堅織	5Y6/1 (灰)	木葉下宮跡前 8世紀(西都一 期)・(西都二 期)	
				須恵器・無 台杯	—	(7.6)	(2.6)							
				須恵器・有 台杯	—	(8.6)	(2.9)						木葉下宮跡前 9世紀	
				須恵器・有 台杯	—	(9.0)	(2.4)							
				須恵器・环 蓋	(17.0)	—	(1.1)						木葉下宮跡前 8世紀(西都一 期)	
				須恵器・环 蓋	(19.0)	—	(0.9)							
90	1	堀遺跡 (第22地点)	トレンチ1	土師器・环	(14.5)	—	(4.2)	全体中央部、腰から 口縁部は継ぎ目のテ ヨリ調整、腰から底部は 回転方向に位置する のう振り調整、内面は 骨針に覆し、接縫 部は回転方向にナ デ調整	—	砂粒(白多・ 赤多)	良好	10YR5/2 (灰黄褐) 10YR4/3 (灰黄褐)	木葉下宮跡前 奈良・8世紀後半 8世紀初頭	
				須恵器・有 台杯	—	(9.2)	(2.7)							
				トレンチ2須 恵器・甕	—	(14.6)	(2.6)							
93	1	堀遺跡 (第24地点)	トレンチ1	須恵器・無 台杯	—	7.4	(2.3)	内外面ともにロ クロ口水挽形、 底部はナデ調整	—	砂粒(白多・ 黒・透)・ 骨針	堅織	7.5Y5/1 (灰)	木葉下宮跡前 奈良・平安	
98	1	堀遺跡 (第28地点)	トレンチ1 一括	須恵器・盤	—	(14.0)	(1.7)						木葉下宮跡前 奈良・8世紀後半 8世紀初頭	
				土師器・环	—	(8.2)	(1.2)	内外面ともにロ クロ口水挽形、 底部は回転方向に ナデ調整	—	金・砂粒(透・白)	良好	10YR3/1 (灰黄褐)		
				土師器・甕	—	(10.0)	(2.2)							
				須恵器・甕	—	(8.5)	—							
103	1	アラヤ遺跡 (第3地点(付 近発掘68点))	トレンチ1 一括	織文土器・ 粗製深鉢	—	—	(4.2)	手縫文と粗製取 した。腹とこぎ子 により作り直し	—	砂粒(白 多・透多)	良好	10YR4/1 (灰黄褐) 10YR3/1 (黑褐)	後期 奈良・8世紀も は奈良朝B式	
				織文土器・ 粗製深鉢	—	—	(3.9)							
				織文土器・ 粗製深鉢	—	—	(3.2)							
				須恵器・無 台杯	—	(6.0)	(1.2)							
				須恵器・土器・ 深鉢	—	—	(6.0)							
106	1	大船町遺跡 (第12地点)	トレンチ	織文土器・ 深鉢	—	—	(6.0)	表縫目調、突起 部には直径6mm の孔を複数。底又 には単節LR織文 が施されている。 曲輪状の沈澱により 押出しだし	—	砂粒(白 多・透多)	良好	10YR4/1 (灰黄褐) 10YR4/4 (灰) 10YR3/1 (黑褐)	後期前集 錦岡2式	

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	法量 (cm)				観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高						
106	2	大船町道路 (第12地点)	トレンチ 一括	弥生土器・ 壺	—	—	(2.7)	上半部に鳥巣を盛り 付け、帯状斜文を施す。 直下には6条車輪の 墨痕状弦文が複数 に現れる。	—	砂粒 (白 多・透多)	良好	2.5Y3/2(黒褐色) 2.5Y5/3(黄褐色)	後期 十王台式
				弥生土器・ 壺	—	—	(2.9)	壺文を押付すること により連續斜文を 作る。	—	砂粒 (白 多・透多)	良好	10YR3/1(黒褐色) 10YR4(にふく黄褐色)	後期 十王台式
				弥生土器・ 壺	—	—	(2.6)	帶状弦文を横位 に施した後、籠目 のスリット (区画文) で区画する。	—	砂粒 (透 多・銀)	良好	7.5YR7/6(橙)	後期 十王台式
				弥生土器・ 壺	—	—	(3.9)	外面部に附加条文が 回転施す。	—	砂粒 (白 多・金)	良好	10YR4(にふく黄褐色) 7.5YR7/6(橙)	後期 十王台式
				弥生土器・ 壺	—	—	(4.6)	外面部に附加条文が 回転施す。	—	砂粒 (白 多・透多)	良好	2.5Y3/1(黒褐色) 2.5YR7/5(橙)	後期 十王台式
				土師器・無 台坏	—	(8.0)	(1.2)	外面部の底部から約 1/3上部には均計刻 りの四の目(ヘラ ケズ)の調整。内面は ミガキ調整及び黑色 處理。	—	砂粒 (白 多・銀)	良好	10YR7/4 (に ふく黄褐色) 2.5Y2/1(黒)	後期 十王台式 9世紀第2四半期～第 3四半期
109	1	西原遺跡 (第2地点)	トレンチ 一括	須恵器・無 台坏	—	(8.0)	(2.7)	外面部ともに口 クロフ水挽整形、 底部は未調整。	—	骨針・砂 粒 (白多・透)	堅織	7.5YR7/6(橙) 2.5Y7/3(浅黄)	木下下野郡前 9世紀第3四半期以降
				陶器・埴輪 器・不明 (曲 または鉢)	—	(8.6)	(2.3)	埴輪成形・削り出 し高台・内面部輪 ／外面部擦れあり	—				古代不明 近代化
				Dトレンチ 縄文土器・ 深鉢	(26.5)	(10.0)	(36.0)	波状口、口縁部 に張部文と斜文 等に地に單列LR 繩文を施す。底部 に回転施す。	25	砂粒 (金 多・銀多・ 白多・透)	良好	7.5YR6/6(橙) 2.5Y3/1(黒褐色)	大木 8b式
112	1	文京1丁目遺跡 (第1地点)区画 No.1	Dトレンチ 縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.1)	口唇部直下に交叉斜 文を施す。	—	骨針・砂 粒 (金多・ 白・透)	良好	5YR6/6(橙)	加曾利E式	
				Dトレンチ 縄文土器・ 深鉢	—	—	(3.5)	地面上に單列LR 繩文とRL繩文を複位 に回転施す。直下に 斜文を施す。	—	砂粒 (銀 多・白多・ 少・透)	普通	10YR5/3 (に ふく黄褐色) 10YR6/4 (に ふく黄褐色)	加曾利E式もしくは大木式
				Dトレンチ 縄文土器・ 深鉢	—	—	(5.2)	地面上に單列 RL 繩文を複位に回転 施す。	—	砂粒 (白 多・銀多・ 少・透)	良好	10YR6/3 (に ふく赤褐色)	加曾利E式
				Dトレンチ 縄文土器・ 深鉢	—	—	(5.8)	地面上に單列 LR 繩文とRL繩文を回転 施す。直下に口唇部直 下に斜文を施す。	—	砂粒 (白 多)	良好	10YR7/4 (に ふく黄褐色)	加曾利E式
				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
114	1	文京1丁目遺跡 (第1地点)区画 No.2	古墳周溝 覆土中層	土師器・碗	(8.0)	—	(7.2)	胴部下半に幅 の細いミガキ 調整	—	砂粒 (白 多・透)	良好	10YR5/4 (に ふく 黄褐色) 10YR5/4 (に ふく 黄褐色) ~ 5Y2/1 (黒)	古墳時代 中期
			古墳周溝 覆土中層	土師器・碗	(9.2)	—	(4.5)	胴部下半に幅 の細いミガキ 調整	—	砂粒 (白 多・透)	良好	7.5YR6/4 (に ふく 黄褐色) 7.5YR6/4 (橙)	古墳時代 中期
			古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(8.2)	外面部は籠目 の網目状文と 有里斑、内面 は直線・斜線の 文様を施す。	—	砂粒 (白 多・赤)	良好	7.5YR7/6(橙) ~ 7.5YR2/1(黒) 7.5YR6/6(橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
			古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(2.4)	外面部は籠目 の網目状文と 有里斑、内面 は籠目状文を施す。	—	砂粒 (白 透・赤)	良好	5YR5/6 (明赤 褐色)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉

図版	番号	遺跡名・ 点名・ 次数	出土位置	法量 (cm)				観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外・内)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高						
114	5	文81丁目跡 (第1地点区段 No.2)	古墳周溝 覆土中層	朝顔形円筒 埴輪	—	—	(5.5)	外面はナデ調整、内面は模位の刷毛目	—	砂粒(白・透・赤)	良好	7.5YR6/4 (に ぶい黄)	古墳時代前 期末業～中 期前業
	6		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(6.7)	外面は模位の刷毛目、内部は模位の刷毛目・ナデ調整、有里窓、内部には輪積み板が顯著に残存	—	砂粒(白・透・赤)	普通	2.97/4 (黒)～ 2.52/2 (黒) 10YR7/4 (に ぶい黄)	古墳時代前 期末業～中 期前業
	7		古墳周溝 覆土中層	朝顔形円筒 埴輪	—	—	(13.6)	外面は模位の刷毛目、内部は模位の刷毛目・ナデ調整、有里窓、内部には輪積み板が顯著に残存	—	砂粒(白・透多・赤)	やや 軟質	10YR5/2 (灰 黄)～10YR5/4 (に ぶい黄)	古墳時代前 期末業～中 期前業
	8		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	(26.6)	—	(16.7)	外面は模位の刷毛目、口昇部以下は模位のナデ調整、有里窓、内部は模位の刷毛目、第114図11・第115図15・30と同一個体	—	砂粒(白・ 多・透多・赤)	普通	7.5YR6/6 (黒)～ 10YR7/6 (黒) 7.5YR2/1 (黒) 7.5YR6/5 (黒) 10YR5/4 (に ぶい黄)	古墳時代前 期末業～中 期前業
	9		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(21.3)	外面は模位・員位の刷毛目、内部は模位の刷毛目・ナデ調整	—	砂粒(白・ 多・透多・赤)	普通	7.5YR6/6 (黒)～ 10YR7/4 (に ぶい黄)	古墳時代前 期末業～中 期前業
	10		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	最大径 (34.0)	(30.0)	(40.0)	外面は模位・員位の刷毛目、上半部には模位の連続する工具孔、内部には模位の刷毛目及びナデ調整、内部には輪積み板が顯著に残存	—	砂粒(白・ 多・透多・赤)	普通	10YR6/3 (に ぶい黄)	古墳時代前 期末業～中 期前業
	11		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(24.4)	外面は模位の刷毛目及びナデ調整、有里窓、内部には模位の刷毛目、内部には輪積み板が顯著に残存、第114図8・第115図30と同一個体	—	砂粒(白・ 多・透多・赤)	普通	7.5YR6/6 (橙) ～10YR1.7/1 (黒) 7.5YR6/6 (橙)	古墳時代前 期末業～中 期前業
	12		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	最大径 (30.0)	—	(20.3)	外面は模位・員位の刷毛目、内部は模位・員位のナデ調整、有里窓、内部には輪積み板が顯著に残存、第114図14・第115図14・19・第116図34・35・47と同一個体	—	砂粒(白・ 多・透・赤)	硬質	2.5YR5/6 (明 赤)	古墳時代前 期末業～中 期前業
	13		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	最大径 (28.0)	—	(11.0)	外面は模位の刷毛目、内部は模位・員位のナデ調整、有里窓、内部には輪積み板が顯著に残存、第114図12・第115図14・19・第116図34・35・47と同一個体	—	砂粒(白・ 多・透・赤)	硬質	2.5YR5/6 (明赤) ～2.5YR2/1 (黒) 2.5YR4/8 (赤)	古墳時代前 期末業～中 期前業
	14		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(6.8)	外面は模位の刷毛目、内部は模位・員位のナデ調整、凸出は焼成後の切欠きにより意匠的に削除、有里窓、内部には輪積み板が顯著に残存、第114図12・第115図14・19・第116図34・35・47と同一個体	—	砂粒(白・ 多・透多・ 透・赤)	硬質	2.5YR5/6 (明赤) ～2.5YR2/1 (黒) 2.5YR4/8 (赤)	古墳時代前 期末業～中 期前業
	15		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(5.3)	外面は模位の刷毛目、内部は模位・員位のナデ調整。方形透口	—	砂粒(白・ 多・透多・ 透・赤)	普通	7.5YR5/6 (に ぶい黄)	古墳時代前 期末業～中 期前業
	16		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴 輪	—	—	(6.6)	外面は模位の刷毛目、内部は模位・員位のナデ調整。有里窓、第115図17・第116図38と同一個体	—	砂粒(白・ 多・透多・ 透)	やや 軟質	7.5YR2/1 (黒) 7.5YR5/6 (明赤)	古墳時代前 期末業～中 期前業

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数	出土位置	法量 (cm)				観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外側・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高						
115	17	文部省1目跡 (第1地点区段 No.2)	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	—	(19.0)	外面は斜位の削毛目、内面は横位のナデ調整。方形透し。有黒斑。第115図16・第116図38と同一個体。	—	砂粒(白多・銀多・透)	やや軟質	10YR3/1(黒褐色) 10YR6/4(にぶい黄褐色)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	18		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	—	(9.3)	外面は斜位の削毛目、内面は横位のナデ調整。有黒斑。内部は横位の削毛目及びナデ調整。第114図4・第115図15・第30と同一個体。	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	普通	10YR7/4(にぶい黄褐色) 7.5YR6/6(橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	19		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	—	(7.8)	外面は斜位の削毛目、内面は横位のナデ調整。有黒斑。内部は横位の削毛目及びナデ調整。第114図12・13・第115図14・19・第116図34・35と同一個体。	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	硬質	2.5YR5/6(明赤褐色) 2.5YR2/1(黒) 2.5YR4/8(赤褐色)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	20		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	—	(12.8)	外面は斜位の削毛目及びナデ調整。有黒斑。内部は横位のナデ調整。	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	やや軟質	5YR3/3(明赤褐色) 5YR6/6(橙) 5YR4/4(にぶい赤褐色)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	21		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	—	(5.1)	外面は斜位の削毛目、内面は横位のナデ調整。有黒斑。内部は横位のナデ調整。	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	硬質	7.5YR5/6(明赤褐色) 2.5YR4/3(黒)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	22		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	—	(6.1)	外面は斜位のナデ調整。方形透し。内面は横位のナデ調整。	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	やや軟質	10YR4/2(灰黃褐色)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	23		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	—	(8.4)	外面は斜位のナデ調整。内形透し。有黒斑。内面は横位のナデ調整。	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	やや軟質	7.5YR7/6(橙) 10YR3/1(黒褐色) 7.5YR6/6(橙)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	24		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	—	(4.4)	外面は斜位の削毛目、内形透し。内面はナデ調整。	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	やや軟質	7.5YR7/4(にぶい黄褐色)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	25		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	(35.6)	—	(7.7)	外面は斜位の削毛目及びナデ調整。口唇部は横位の削毛目のナデ調整で壺取り。有黒斑。内面は斜位・斜位のナデ調整。第115図25・27と同一個体。	—	砂粒(白多・銀多・透)	普通	2.5Y7/4(浅黃色) 2.5Y5/1(黃色) 10YR7/4(にぶい黄褐色)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	26		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	(30.5)	—	(7.7)	外面は斜位の削毛目及びナデ調整。口唇部は横位の削毛目のナデ調整で壺取り。有黒斑。内面は斜位・斜位のナデ調整。第115図25・27と同一個体。	—	砂粒(白多・銀多・透)	普通	2.5Y7/4(浅黃色) 2.5Y5/1(黃色) 10YR7/4(にぶい黄褐色)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	27		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	—	(3.4)	外面は斜位及び斜位の削毛目及びナデ調整。	—	砂粒(白多・銀多・透)	普通	10YR7/4(にぶい黄褐色)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉
	28		古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	—	(3.1)	外面は斜位及び斜位の削毛目、円形透し。内面はナデ調整。	—	砂粒(白多・銀多・透)	普通	10YR6/4(にぶい黄褐色) 5YR4/8(赤褐色)	古墳時代前 期末葉～中 期前葉

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数	出土位置	種別・器形			法量(cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外・内)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
115	29	文部省第1回調査 (第1地点区段 No.2)	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	(5.2)	外面は竪位の刷毛目、内面は横位・斜位の刷毛目及びナデ調整、内部は横位の刷毛目	—	砂粒(白多・銀多・透多)	—	やや軟質	10YR5/4(にふい 黄褐色)~5Y3/1(オ リーブ褐色)	7.5YR5/6(明褐色)	古墳時代前 期末業~中 期前業	
116	31	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	(2.6)	外面は凸帯を貼り付け、凸帯上及び直下は横位のナデ調整、内部は横位のナデ調整	—	砂粒(白多・金多・透多)	—	普通	10YR6/3(にふい 黄褐色)~5Y3/1(黄 褐色)	10YR5/3(にふい 黄褐色)	古墳時代前 期末業~中 期前業		
116	32	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	(3.7)	外面は凸帯を貼り付け、凸帯上には横位のナデ調整、内部は横位のナデ調整	—	砂粒(白多・銀多・透多)・チャート織	—	硬質	7.5YR5/6(相) 7.5YR5/4(にふい相)	7.5YR5/4(にふい相)	古墳時代前 期末業~中 期前業		
116	33	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	(5.3)	外面は竪位の刷毛目、有黒斑、内面は横位の刷毛目及びナデ調整	—	砂粒(白多・銀多・透多・赤)	—	やや軟質	7.5YR7/4(にふい 相)	7.5YR6/4(にふい 相)	古墳時代前 期末業~中 期前業		
116	34	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	(4.8)	外面は竪位の刷毛目、内面は横位・斜位のナデ調整、内部には横位のナデ調整	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	—	硬質	5YR5/4(にふい 赤褐色)	5YR5/4(にふい 赤褐色)	古墳時代前 期末業~中 期前業		
116	35	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	(3.3)	外面は竪位の刷毛目、内面は横位・斜位のナデ調整、有黒斑、内部には横位が強者有黒斑、第114回12~13、第115回14~19、第116回35と同一個体	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	—	硬質	5YR4/4(褐色) 5YR4/4(にふい 赤褐色)	5YR4/4(にふい 赤褐色)	古墳時代前 期末業~中 期前業		
116	36	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	(7.8)	外面はナデ調整、有黒斑、内面は横位・斜位のナデ調整	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	—	やや軟質	7.5YR5/6(相) 7.5YR5/6(相)	7.5YR5/6(相)	古墳時代前 期末業~中 期前業		
116	37	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	(10.1)	外面は竪位の刷毛目、有黒斑、内面は横位のナデ調整	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	—	やや軟質	10YR7/4(にふい 相)~10YR2/1(黒 褐色)	10YR2/1(黒褐色)	古墳時代前 期末業~中 期前業		
116	38	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	(4.9)	外面は竪位の刷毛目、有黒斑、内面は横位のナデ調整、第115回16~17と同一個体	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	—	やや軟質	7.5YR2/1(黒褐色) 10YR7/4(にふい 黒褐色)	7.5YR2/1(黒褐色)	古墳時代前 期末業~中 期前業		
116	39	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	(3.7)	外面はナデ調整、有黒斑、内面は横位の刷毛目	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	—	やや軟質	2.5Y6/3(にふい 黄褐色) 10YR6/4(にふい 黄褐色)	2.5Y6/3(にふい 黄褐色)	古墳時代前 期末業~中 期前業		
116	40	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	(14.0)	外面は竪位の刷毛目、有黒斑、内面は横位のナデ調整、第116回41~44と同一個体	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	—	やや軟質	7.5YR6/6(相) 7.5YR5/1(明褐色) ~7.5YR5/6(相)	7.5YR6/6(相) 7.5YR5/1(明褐色) ~7.5YR4/1(明褐色)	古墳時代前 期末業~中 期前業		
116	41	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	(14.2)	外面は竪位の刷毛目及びナデ調整、有黒斑、内面は横位のナデ調整、第116回40~44と同一個体	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	—	やや軟質	7.5YR5/1(褐色) 7.5YR6/4(にふい相)	7.5YR5/1(褐色) 7.5YR6/4(にふい相)	古墳時代前 期末業~中 期前業		
116	42	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	(7.3)	外面は竪位の刷毛目及びナデ調整、内面は斜位のナデ調整	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	—	普通	7.5YR8/4(浅黃褐色) 7.5YR7/4(にふい相)	7.5YR8/4(浅黃褐色) 7.5YR7/4(にふい相)	古墳時代前 期末業~中 期前業		
116	43	古墳周溝 覆土中層	普通円筒埴輪	—	(2.1)	外面は竪位の刷毛目及びナデ調整、内面は斜位のナデ調整	—	砂粒(白多・銀多・透・赤)	—	やや軟質	10YR3/1(黒褐色) 10YR4/1(褐色)	10YR3/1(黒褐色) 10YR4/1(褐色)	古墳時代前 期末業~中 期前業		

回版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	法量 (cm)				観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				種別	口径	底径	器高						
116	44	第1丁目遺跡 (第1地点区段 No.2)	古墳周溝 覆土中層 輪	普通円筒埴	—	—	(12.4)	外面はナデ調整、有 黒毛。内面は楕位・ 輪位のナデ調整。司 116 国 40・41、 45-46と同一個体	—	砂粒(白 多・銀多・ 透・赤)	やや 軟質	7.5YR2/1 (黒) 7.5YR5/2 (褐灰)	古墳時代前 期未葉～中 期前葉
	45			普通円筒埴	—	(14.3)	(5.0)	外面はナデ調整、有 黒毛。内面は楕位・ 輪位のナデ調整。司 116 国 40・41、 44-45と同一個体	—	砂粒(白 多・銀多・ 透・赤)	やや 軟質	7.5YR6/4 (にぶ い黄)～7.5YR2/1 (青 緑)	古墳時代前 期未葉～中 期前葉
	46			普通円筒埴	—	(12.8)	(5.4)	外面はナデ調整、有 黒毛。内面は楕位・ 輪位のナデ調整。司 116 国 40・41、 44-45と同一個体	—	砂粒(白 多・銀多・ 透・赤)	やや 軟質	7.5YR4/1 (褐灰) 7.5YR6/6 (青)～ 7.5YR5/2 (褐灰)	古墳時代前 期未葉～中 期前葉
	47			普通円筒埴	—	—	(3.3)	外面は楕位の刷毛 目及びナデ調整、有 黒毛。内面には楕位・ 輪位の刷毛目。表面は はバケツリ調整。司 116 国 40・41、 44-45と同一個体	—	砂粒(白 多・透 赤)	硬質	5YR4/1 (褐灰) 5YR4/4 (にぶ い赤褐色)	古墳時代前 期未葉～中 期前葉
120	1	谷田遺跡 (第1地点)	トレンチ2	土師器・碗	(10.6)	(6.0)	5.7	内外ともにナ デ調整。外面の 部に斜へラ ケツリ調整	20	砂粒(白 多・透多)	良好	5YR6/6 (橙)	古墳時代 中期中葉
	2			土師器・甕	—	(8.8)	(3.7)	外面は斜位のヘ ラケツリ調整	20	砂粒(白 多・透多・ 赤色粒)	良好	10YR7/4 (に ぶい黃相)～ 10YR2/1 (黒)	古墳時代中 期中葉～
123	1	茨城高等 学校遺跡 (第1地点)	トレンチ2	須恵器・盤	—	—	(2.0)	高台部は削落。 底裏に「厨カ大 口」の墨書き	—	骨針・砂 粒(白多・ 黒多・透)	堅緻 黄)	2.5Y5/2 (暗灰 黄)	木室下野原郡 9世紀代
	2		トレンチ3	磁器・大碗	(15.5)	—	(6.4)	輪郭は死・白毫の上 に付し、輪付輪、内面 は輪付輪、外面は輪 付輪、高台、垂腹、 底付、直腹輪	—	—	—	—	在地分か 19世紀～
	3		トレンチ3	磁器・皿・ 三角高台皿	—	(8.8)	(1.7)	輪郭は影・白毫の上 に付し、輪付輪、内面 は輪付輪、外面は輪 付輪、高台、垂腹、 底付、直腹輪	—	—	—	—	产地不明 近現代
	4		トレンチ3	土製品・人形 (海老)	(6.6)	(3.5)	厚さ (1.3) 重量 (23g)	厚さ (1.3) 重量 (16g)	80	砂粒(白 多)	良好	2.5Y5/1 (褐灰 黄)～ 2.5Y5/2 (暗灰 黄)	产地不明 近現代
	5		トレンチ3	土製品・人形 (海老)	(7.5)	(2.5)	厚さ (1.0) 重量 (16g)	厚さ (1.0) 重量 (16g)	98	砂粒(白・ 銀多)	良好	10YR5/3 (にぶ い黄褐色)	产地不明 近現代
	6		トレンチ3	土製品・人形 (海老)	(7.5)	(2.7)	厚さ (1.0) 重量 (18g)	厚さ (1.0) 重量 (18g)	98	砂粒(白・ 銀多)	良好	10YR6/3 (にぶ い黄褐色)～ 2.5Y4/1 (黄灰 色)	产地不明 近現代
	7		トレンチ3	ガラス製品・ 牛乳瓶	3.7	5.2	14.2	型吹き成形(裏り) 無透明白・楕位を中心 して1mm以下の気泡を多 く含む。外壁部表面に輪 付輪、底付輪、全周に白毫を 有する。底付輪は直腹輪 形構造	100	—	—	—	产地不明 近現代
128	1	釜久保遺跡 (第5地点)	トレンチ1	弥生土器・ 壺	—	(7.8)	(1.2)	底部に目の細かい布 目仕面。底部には輪 位の刷毛目。輪付面には 輪付の刷毛目	—	砂粒(白・ 銀・透)	良好	10YR7/3 (にぶ い黄褐色)～10YR6/1 (褐灰)	後期(十王 台式)
	2		トレンチ1	土師器・壺	—	—	(2.4)	輪部外面には輪位の 刷毛目。底部には輪位の 刷毛目。輪付面には 輪付の刷毛目	—	砂粒(白・ 透)	良好	10YR7/4 (にぶ い黄褐色)～ 7.5YR7/6 (橙)	古墳時代 前期

図版	番号	遺跡名・点名・次	出土位置	法量(cm)				観察所見	残存率(%)	胎土	焼成	色調(外・内面)	生産地・年代等
				細別	口径	底径	器高						
128	3	釜久保遺跡 (第5地点)	トレンチ1	土師器・壺	—	—	(2.3)	外面には櫛位に障帶を貼り付け、上へ工具で連続的に押庄村し、鉛目文による調節	—	砂粒(白・透)	良好	10YR8/4(浅黄相)	古墳時代前期
131	1	下畠遺跡 (第3地点)	トレンチ4	繩文土器・深鉢	—	—	(6.5)	内外面とともに貝留痕有り、外表面は部分的にケツ及びミガキ調整	—	砂粒(白多・透多・赤)	良好	7.5YR5/6(明褐)	早期弥生末期
	2		トレンチ1	繩文土器・深鉢	—	—	(3.8)	薄壁の円形状に貼り付け、その周囲にギヤギヤと施紋	—	砂粒(白多・金多・赤)	良好	2.5Y4/1(黄灰) 10YR6/3(にぶい黄)	加曾利E1式
	3		トレンチ1	繩文土器・深鉢	—	—	(3.3)	口縁部直下は障帶を貼り付けた帶とし、直下には櫛位の櫛位の沈線文を描き、単節型。繩文を施釉歴	—	砂粒(白多・透多)	良好	2.5Y5/3(黄褐) 10YR6/3(にぶい黄相)	加曾利E2式
	4		トレンチ2	繩文土器・深鉢	—	—	(10.2)	地文に單節LR繩文を施釉歴後、3条の櫛位の沈線文を描く	—	砂粒(白・透)	良好	2.5Y5/2(暗灰黄) 10YR6/4(にぶい黄相)	加曾利E1式
	5		トレンチ3	繩文土器・深鉢	—	—	(3.6)	口縁部直下は無文帯、その直下に單節型。繩文を施釉歴後、2条の櫛位の沈線文を施し、区画を作り付け	—	砂粒(白・透)	良好	2.5Y4/1(黄灰) 2.5Y5/2(暗灰黄)	加曾利E2式 もしくは加曾利E3式
	6		トレンチ3	繩文土器・深鉢	—	—	(3.3)	口縁部直下に地文の単節型。繩文を回転施釉歴後、櫛位の障帶を貼り付け	—	砂粒(白・透・銀)	良好	10YR5/4(にぶい黄相) 10YR6/3(にぶい黄相)	加曾利E2式
	7		トレンチ2	繩文土器・深鉢	—	—	(7.3)	地文の単節LR繩文を回転施釉歴後、障帶を貼り付け、櫛位・障位の沈線文を施す	—	砂粒(白・透・銀)	良好	10YR5/2(灰黄) 2.5Y6/2(灰黄)	加曾利E2式 もしくは加曾利E3式
	8		トレンチ3	繩文土器・深鉢	—	—	(5.6)	地文の単節LR繩文を回転施釉歴した後、櫛位及び障帶を施する障段状の沈線文で飾り出す	—	砂粒(白・透)	良好	10YR5/4(にぶい黄相)	加曾利E2式
	9		トレンチ3	繩文土器・深鉢	(22.8)	—	(13.2)	地文に単節LR繩文を回転施釉歴	—	砂粒(白多・透)	良好	7.5YR5/6(明褐)	加曾利E4式
	10		トレンチ1	繩文土器・深鉢	—	(6.6)	(2.1)	櫛位に垂下する5条の沈線文	—	砂粒(白・透・銀)	良好	10YR5/4(にぶい黄相) 2.5Y4/2(暗灰黄)	加曾利E3式
	11		トレンチ2	繩文土器・深鉢	—	(11.8)	(3.0)	櫛位に垂下する2条の沈線文	—	砂粒(白多・透多・金)	良好	10YR5/3(にぶい黄相)	加曾利E3式
	12		トレンチ4	繩文土器・深鉢	—	—	(2.2)	口縁部直下に障帶を貼り付け櫛やかみ模様を作出	—	砂粒(白・透・赤)	良好	2.5Y5/2(暗灰黄) 2.5Y5/3(黄相)	加曾利E4式
	13		トレンチ2	繩文土器・深鉢	—	—	(2.2)	口縁部直下に貼り付け障帶を施す	—	砂粒(白・透・赤)	良好	7.5YR6/6(橙)	加曾利E4式
	14		トレンチ4	繩文土器・深鉢	—	—	(4.9)	口縁部直下に地文の単節型。繩文を回転施釉歴	—	砂粒(白・透)	良好	10YR5/4(にぶい黄相)	加曾利E4式
	15		トレンチ4	繩文土器・深鉢	—	—	(5.0)	口縁部直下に地文の単節型。繩文を回転施釉歴	—	砂粒(白・透)	良好	7.5YR5/4(にぶい黄相)	加曾利E4式
	16		トレンチ1	繩文土器・深鉢	—	—	(3.1)	直状に横の突起基部、地文の単節LR繩文を回転施釉歴後、障帶を貼り付け障帶にナテ調整を施し、円形の障壁を作出	—	砂粒(透・黒)	良好	10YR4/2(灰黄) 10YR5/4(にぶい黄相)	加曾利E3式 もしくは加曾利E4式
	17		トレンチ1	繩文土器・粗製深鉢	—	—	(5.4)	直状に横の突起基部、地文の単節LR繩文を回転施釉歴後、口縁部直下に櫛位の沈線文を書き、支脚部直前で小さい円孔を穿ち障壁を形成	—	砂粒(透)	良好	10YR5/3(にぶい黄相)	惣之内1式
	18		トレンチ2	繩文土器・粗製深鉢	—	—	(2.9)	外面に櫛状工具による捺痕	—	砂粒(白・黒・赤)	良好	10YR5/3(にぶい黄相) 10YR8/3(浅黄相)	惣之内1式

図版 番号	遺跡名 ・ 地点名・ 次第	出土位置	種別・器形 ・ 細別	法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外・内面)	生産地・ 年代等
				口径	底径	器高						
131	下畠遺跡 (第3地点)	トレンチ2	織文土器・ 粗製深鉢	—	—	(4.0)	外面に櫛歯状工具による条痕	—	砂粒(白・透・赤)	良好	7.5YR4/3 (褐) 5YR5/6 (明褐)	龍之内1式
		トレンチ2	織文土器・ 粗製深鉢	—	—	(3.0)	口縁部底面に櫛歯状工具による条痕、内側に竹籠状工具で連続的突起を描く	—	砂粒(白・透・銀・赤)	良好	7.5YR5/6 (明褐) 10YR6/3 (にふい黄褐色)	龍之内2式
		トレンチ3	織文土器・ 粗製深鉢	—	—	(3.0)	口縁部底面に櫛歯を貼り付け、上から半直線状工具で連続的突起を描く	—	砂粒(白・透・銀)	良好	7.5YR5/4 (にふい褐)	加曾利B1式
		トレンチ3	織文土器・ 粗製鉢	—	—	(8.5)	口縁部から頸部は無文部、胸際部には單筋LR、腹部には回転施紋、内側は丁寧なミガキ調整	—	砂粒(白・透・銀・赤)	良好	2.5Y5/2 (暗灰黄)	晩期終末期
134	新地遺跡 (第2地点)	トレンチ1	土器・土鍋・ 土師質	(31.2)	—	(4.8)	輪廓分明、内部底面のナメ感、外側は滑らか	—	砂粒(白・金・透)	良好	10YR3/2 (黒褐) 7.5YR5/2 (明褐)	中世～近世
139	下本郷遺跡 (第5地点)	表面採集	織文土器・ 深鉢	—	—	(2.5)	地文に单筋LR、腹部には回転施紋	—	砂粒(白・透)	良好	7.5YR4/3 (褐) 5Y3/1 (オーリーブ)	加曾利E式
		表面採集	織文土器・ 深鉢	—	—	(4.0)	地文に单筋LR、腹文に回転施紋後、陶帯を貼り付け、沈殿により消し	—	砂粒(白・多・銀・透)	良好	10YR6/4 (にふい黄褐色) 10YR6/2 (暗灰黄)	加曾利E2式
		トレンチ3	織文土器・ 深鉢	—	—	(5.4)	外面に複数の条痕	—	砂粒(白・多・透)	良好	10YR4/2 (暗灰黄)	中期後葉 連弧文系
		トレンチ3	円筒埴輪	—	—	(2.6)	外面は器面が剥落、内面は窓位のナメ調整	—	砂粒(白・多・金・多・透)	やや軟質 金多・赤	7.5YR5/4 (浅黄褐色) 7.5YR6/4 (にふい褐)	筑波山周辺もしくは元太田山湖輪盤力 6世紀前半
143	水戸城跡 (第7地点若石)	大型円形土坑	陶器・不明 (仏壇・具カ)	(6.6)	—	(3.3)	輪廓成形・灰釉・ 内面底面以下無釉、底部(脚部)欠損、内外に貫入あり	—	—	—	—	产地不明 18世紀後半～
		大型円形土坑	磁器・碗・ 平底碗	(9.6)	(3.2)	(4.4)	輪廓成形・染付・ 透明釉、窓付無釉・ 外面部文	30	—	—	—	肥前產 1700年代～ 1860年代
		大型円形土坑	磁器・碗・ 小丸碗	(9.3)	—	(5.4)	輪廓成形・染付・ 透明釉、外面部文層 帶部分第一重施釉、 体部露窓文、高台脚 部脚部に露窓文、足 込み・垂�断	—	—	—	—	肥前產 1760年代～ 1810年代
		大型円形土坑	磁器・折縁 筒型碗	(9.8)	(4.7)	(7.4)	輪廓成形・染付・ 透明釉、窓付無釉・ 外面部文・本・皮文・ 高台第一重施釉。高 台二重施釉、折縁 上面に四方花文(輪 花)、足込み二重施 釉、足込中央に五 瓣花文	40	—	—	—	肥前產 17世紀～ 18世紀前半
		大型円形土坑	陶器・水鉢 (植木鉢転用)	—	—	(4.9)	動作り成形・灰釉・ 灰釉・外面部流水文・ 水飛沫部分を刻美 第114図6・7・ 8と同一個体	—	—	—	—	瀬戸・美濃產 18世紀後半～
		大型円形土坑	陶器・水鉢 (植木鉢転用)	—	—	(7.3)	動作り成形・灰釉・ 灰釉・外面部高台・ 外面部流水文・水飛沫 部分を刻美、内面目 面2周部、側面窓穿 孔・第143図5・6・ 9と同一個体	—	—	—	—	瀬戸・美濃產 18世紀後半～
		大型円形土坑	陶器・水鉢 (植木鉢転用)	—	高台径 (19.0)	(8.9)	動作り成形・灰釉・ 灰釉・外面部流水文・ 水飛沫部分を刻美 第114図5・7・ 8と同一個体	—	—	—	—	瀬戸・美濃產 18世紀後半～
		大型円形土坑	陶器・水鉢 (植木鉢転用)	—	—	(9.6)	動作り成形・灰釉・ 灰釉・外面部流水文・ 水飛沫部分を刻美 第114図5・6・ 7と同一個体	—	—	—	—	瀬戸・美濃產 18世紀後半～

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数	出土位置	法量(cm)				観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外・内面)	生産地・ 年代等						
				細別	口径	底径	器高												
143	9	水戸城跡 (第7地盤2次)	大形円形土坑 土器・火鉢・ 土師質	(22.0)	—	(6.0)	輪輞成形／外 面ミガキ、内 面煤付着	—	砂粒(白・ 透)	良好	10YR6/2(灰黄 褐色) 10Y3/1(黒褐色)	在地産か 近世以降							
144	11	大形円形土坑 瓦・平瓦	瓦	最大幅 (15.5)	最大長 (19.5)	厚さ (1.95)	板作り・型當 て成形	—	砂粒(白・ 透)	良好	凸面:25Y4/1(淡黃 色) ~ 25Y7/3(淡黃 色) 10Y3/1(オリーブ 色) ~ 10Y6/6(暗 褐色) 10Y7/6(明黄色)	在地産 17~18世紀							
	12							板作り・型當 て成形／穿孔1箇所	—	砂粒(白・ 透)	良好	凸面:NA4/0(灰 色) ~ N5/0(灰 色) 10Y3/1(オリーブ 色) ~ 10Y6/6(暗 褐色) 10Y7/6(明黄色)	在地産 17~18世紀						
145	13	大形円形土坑 瓦・平瓦	瓦・平瓦	最大幅 (14.0)	最大長 (10.7)	厚さ (1.65)	板作り・型當て 成形／穿孔1箇所	—	砂粒(白・ 透)	良好	凸面:25Y4/1(淡黃 色) ~ 25Y7/3(淡黃 色) 10Y3/1(オリーブ 色) ~ 10Y6/6(暗 褐色) 10Y7/6(明黄色)	在地産 17~18世紀							
	14						板作り・型當て 成形／被熱	—	砂粒(白・ 透)	良好	凸面:10Y1/1(灰 白) ~ 10Y5/1(灰 白) 10Y7/1(灰 白) ~ 10Y9/1(灰 白)	在地産 17~18世紀							
146	1	杏掛遺跡 (第4地盤2次)	表土	繩文土器・ 深鉢	—	—	(3.1)	単節LR繩文が 縦位に分かれて回転 施紋	—	砂粒(白・ 透)	普通	2.5Y6/3(ふい青 色) ~ 2.5Y5/2(オ リーブ色) 2.5Y6/3(ふい黄 色)	加賀利E式 後期						
	2						(2.7)	単節RL繩文が 回転施紋	—	砂粒(白・ 透)	普通	10Y6/4(ふい青 色) ~ 25Y4/1(淡 黄色) 10Y3/1(黒褐色)	後期以降 10Y3/1(黒褐色)						
	3						(4.7)	外面に刷毛目	—	砂粒(白・ 透)	普通	2.5Y5/3(黄褐色) 2.5Y7/3(淡黃色)	古墳時代 前期						
	4						(5.1)	外面に刷毛目	—	砂粒(白・ 透)	普通	10Y8/7/6(明黄色) 2.5Y7/3(淡黃色)	古墳時代 前期						
	5						(4.4)	(1.0)	底面はナデ	—	砂粒(白・ 透)	普通	2.5Y6/3(ふい青 色) 2.5Y7/4(淡黃色)	古墳時代 前期					
147	6	P05	土師器・甕 /壺	(24.8)	—	(4.0)	外面はナデ、 内面は横位の 刷毛目	—	砂粒(白・ 透)	良好	7.5YR7/6(桜色) 7.5YR7/6(桜色) 7.5TR6/8(黃褐色)	古墳時代 前期							
148	7	SK03	土器・皿・ 土師質	—	(9.0)	(1.1)	底面は回転系 切り	—	砂粒(赤 多・透)	良好	10Y7/4/6(ふい 黄褐色)	近世							
151	1	一戦塚遺跡 (第1地盤2次)	SI01	土師器・有 段口縁壺	(19.6)	棱部怪 (12.0)	(6.0)	有段口縁部外面に 刷毛目、縁部には 細かい突起が、中 部には刷毛目	—	砂粒(白・ 透)	良好	10Y6/3(ふい青 色) 5YR4/6(赤褐色)	古墳時代前 期後半~末葉						
	2		SI01	土師器・有 段口縁壺	(18.0)	—	(16.5)	外面は板状工 具によるナデ	30	砂粒(白・ 透・黒)	良好	10Y6/4(ふい青 色) 10Y6/3(ふい青 色) ~ 10Y3/1(黑 色)	古墳時代前 期後半~末葉						
	3		SI01	土師器・甕	(19.0)	—	(19.5)	外面は口縁部に 刷毛目、脚部には 刷毛目及びナデ調 整	20	砂粒(白・ 透・赤)	良好	7.5YR4/4(桜色) 7.5YR4/4(桜色) 7.5TR1/2(黒)	古墳時代前 期後半~末葉						
	4		SI01	土師器・甕	(18.8)	—	(5.3)	口縁部外面は指ナ 子型、内部は刷毛 目、脚部外面は刷毛 目	—	砂粒(白・ 透・赤)	良好	10Y4/4(黒) 10Y5/4(黒) 10Y5/4(ふい青 色) ~ 10Y1/1(黒)	古墳時代前 期後半~末葉						
152	5	SI01	土師器・甕	—	(8.4)	(9.6)	脚部外側は刷毛 目及び板状工具 によるナデ調整、 底部はナデ調整	15	砂粒(白・ 多・透・ 粗多・赤)	良好	5YR5/6(明赤褐色) 7.5TR7/6(桜色)	古墳時代前 期後半~末葉							
153	6	SI01	土師器・甕	(17.0)	—	(4.1)	口唇部に三角状 の刻み目、内外 面はナデ調整	—	砂粒(白・ 透)	良好	7.5YR3/3(暗褐色) 7.5YR4/4(桜色)	古墳時代前 期後半~末葉							
154	7	SI01	土師器・甕	(17.0)	—	(4.1)	口唇部に三角状 の刻み目、脚部 は刷毛目	—	砂粒(白・ 透)	良好	10Y5/4(黒) 10Y7/4(黒)	古墳時代前 期後半~末葉							
155	8	SI01	土師器・甕	(17.0)	—	(15.3)	口唇部は平底、脚部 は刷毛目及びミガキ 調整、内部はナデ調 整	40	砂粒(白・ 透)	良好	2.5Y4/4(黄 褐色) ~ 2.5Y7/4(暗褐色) 7.5Y4/3(黒) 7.5Y4/4(黒)	古墳時代前 期後半~末葉							

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数	出土位置	種別・器形	法量(cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成 (外面・内面)	生産地・ 年代等
					細別	口径	底径					
151	9	一戰塚遺跡 第1地點2次	SI01	土師器・甕	(17.5)	—	(16.4)	口縁は平錐、腹部 は刷毛目及びミ ガキ調整。内面は ナデ調整	40	砂粒(白・ 透)	良好 7.5YR3/1(黒褐色) ~7.5YR4/2(褐色) 2.5YR4/4(にぶい 赤褐色)	古墳時代前期 後半~末葉
				SI01	土師器・甕	(13.0)	5.2	(13.9)	外面は刷毛目、 側面部内面・底部 はナデ調整	60	砂粒(白・ 透・赤)	良好 10YR7/4(にぶい 黒褐色) ~10YR2/2 (黒褐色) 5YR5/4(にぶい 黒褐色)
152	11		SI01	土師器・甕	—	(7.0)	(1.7)	底部に木葉痕	—	砂粒(白・ 透・銀・ 黒)	5YR5/3(明赤褐色) 5YR6/6(橙)	古墳時代前期 後半~末葉
				SI01	土師器・甕	—	(8.0)	(1.8)	外面は板状工具による ナデ調整及びミガキ調 整。内面は刷毛目。 底部はナデ調整	—	砂粒(白・ 透)	良好 10YR5/8(黒褐色) 10YR4/3(にぶい黒 褐色) 10YR2/1(黒) ~ 10YR5/4(にぶい黒 褐色)
13			SI01	土師器・甕	—	(20.0)	(4.0)	底部に木葉痕	—	砂粒(白・ 透)	良好 7.5YR5/4(にぶい 黒褐色) ~7.5YR2/1(黒) 5YR3/2(暗赤褐色)	古墳時代前期 後半~末葉
				SI01	土師器・甕	最大径 (11.9)	6.6	(7.5)	外面は板状工具によ るナデ調整及びミガキ調 整。内面はナデ調整	40	砂粒(白・ 透)	良好 10YR6/2(灰褐色) 10YR8/2(灰白)
14			SI01	土師器・器台	7.2	10.4	7.2	外面は板状工具によ る籠位のナデ調整。受部 は内面にも一部有り。 底面は外側一部有り。 内面はナデ調整	98	砂粒(白・ 透・銀・ 黒)	普通 7.5YR5/6(明赤褐色) ~7.5YR7/6(黒褐色)	古墳時代前期 後半~末葉
				SI01	土師器・器台	7.5	11.5	7.8	外面は板状工具によ る籠位のナデ調整。受部 は内面にも一部有り。 底面は外側一部有り。 内面はナデ調整	70	砂粒(白・ 多・透)	良好 5YR5/6(明赤褐色) 5YR5/4(にぶい 赤褐色)
15			SI01	土師器・器台	—	(12.0)	(8.3)	脚部の外側は 籠位のミガキ 調整。内面は 脚位の刷毛目	30	砂粒(白・ 透・銀・ 赤)	良好 10YR7/4(にぶい 黒褐色) 10YR6/4(にぶい 黒褐色)	古墳時代前期 後半~末葉
				SI01	土師器・壺	—	(2.3)	(4.5)	外表面ともに ナデ調整。外 表面はミガキ調 整後に赤褐色	40	砂粒(白・ 多・透)	良好 10YR1.7/1(黒) 2.5YR3/4(赤褐色)
16			SI01	土師器・壺	—	(4.0)	(4.5)	内外面ともナ デ調整	70	砂粒(白・ 透・銀・ 黒)	普通 10YR6/4(にぶい 黒褐色) 10YR4/2(灰褐色)	古墳時代前期 後半~末葉
				SI01	土師器・壺	(8.1)	(4.4)	(5.8)	内外面ともナ デ調整	55	砂粒(白・ 透・難)	普通 2.5YR6/3(にぶい 黒褐色) 5Y/3(アリーブ) ~2.5YR5/3(黒褐色)
17			SI01	土師器・手 捏ね土器	(5.6)	(4.3)	(4.7)	内外面ともナ デ調整	60	砂粒(白・ 透・赤)	普通 10YR4/4(にぶい 黒褐色) 10YR5/5(黒褐色) ~10YR2/2(黒褐色) 10YR4/4(にぶい 黒褐色) 10YR3/2(黒褐色)	古墳時代前期 後半~末葉
				SI01	土師器・手 捏ね土器	5.0	4.8	3.1	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	100	砂粒(白・ 多)	普通 10YR5/4(にぶい 黒褐色) ~10YR3/1(黒褐色) 7.5YR5/6(黒) ~ 7.5YR4/1(黒褐色)
18			SI01	土師器・手 捏ね土器	4.0	1.4	3.0	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	100	砂粒(白・ 多)	普通 10YR1.7/1(黒) ~10YR5/6(黒褐色) 10YR3/2(黒褐色)	古墳時代前期 後半~末葉
				SI01	土師器・手 捏ね土器	(3.6)	(2.0)	(3.2)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 多)	普通 10YR6/3(にぶい 黑褐色) ~10YR2/1(黒褐色) 10YR5/4(にぶい 黒褐色)
19			SI01	土師器・手 捏ね土器	(4.5)	(4.0)	(2.9)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通 10YR5/4(にぶい 黒褐色) ~10YR2/1(黒褐色) 10YR3/2(黒褐色)	古墳時代前期 後半~末葉
				SI01	土師器・手 捏ね土器	3.2	3.0	2.8	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 透)	普通 5YR1/2(黒褐色) ~5YR5/2(灰褐色) 5YR4/1(灰褐色)
20			SI01	土師器・手 捏ね土器	(3.8)	(2.6)	(3.0)	内外面ともに指 頭による押さえ 及びナデ調整	90	砂粒(白・ 多)	普通 7.5YR3/1(黒褐色) ~7.5YR5/6(黒褐色) 10YR2/1(黒褐色) ~7.5YR5/5(黒褐色)	古墳時代前期 後半~末葉
				SI01	土師器・手 捏ね土器	—	—	—	—	—	—	—
21												
22												
23												
24												
25												
26												
27												

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量(cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
152	28	一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	SI01	土師器・手捏ね土器	(3.5)	(2.0)	(2.8)	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	80	砂粒(白多)	普通	75Y84/6(黒) 75Y85/3(灰)	古墳時代前期 後半～末葉		
	29		SI01	土師器・手捏ね土器	(3.8)	(2.5)	(1.0)	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白透)	普通	10YR4/1(褐灰) 10YR5/4(にじ い黄褐)	古墳時代前期 後半～末葉		
	30		SI01	土師器・手捏ね土器	(3.2)	(1.5)	(2.5)	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白透)	普通	7.5YR6/6(褐) ~10YR4/1(褐灰) 7.5YR6/6(黒)	古墳時代前期 後半～末葉		
	31		SI01	土師器・手捏ね土器	5.0	3.2	3.3	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白透)	普通	10YR4/4(にじ い黄褐) ~10YR1/1(黒) 10YR4/4(にじ い黄褐)~10R2/3(黒)	古墳時代前期 後半～末葉		
	32		SI01	土師器・手捏ね土器	(3.6)	(2.5)	(3.0)	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白透)	普通	7.5YR6/6(褐) ~7.5YR2/1(黒) 7.5YR7/6(棕)	古墳時代前期 後半～末葉		
	33		SI01	土師器・手捏ね土器	(3.6)	(2.8)	(3.1)	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白透)	普通	7.5YR6/6(褐)	古墳時代前期 後半～末葉		
	34		SI01	土師器・手捏ね土器	(2.9)	(1.5)	(2.2)	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白透)	普通	10YR2/1(黒) 10YR4/1(褐灰)	古墳時代前期 後半～末葉		
	35		SI01	土師器・手捏ね土器	2.9	2.0	3.3	内外面ともに指頭による押さえ及びナデ調整	90	砂粒(白透)	普通	7.5YR2/1(黒) 7.5YR4/2(灰褐)	古墳時代前期 後半～末葉		
153	1		SD01	土師器・环	(15.0)	—	(4.5)	口縁部は横位のナデ及びミガキ調整、内部外面は反時計回りの手持ちハサケツリ	45	砂粒(白透・赤)	良好	10YR5/3(にじ い黄褐)~10YR1/2(黒) 10YR1/2(黒)~ 10YR5/3(にじ い黄褐)	6世紀前葉 ～中葉		
	2		SD01	須恵器・無台环	—	(9.0)	(1.6)	内外面ともに口クロ口水洗整形	—	砂粒(白多・透)	良好	5Y7/2(灰白) 5Y6/1(灰)	木葉下室跡群 益良・安代		
	3		SD01	須恵器・無台环	—	(8.0)	(1.3)	内外面ともにロクトロ口水洗整形、底部は回しハラ切り	—	砂粒(白多・透・赤)	良好	2.5Y8/4(淡黄) 2.5Y8/5(淡黄)	产地不明 益良・平安時代		
	4		SD01	須恵器・有台环	—	(11.0)	(2.4)	内外面ともに口クロ口水洗整形	—	砂粒(白多・透)	良好	5Y7/1(灰白)	木葉下室跡群 益良・安代		
	5		SD01	須恵器・环蓋	(14.0)	—	(2.0)	内外面ともに口クロ口水洗整形	—	砂粒(白多・透)	良好	5Y7/1(灰白)	木葉下室跡群 8世紀後半～9世 紀前葉		
	6		SD01	須恵器・环蓋	(15.2)	—	(1.8)	内外面ともに口クロ口水洗整形	—	砂粒(白多・透)	良好	5Y5/1(灰白) ~N4/0(灰) 7.5Y5/1(灰)	木葉下室跡群 8世紀後半～9世 紀前葉		
	7		SD01	須恵器・高环	最大径 (6.9)	—	(4.7)	内外面ともに口クロ口水洗整形、長方形透しは4箇所	—	砂粒(白多・透)	堅緻	2.5Y5/1(黄灰)	木葉下室跡群 8世紀後半～9世 紀前葉		
	8		SD01	須恵器・甕	頸部径 (16.0)	—	(4.7)	内外面ともに口クロ口水洗整形、第153回10と同一個体	—	砂粒(白多・透)	良好	10YR6/1(褐灰) 10YR6/1(灰) ~10YR7/1(灰)	木葉下室跡群 8世紀後半～9世 紀前葉		
	9		SD01	須恵器・甕	頸部径 (16.0)	—	(4.7)	内外面ともに口クロ口水洗整形、第153回8と同一個体	—	砂粒(白多・透)	良好	10YR6/1(褐灰) 10YR6/1(灰) ~10YR7/1(灰)	木葉下室跡群 8世紀後半～9世 紀前葉		
	10		SD01	須恵器・甕	—	(18.0)	(6.0)	内外面ともに口クロ口水洗整形、底部立ち上がり時は近はハラケズリ調整	—	砂粒(白銀・透)	良好	5Y7/1(灰白) 5Y8/1(灰白)	产地不明 9世紀前葉		
	11		SD01	須恵器・短颈甕	最大径 (19.0)	高台径 (11.4)	(8.2)	内外面ともに口クロ口水洗整形	20	砂粒(白多・透)	堅緻	7.5Y5/1(灰)	木葉下室跡群 8世紀後半～9世 紀前葉		
	12		SD01	須恵器・甕	最大径 (19.0)	—	(6.2)	内外面ともに口クロ口水洗整形、外面は平行叩き	—	砂粒(白多・透)・ 骨針	良好	5Y7/2(灰白) ~5Y4/1(灰) 5Y6/1(灰) ~5Y7/1(灰白)	木葉下室跡群 9世紀前葉		
	13		SD01	須恵器・甕	—	—	(10.7)	正面は正格子明き、内面は同心円明き	—	砂粒(白透・黒)	普通	5Y7/1(灰白) 5Y7/2(灰白)	山田窯跡群 7世紀後半～8世 紀前葉		
154	14		SD01	須恵器・甕	—	—	(4.7)	正面は平行叩き、内面は当て具痕無し	—	砂粒(白透・黒)	堅緻	2.5Y7/2(灰白) 2.5Y5/2(灰) 2.5Y7/2(灰白)	产地不明 益良・平安時代		

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	法量(cm)				観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高						
155	1	一戦塚遺跡 (第1地盤2次)	遺構外 縄文土器・ 深鉢		—	—	(2.7)	上部に連続竪突文と浅い圓形文を施す。下部に目隠壓印文を施す。	—	砂粒(白多・透)	良好	10YR4/2(灰黒)	前期後葉浮島式
	2		遺構外 弥生土器・ 壺		—	—	(3.5)	外面には附加条闊文を回転施紋	—	砂粒(白多・黒・透)・骨針	良好	10YR5/3(にぶい黄褐) 10YR5/4(にむい黄褐)～2.5Y4/1(灰)	後期十王台式
	3		遺構外 弥生土器・ 壺		—	(9.4)	(1.8)	外面には附加条闊文を回転施紋、底面には押型の細かい布目有	—	砂粒(白透・赤)	良好	10YR7/4(にぶい黄褐) 10YR8/3(浅黄)	後期十王台式
	4		遺構外 弥生土器・ 壺		—	—	(2.8)	外面には附加条闊文を回転施紋	—	砂粒(白多・透)・ 骨針	良好	10YR7/4(にぶい黄褐) 7.5YR6/6(橙)～10YR7/4(にぶい黄褐)	後期十王台式
	6		遺構外 土師器・壺	(10.9)	(5.0)	(10.9)	外面・内面ともにナテ調整、口縁部外側は一部ミガキ調整、胸腹部内部と底外部及び底部有	98	砂粒(白・透・黒)	良好	2.5Y3/1(黒褐) 10R4/6(赤) 10R4/6(赤)	古墳時代前葉後半～末葉	
	7		遺構外 土師器・高 环	—	—	(8.0)	外面は竜位のミガキ調整で赤彩	—	砂粒(白・透・黒多)	良好	2.5YR4/4(にぶい黄褐)～7.5YR5/2(灰黒)	古墳時代前葉後半～末葉	
	8		遺構外 土師器・壺	—	(5.8)	(3.3)	外面はハラミガキ調整、内面は崩毛自	—	砂粒(白・透)	良好	10YR1.7/1(黒) 7.5YR5/6(明黄) 7.5YR7/6(橙)	古墳時代前葉後半～末葉	
	10		遺構外 土師器・环	(14.0)	—	(4.6)	体部外側はハラミガキ調整、内面及び内側の底部より半身赤彩	—	砂粒(白・透)	良好	5YR5/8(明黄褐) ～5YR17/1(黒) 5YR6/8(橙)	6世紀前葉～中葉	
	11		遺構外 須恵器・無 台环	—	(8.0)	(3.4)	内外面ともに口クロコ水挽整形、底部はハフケズリ調整	—	砂粒(白多・透)	良好	5Y6/1(灰)	木葉下窯跡群 9世紀後葉	
	12		SAO1-P1 柱振り方盤土	須恵器・环	(12.0)	—	(1.0)	内外面ともに口クロコ水挽整形	—	砂粒(白多)	良好	10YR8/1(灰白) 10YR5/1(灰黒)	山田窯跡群 7世紀第4四半期
158	1	台東里官道跡 (台東里第69次)	SAO1-P1 柱振り方盤土	須恵器・环	(16.0)	—	(1.7)	内外面ともに口クロコ水挽整形	—	砂粒(白・銀・黒)	良好	10YR5/4(にぶい黄褐)	新治野窯跡群 7世紀第4四半期
	2		SAO1-P1 柱振り方盤土上層	須恵器・环	—	最大径 (13.0)	(4.4)	内外面ともに口クロコ水挽整形	—	砂粒(透・黒)	良好	2.5Y8/1(灰白)	7世紀第4四半期
	3		SAO1-P1 柱振り方盤土	須恵器・短 脚叶盤	—	—	(3.1)	内外面ともに口クロコ水挽整形折り返し口縁上に櫛振き波文	—	砂粒(白多)	堅織	N4/0(灰)	7世紀第4四半期
	4		SAO1-P3a	須恵器・壺	—	—	(6.0)	外面は擬格子状叩き、内面は同心円文叩き	—	砂粒(白多・透・黒)	良好	7.5Y6/1(灰)	山田窯跡群 7世紀第4四半期
	5		SAO1-P2	土師器・壺	—	—	(3.0)	外面は粗い平行叩き	—	砂粒(白多・透多)	良好	2.5Y4/2(暗灰) 2.5Y6/2(灰黄)	山田窯跡群 7世紀第4四半期
	6		SAO1-P5 柱振り方盤土	須恵器・無 台环	(12.0)	(8.5)	(3.2)	内外面ともに口クロコ水挽整形	—	砂粒(白多)	良好	5Y6/1(灰)	山田窯跡群 7世紀第4四半期
	7		SEO1	覆土 須恵器・壺	—	—	(4.2)	外面は擬格子状叩き、内面は同心円文叩き	—	砂粒(白多・透)	良好	10YR4/1(灰) 10YR6/2(灰黄)	山田窯跡群 7世紀第4四半期
	8		SEO1	覆土 須恵器・环	—	—	(1.7)	内外面ともに口クロコ水挽整形	—	砂粒(黑)	良好	2.5Y7/2(灰黄)	瀬西窯跡群
	9		SEO1	覆土 瓦・平瓦	—	—	—	凸面正格子叩き、凹面は布目に特板压痕	—	砂粒(白多)	良好	7.5Y7/1(灰白)	
	10		SEO1	覆土 瓦・平瓦	全長 (7.8)	厚さ (1.8)	重量 120g	凸面正格子叩き、凹面は布目に特板压痕	—	砂粒(白多)	良好	7.5Y6/1(灰)	
	11		SEO1	覆土 瓦・平瓦	全長 (7.8)	厚さ (1.9)	重量 92.8g	凸面正格子叩き、凹面は布目	—	砂粒(白多・透)	良好	N6/0(灰)	
	12		SEO1	覆土 瓦・平瓦	全長 (5.3)	厚さ (2.5)	重量 134.6g	凸面叩き、凹面は布目	—	砂粒(白多・透)・チャーフー上種	良好	10YR8/3(浅黄) 10YR8/4(黄)	木葉下窯跡群

因版	番号	遺跡名 (地点名・ 次數)	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高								
159	13	台湾区官田郡 台湾区第10次	SE01 覆土 土器・カワ ラケ	—	(7.0)	(1.0)		輪轂成形 / 土 師質	—	砂粒(銀・ 赤)・骨 針	良好	5YR6/6 (橙)		在地産か 近世以降	
	14		SE01 覆土 陶器・皿・ 折縁皿	(12.0)	(7.4)	(3.5)		輪轂成形 / 灰埴、外 面・側付・蓋台内無 輪、蓋台内無輪、蓋 人あり、外面部部保 付有	—	—	—	—	—	窓戸・美濃產 1600年代～ 1660年代	
	15		SE01 覆土 陶器・皿・ 灰釉稜皿	(16.0)	(10.3)	(2.9)		輪轂成形 / 灰埴、蓋 付・蓋台内無輪、削 出高台、内面部人質 あり	—	—	—	—	—	窓戸・美濃產 17世紀中葉～ 18世紀前葉	
	16		SE01 覆土 陶器・蓋物	(12.4)	(12.4)	6.9		輪轂成形 / 外面灰埴、 蓋付・削り取り波状 の文様をあらわす、 口縁部施拭取、内面 無輪、底輪垂あり、 底正輪、三足脚付、 手ねじ輪付有	50	—	—	—	—	在地産か 近世以降	
	17		SE01 覆土 土器・土鍋・ 瓦質	(17.2)	(12.0)	(4.5)		輪轂成形 / 内外 面保付着、外面部 部輪離着し	—	砂粒(銀・ 透)	良好	7.5Y3/1 (才 リープ黒)		在地産か 16世紀後期以 降、内耳土鍋の 可能性あり	
	18		SE01 覆土 土器・土鍋・ 土師質	(28.0)	—	(6.0)		輪轂成形 / 内 外面保付着	—	砂粒(銀・ 透)	良好	2.5V2/1 (黒) 2.5V4/2 (暗灰 色)		在地産か 16世紀後期以 降、内耳土鍋の 可能性あり	
	19		SE01 覆土 土器・擂鉢・ 瓦質	(32.0)	—	(6.3)		輪轂成形 / 内面 標目4本、薄手、 23と同一側体カ ー	—	砂粒(白・ 黒・透)	良好	5Y5/1 (灰)		在地産か 近世以降	
	20		SE01 13層 土器・土鍋・ 土師質	(36.0)	—	(5.8)		輪轂成形 / 内 外面保付着	—	砂粒(銀・ 透)	良好	2.5Y3/1(黒) 2.5V4/2(灰)		在地産か 16世紀後期以 降、内耳土鍋の 可能性あり	
	21		SE01 覆土 土器・土鍋・ 瓦質	(40.0)	—	(7.3)		輪轂成形 / 内 外面保付着	—	砂粒(銀・ 透)	良好	10YR2/1 (黒) 10YR7/4 (にじ 黒)		在地産か 16世紀後期以 降、内耳土鍋の 可能性あり	
	22		SE01 覆土 土器・瓶・ 土師質	(23.7)	(22.0)	18.3		輪轂成形	70	砂粒(白・ 黒・透) ・骨針	良好	10YR6/3 (にじ 黒)～10YR2/1 (黒)		常滑產力 中世～近世	
	23		SE01 覆土 土器・擂鉢・ 瓦質	(29.0)	(11.9)	(11.6)		輪轂成形 / 内面 標目4本を対称 に配置、薄手、 19と同一側体カ ー	—	砂粒(白・ 黒・透)	良好	5Y5/1 (灰)		在地産か 近世以降	
162	1	台湾区官田郡 台湾区第70次	SD01 東区 上層	須恵器・环 蓋	摸内径 (3.9)	—	(1.2)	環状鉗	—	砂粒(白・ 多・銀多)	良好	7.5Y7/1 (灰白)		新治窯跡群	
	2		SD01 東区 上層	須恵器・环 蓋	(12.0)	—	(0.9)	内外面ともに口 クロワ挽整形、 内面にかえり	—	砂粒(白・ 黑)	良好	5Y8/1 (灰)		山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群 7世紀第4 四半期	
	3		SD01 東区 上層	須恵器・环 蓋	(14.0)	—	(1.5)	内外面ともに口 クロワ挽整形、 内面にかえり	—	砂粒(白・ 多・銀多)	良好	10YR5/3 (にじ 黄白) 10YR5/2 (灰黒)		新治窯跡群 7世紀第4 四半期	
	4		SD01 東区 上層	須恵器・环 蓋	(12.0)	—	(1.8)	内外面ともに口 クロワ挽整形、 端部は折り返し	—	砂粒(白・ 多)	良好	5Y7/1 (灰) N7/0 (灰白)		山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群 7世紀第4 四半期	
	5		SD01 東区 上層	須恵器・長 柄頭	(16.0)	—	(2.3)	内外面ともに口 クロワ挽整形	—	砂粒(白・ 黑)	堅緻	5Y4/3 (暗才 リープ)		湖西窯跡群	
	6		SD01 東区 下層	須恵器・环 蓋	(14.0)	—	(1.5)	内外面ともに口 クロワ挽整形、 内面にかえり	—	砂粒(白・ 透)	良好	5Y8/1 (灰)		山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群 7世紀第4 四半期	
	7		SD01 東区 下層	須恵器・环 蓋	(14.0)	—	(0.9)	内外面ともに口 クロワ挽整形、 内面にかえり	—	砂粒(白・ 透)	良好	5Y8/1 (灰)		山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群 7世紀第4 四半期	
	8		SD01 東区 下層	須恵器・环 蓋	(12.0)	—	(1.4)	内外面ともに口 クロワ挽整形、 端部は「く」字 状	—	砂粒(白・ 多・黒多・ 透)	堅緻	N6/0 (灰) 10Y6/1 (灰)		山田窯跡群 もしくは木 葉下窯跡群 7世紀末	

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次第	出土位置	種別・器形				法量(cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高									
162	9	台東里百舌鳥 (台東里第70次)	SD01 東区 下層	須恵器・無 台坏	(14.0)	(11.0)	(4.0)	内外面ともに口 クロ口水挽整形	—	砂粒(白・ 多)	堅織	10Y2/1(黒) 10Y4/1(灰)	山田窯跡群 もしくは木葉下窯跡群			
	10		SD01 東区 下層	須恵器・甕	—	—	(3.7)	外面に同心円 文叩き	—	砂粒(白・ 銀・透)	やや 軟質	10Y4/6(黒) 10Y6/3(にぶ い黄)	新治窯跡群			
	11		SD01 西区 上層	須恵器・环 蓋	—	(1.3)	宝珠状だが、 丸みを帯び扁平に近い	—	砂粒(白・ 銀・透)	良好	7.5Y5/1(灰)	新治窯跡群				
	12		SD01 西区 上層	須恵器・环 蓋	(14.0)	—	(1.5)	内外面ともに口 クロ口水挽整形、 内面にかえり	—	砂粒(白・ 多・銀多・ 透)	良好	5Y5/1(灰)	新治窯跡群			
	13		SD01 西区 上層	須恵器・有 台坏	—	高台径 (10.3)	(2.0)	内外面ともに口 クロ口水挽整形	—	砂粒(白・ 銀・透)	やや 軟質	10Y6/3(にぶ い黄)	山田窯跡群 もしくは木葉下窯跡群			
	14		SD01 西区 上層	須恵器・环 蓋	(14.0)	—	(1.5)	内外面ともに口 クロ口水挽整形、 端部は「く」字 状	—	砂粒(白・ 黒多)	やや 軟質	7.5Y7/1(灰白)	山田窯跡群 もしくは木葉下窯跡群			
	15		SD01 西区 上層	須恵器・环 蓋	(16.0)	—	(1.1)	内外面ともに口 クロ口水挽整形、 端部は「L」字 状	—	砂粒(白・ 黒)		N3/0(灰)	山田窯跡群 もしくは木葉下窯跡群			
	16		SD01 西区 上層	須恵器・円 筒	—	最大径 (18.8)	(4.2)	脚部、刻線や 透しはない	—	砂粒(白・ 多・透・黒・ 赤)	良好	7.5Y6/1(灰)	山田窯跡群 もしくは木葉下窯跡群			
	17		SD01 西区 上層	須恵器・甕	—	—	(6.6)	外面は擬格子 叩き、内面は当 て目痕なし	—	砂粒(白・ 多・黒多・ 透)	堅織	7.5Y5/1(灰)	山田窯跡群 もしくは木葉下窯跡群			
	18		SD01 西区 上層	須恵器・甕	—	—	(2.6)	外面は正格子 叩き、内面は當 同心円文叩き	—	砂粒(白・ 多・赤・ 透)	良好	7.5Y4/1(灰)	山田窯跡群 もしくは木葉下窯跡群			
	19		SD01 西区 上層	須恵器・甕	—	—	(4.6)	外面は擬格子 叩き、内面は當 て目痕なし	—	砂粒(白・ 赤・透)	堅織	N4/0(灰)・ N6/0(灰)・ N6/0(灰)	山田窯跡群 もしくは木葉下窯跡群			
	20		SD01 西区 上層	須恵器・甕	—	—	(1.9)	外面は擬格子 叩き、内面は當 て目痕なし	—	砂粒(白・ 銀・透)	良好	7.5Y6/1(灰)	新治窯跡群			
	21		SD01 西区 上層	土師器・甕	—	(12.0)	(1.9)	外面はヘラガ ズリ調整、底 部は木葉痕	—	砂粒(白・ 多・銀多・ 透)	良好	5Y6/6(棕)・ 10Y7/3(に ぶい黄)	在地能力			
	22		SD01 西区 下層	須恵器・环 蓋	—	(4.1)	(1.3)	環状鉢	—	砂粒(白・ 銀多)	良好	5Y7/1(灰白)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期			
	23		SD01 西区 下層	須恵器・环 蓋	(12.0)	—	(1.5)	内外面ともに口 クロ口水挽整形、 内面にかえり	—	砂粒(白・ 多・銀多)	良好	7.5Y6/1(灰)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期			
	24		SD01 西区 下層	須恵器・环 蓋	(14.0)	—	(1.4)	内外面ともに口 クロ口水挽整形、 内面にかえり	—	砂粒(白・ 銀多)	良好	2.5Y7/2(灰黄) 10Y8/3(浅 黄)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期			
	25		SD01 西区 下層	須恵器・环 蓋	(18.0)	—	(1.2)	内外面ともに口 クロ口水挽整形、 端部は「く」字 状	—	砂粒(銀・ 黒)	良好	2.5Y7/1(灰白)	新治窯跡群			
	26		SD01 西区 下層	須恵器・环 蓋	(12.9)	—	(1.8)	内外面ともに口 クロ口水挽整形、 端部は折り返し	—	砂粒(白・ 銀・黒)	良好	2.5Y7/2(灰黄) 10Y8/3(浅 黄)	新治窯跡群			
	27		SD01 西区 下層	須恵器・無 台坏	—	(8.0)	(1.3)	内外面ともに口 クロ口水挽整形、 底部は回転ヘ ラ切り	—	砂粒(白・ 銀多・黒)	良好	5Y7/2(灰白)	新治窯跡群			
	28		SD01 西区 下層	須恵器・脚 付長颈甕	—	最大径 (17.6)	(6.8)	内外面ともに口 クロ口水挽整形、 体部に横走する 弦紋	—	砂粒(白・ 多・黒多)	堅織	5Y5/1(灰)	山田窯跡群 もしくは木葉下窯跡群 7世紀第4 四半期			
	29		SD01 西区 下層	須恵器・甕	—	—	(3.2)	外面は擬格子 叩き、内面は當 同心円文の當 て目痕	—	砂粒(白・ 透)	堅織	5Y2/1(黒) 5Y5/1(灰)	山田窯跡群 もしくは木葉下窯跡群			
163	30	SD01 ベルト中	須恵器・环 蓋	(14.0)	—	(1.5)	内外面ともに口 クロ口水挽整形、 内面にかえり	—	砂粒(白・ 銀多・黒)			2.5Y7/2(灰黄)	新治窯跡群 7世紀第4 四半期			

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次第	出土位置	法量(cm)				観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産年 代等
				細別	口径	底径	器高						
163	31	台造里百荷遺跡 (台造里第70次)	SD01 ベルト中	須恵器・甕	—	—	(4.2)	外面は擬格子 叩き、内面は當て具痕なし	—	砂粒(白・ 透・赤)	良好	7/5Y4/1(灰) 2.5Y7/3(浅黄)	山田製陶群 もしくは木葉下窯跡群
	32		SD01 ベルト中	土師器・环	—	—	(0.9)	底部外側に回転糸 切り、体部はヘラ ケズリ調整、内面 はミガキにより質 滑状の磨き面を表現	—	砂粒(白 多・透・黒)	良好	5YB6/6(橙)～ 2.5Y8/5(6(明赤 色)) 2.5Y8/6(赤褐)	在地産カ
	33		SD01 ベルト中	須恵器・环	—	—	—	内外面ともに口 クロ口を挽整形、 端部は「く」字 状	—	砂粒(白 多・黒)	堅織	N4/0(灰)	山田製陶群 もしくは木葉下窯跡群
	34		造構確認面 台环	須恵器・無 台环	(13.0)	—	(4.0)	外面ともに口 クロ口を挽整形、 端部は「く」字 状	—	砂粒(白 多・黒)	良好	2.5Y7/3(浅黄)	山田製陶群 もしくは木葉下窯跡群
	35		造構確認面 須恵器・甕	—	—	(4.6)	—	外面は平行叩 き、内面は同 上に文叩き	—	砂粒(白 多)	良好	10Y7/1(灰) 10Y8/4(6(黄相))	山田製陶群 もしくは木葉下窯跡群
	36		造構確認面 土師器・甕	(14.0)	—	(5.7)	—	内外面ともに ナデ調整、口 縁部分の内 面に沈線	—	砂粒(白 多・銀・透)	良好	5Y8/6(明赤褐) 5YR3/3(暗赤褐)	在地産カ
167	1	塙遺跡 (第22地点 第2次)	SD01 南区上層	土師器・环	(12.6)	(6.6)	4.4	—	38	砂粒(白 多・透) 骨針	良好	5YR6/8(橙) 5Y2/1(黒)	在地産カ 9世紀第3 四半期～第 4四半期
	2		SD01 南区上層	土師器・高 台付环	—	(7.1)	(2.3)	内外面ともに口 クロ口を挽整形、 内面は丁寧なミガ キ調整と黒色施 理。底部は回転ヘ ラ切り、体部外曲 に「南」の墨書き	20	砂粒(白 多・透)	良好	5YR6/8(橙) 2.5Y2/1(黒)	9世紀第2 四半期～第 3四半期
	3		SD01 南区上層	須恵器・無 台环	—	(6.4)	(2.4)	内外面ともに口 クロ口を挽整形、 底部は回転ヘラ切 り後、ナデ調整 、「」のヘラ記 号	—	砂粒(白 多・透) チャート 墨	良好	5Y6/1(灰)	木葉下窯跡群 9世紀第3 四半期
	4		SD01 南区上層	須恵器・有 台环	—	(7.5)	(2.7)	内外面ともに口 クロ口を挽整形、 内面見込に障灰輪	—	砂粒(白 多・黒)	堅織	7.5YR6/1(褐 灰)	木葉下窯跡群
	5		SD01 南区上層	須恵器・有 台环	—	(9.5)	(2.7)	内外面ともに口 クロ口を挽整形、 底部は回転ヘラ切 り。内面見込に黒 輪、転用現象	—	砂粒(白 多・透) チャート 墨・骨針	堅織	5Y5/1(灰)	木葉下窯跡群
	6		SD01 南区上層	須恵器・高 台付盤	—	(11.0)	(3.1)	内外面ともに口 クロ口を挽整形、 底部は回転ヘラ切 り	—	砂粒(白 多・透) 骨針	堅織	10Y4/1(灰)	木葉下窯跡群
	7		SD01 南区上層	瓦・軒平瓦	全長 (11.5)	幅 (15.0)	厚さ (3.9) 重量 (699) g	西面は長軸方向 のヘラケズリ及び ナデ調整、西面 は短軸方向の ナデ調整、輪積 み痕が認められ 泥条盤成技法に による表貼	—	砂粒(白 多・透) 2～5mm の大粒多	堅織	10YR5/1(褐 灰)	平安時代 3290型式も しくは3291 型式
	8		SD01 南区下層	須恵器・有 台环	—	(10.4)	(2.5)	内外面ともに口 クロ口を挽整形、 底部は回転ヘラ切 り。底裏に墨痕。 転用現象	—	砂粒(白 多・透) チャート 墨	堅織	N5/1(灰)	木葉下窯跡群
	9		SD01 南区下層	須恵器・有 台环	—	—	(2.5)	内外面ともに口 クロ口を挽整形、 底部は回転ヘラ切 り。底裏にヘラ 記号	—	砂粒(白 多・透) チャート 墨	良好	5Y5/1(灰)	木葉下窯跡群
	10		SD01 北区下層	須恵器・有 台环	—	(7.5)	(3.0)	内外面ともに口 クロ口を挽整形、 内面見込に削削 転用現象	—	砂粒(白 多・透) チャート 墨	堅織	7.5Y5/1(灰)	木葉下窯跡群 9世紀第2 四半期

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数	出土位置	法量(cm)				観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等	
				種別	口径	底径	器高							
167	11	断道跡 (第22地点 第2次)	SD01 北区上層	須恵器・無 台杯	(12.0)	—	(4.0)	内外面ともに口 クロ口挽整形	—	砂粒(白 多・黒多・ 赤)	良好 5Y6/2(オリー ブ灰) 5YS/1(灰)	木葉下宮跡部		
	12		SD01 北区上層	須恵器・甕	—	—	(4.4)	外面は幅広の 平行四辺形、内 面は当て具痕 なし	—	砂粒(白 多・黒多・ 赤)	堅緻 7.5Y5/1(灰)	木葉下宮跡部		
	13		遺構確認面	須恵器・有 台杯	—	(9.6)	(2.4)	内外面ともに口 クロ口挽整形、内 面見込み隙灰輪	—	砂粒(白 多・透多・ 赤)	良好 10YR5/3(に ぶい・黄褐色) 7.5YR6/6(橙) ~10YR4/1(褐 灰)	木葉下宮跡部		
	14		SI01	土師器・杯	(13.4)	—	(3.4)	口縁部外側は横位 のナガリ調整、体部 はヘラカズリ調整、 内面は横位・斜位の ナガリ調整	30	砂粒(白 多・黒・赤 透)	良好 10YR7/4(に ぶい・黄褐色) 7.5YR6/6(橙)	在地産力 7世紀前4 四半期		
	15		SI01	土師器・甕	—	9.3	(6.9)	体部外側はヘラナ ガリ調整、横位部 底面はヘラナガリ調 整	—	砂粒(白 多・眼多・ 透)	良好 7.5YR5/6(明 褐) 7.5YR6/4(に ぶい・橙)	在地産力 7世紀前4 四半期		
	16		SI01	土師器・甕	(26.0)	—	(10.9)	内外面ともに横位 のナガリ調整、口唇部 内面に横位の浅い 凹輪、内面に輪組み 指捺痕	—	砂粒(白 多・透多・ 黒・赤)	良好 7.5YR5/6(橙)	在地産力 7世紀前4 四半期		
	170	1	谷田遺跡 (第1地点第 2次)	SI1	土師器・杯	(14.0)	(10.0)	(3.5)	丸底体部に丸を有し、 口縁部が斜足、内面は 丁寧なヘミガリ調整、 放射状の内面、底面外 面はヘラカズリ調整	20	砂粒(白 多・眼多・ 透・黒・赤)	良好 5YR6/6(橙) 5YR5/8(明褐)	在地産力 5世紀後葉~ 6世紀前葉	
	2		SI1	土師器・杯	(16.0)	(12.6)	(4.3)	丸底体部に丸を有し、 口縁部が斜足、内面は 丁寧なヘミガリ調整、 放射状の内面、底面外 面はヘラカズリ調整	30	砂粒(白・ 透・銀)	良好 7.5YR3/1(黑褐) 7.5YR5/6(明赤) ~2YR2/3(晦暗赤褐)	在地産力 5世紀後葉~ 6世紀前葉		
	3		SI1	土師器・杯	(15.2)	(10.0)	(4.0)	丸底体部に丸を有し、 口縁部が斜足、内面は 丁寧なヘミガリ調整、 放射状の内面、底面外 面はヘラカズリ調整	30	砂粒(白 多・透・黒)	良好 7.5YR6/8(橙) 7.5YR5/6(明 赤褐)	在地産力 5世紀後葉~ 6世紀前葉		
	4		SI1	土師器・杯	(17.0)	(12.4)	(3.7)	丸底体部に丸を有し、 口縁部が斜足、内面は 丁寧なヘミガリ調整、 放射状の内面、底面外 面はヘラカズリ調整	—	砂粒(白 多・透・黒)	良好 5YR6/6(橙) 5YR5/6(明赤) 褐	在地産力 5世紀後葉~ 6世紀前葉		
	5		SI1	土師器・甕	(16.0)	—	(6.3)	内外面ともに横位 のナガリ調整、外面 には押さえの痕跡、口唇部 内面には横位や斜位 のナガリ調整	—	砂粒(白 多・透・黒 銀)	良好 2.5YR5/4(に ぶい赤褐)	在地産力 5世紀後葉~ 6世紀前葉		
	6		SI1	土師器・甕	(16.0)	—	(6.6)	内外面ともに横位 のナガリ調整、外面 には板状工具による 横位のナガリ調整の 痕跡、口唇部内面 には横位や斜位 のナガリ調整	—	砂粒(白 多・透・黒 銀) チャート擦	良好 5YR4/8(赤褐)	在地産力 5世紀後葉~ 6世紀前葉		
	7		SI1	土師器・甕	—	(8.0)	(3.8)	側面部外は、縱位の ヘラカズリ調整後、 ミガキ調整、底面・ 内面はナガリ調整	—	砂粒(白 多・透多・ 銀・黒)	良好 5YR1.7/1(黒) ~2.5YR4/6(赤 褐) 2.5YR5/6(明 赤褐)	在地産力 5世紀後葉~ 6世紀前葉		
	8		SI1	土師器・甕	—	(9.0)	(3.2)	側面部外は、縱位の ヘラカズリ調整後、 ミガキ調整、底面・ 内面はナガリ調整	—	砂粒(白 多・透・銀 赤)	良好 2.5Y2/1(黒)	在地産力 5世紀後葉~ 6世紀前葉		
	9		SI1	土師器・甕	—	(8.0)	(4.1)	側面部外は、縱位の ヘラカズリ調整後、 ミガキ調整、底面・ 内面はナガリ調整	—	砂粒(白 透多・黒 赤)	良好 N2/0(黒)~ 10YR6/4(に ぶい黄褐) 2.5Y3/1(黒褐)	在地産力 5世紀後葉~ 6世紀前葉		
	10		SI1	土師器・甕	—	(10.0)	(4.2)	側面部外・底面は、 縦位により器皿的 な形状が形成、肩付部 内面はナガリ調整	—	砂粒(白 多・透・銀 黒・赤)	良好 5YR6/8(橙) 5Y2/1(黒) 5YR5/6(明 赤褐)	在地産力 5世紀後葉~ 6世紀前葉		

図版	番号	遺跡名 (地点名・ 次数)	出土位置	法量 (cm)				観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高						
170	11	谷田遺跡 (第1地点第 2次)	SI1	土師器・甕	—	(6.9)	(2.0)	縁部外面は、横位の ヘラケツリ調整後、 ミガキ調整。底面、 内面はミガキ調整。	—	砂粒(白・ 多・透・銀・ 黒)	良好	5YR17/1(黒) ~ 2.5YR4/6(赤 褐) 2.5YR5/6(明 赤褐)	在地産カ 5世紀後葉~ 6世紀前葉
				SI1	土師器・甕	8.9	—	3.9				2.5YR5/6(明赤褐) ~ 2.5YR17/1(赤 褐) 2.5YR5/6(明赤褐)	
171	13		SI4	弥生土器・ 壺	—	(5.8)	—	口縁に凹縁状と 折り込込口縁状と なり、單節RL。箋文 が被施して回転施紋。 直下には切妻工具で 波状文と縦位区画 文を刻む。	—	砂粒(白・ 多・透・銀)	良好	2.5YR6/3(にぶい 黄褐) ~ 2.5YR3/1 (黒褐) 2.5YR7/2(灰黄)	壬子台2b式 古墳時代 前期前葉
172	14		SI5	土師器・环	14.0	—	5.2					10YR2/3(黒褐) ~ 10YR5/6(黒) 10YR7/4(にぶい 黄褐) 10YR3/2(明赤褐) ~ 10YR5/4(にぶい 黄褐)	
				SI5	土師器・环	(13.8)	—	(5.0)	金属感極端。底部は 丸底で、外周は半時 計刻りの方向に丁 寧なヘラケツリ調 整。口縁部は側面に 立ち上がる。口縁部 の内側面は連溝	—	砂粒(白・ 多・透・銀・ 赤)	良好	10YR7/3(に ぶい黄褐) 10YR5/4(に ぶい黄褐)
15	15		SI5	土師器・环	(13.8)	—	(6.0)	10YR7/4(に ぶい黄褐) 5YR6/6(橙)					
				SI5	土師器・环	(13.8)	—	(6.0)	金属感極端。底部は 丸底で、外周は半時 計刻りの方向に丁 寧なヘラケツリ調 整。口縁部は側面に 立ち上がる。口縁部 の内側面は連溝	—	砂粒(白・ 多・透・銀・ 赤)	良好	10YR7/4(に ぶい黄褐) 5YR6/6(橙)
16	16		SI5	土師器・环	(13.8)	—	(6.0)	10YR7/4(に ぶい黄褐) 5YR6/6(橙)					
				SI5	土師器・环	(13.8)	—	(6.0)	金属感極端。底部は 丸底で、外周は半時 計刻りの方向に丁 寧なヘラケツリ調 整。口縁部は側面に 立ち上がる。口縁部 の内側面は連溝	—	砂粒(白・ 多・透・銀・ 赤)	良好	10YR7/4(に ぶい黄褐) 5YR6/6(橙)
17	17		SI5	織文土器・ 深鉢	—	—	(2.6)	織漉土器。單節RL。 箋文が回転施紋	—	砂粒(白・ 多・透)	良好	5YR5/6(明赤褐) 2.5YR4/6(赤褐)	黒塗式
				SI5	織文土器・ 深鉢	—	—	(1.9)				2.5YR5/6(明赤褐) 2.5YR4/4(にぶい 黄褐)	
18	18		SI5	織文土器・ 粗製深鉢	—	—	(6.6)	織漉土器。箋文を回転 施紋	—	砂粒(白・ 多・透)	良好	10YR5/3(にぶい 黄褐) ~ 10YR2/1 (黒) 10YR5/4(にぶい 黄褐)	加曾利E 式
				SI5	織文土器・ 粗製深鉢	—	—	(2.3)				10YR5/3(にぶい 黄褐) ~ 10YR2/1 (黒) 10YR5/4(にぶい 黄褐)	
19	19		SI5	織文土器・ 粗製深鉢	—	—	(2.1)	單節RL。箋文を回転 施紋	—	砂粒(白・ 多・透)	良好	10YR7/6(明赤褐) 10YR7/4(にぶい 黄褐) ~ 2.5YR6/6 (黒)	埴之内式
				SI5	須恵器・甕	—	—	(9.8)				10YR5/3(にぶい 黄褐) ~ 10YR2/1 (黒) 10YR5/4(にぶい 黄褐)	
20	20		SI5	織文土器・ 粗製深鉢	—	—	(2.3)	無頭織文を回 転施紋	—	砂粒(白・ 多・透)	良好	10YR5/3(にぶい 黄褐) ~ 10YR2/1 (黒) 10YR5/4(にぶい 黄褐)	埴之内式
				SI5	織文土器・ 粗製深鉢	—	—	(2.1)				10YR7/6(明赤褐) 10YR7/4(にぶい 黄褐) ~ 2.5YR6/6 (黒)	
21	21		SI5	須恵器・甕	—	—	(9.8)	外面は平行引き、内 面は当て共撻なし、 底灰積	—	砂粒(白・ 多・透多・ 骨針)	良好	N5/O(灰) 7.5YS5/1(灰)	本葉下窓跡跡 余良・平 安時代
				SI6	土師器・环	(13.0)	(8.0)	(4.5)				7.5YR7/6(橙) N1.5/O(黒)	
22	22		SI6	土師器・甕	(14.0)	—	(8.4)	内外面ともに横位 のナガ溝。口部に 彫刻外縁に舟形	—	砂粒(白・ 多・透多)	良好	10YR3/1(黒) 10YR4/1(闇灰)	在地産カ 9世紀第 4四半期
				SI6	土師器・甕	(22.0)	—	(6.5)				10YR2/1(黒) 10YR5/3(にぶい 黄褐) ~ 10YR2/3 (黒)	
23	23		SI6	土師器・甕	(19.6)	—	(5.0)	内外面ともに横位 のナガ溝調整	—	砂粒(白・ 多・透多・ 赤)	良好	5YR6/8(橙) 5YR5/3(にぶい 黄褐)	在地産カ 9世紀第 4四半期
				SI6	土師器・甕	(14.0)	—	(8.4)				5YR6/8(橙) 5YR5/3(にぶい 黄褐)	
24	24		SI6	土師器・甕	(22.0)	—	(6.5)	内外面ともに横位 のナガ溝調整	—	砂粒(白・ 多・透多)	良好	5YR6/6(明赤褐) 10YR2/1(黒)	在地産カ 9世紀第 4四半期
				SI6	土師器・甕	(19.6)	—	(5.0)				5YR6/6(明赤褐) 10YR2/3(黒)	
25	25		SI6	土師器・甕	(14.0)	—	(8.4)	内外面ともに横位 のナガ溝調整	—	砂粒(白・ 多・透多)	良好	5YR6/6(明赤褐) 10YR2/1(黒)	在地産カ 9世紀第 4四半期
				SI6	土師器・甕	(22.0)	—	(6.5)				5YR6/6(明赤褐) 10YR2/3(黒)	
26	26		SI6	土師器・甕	(19.6)	—	(5.0)	内外面ともに横位 のナガ溝調整	—	砂粒(白・ 多・透多・ 赤)	良好	5YR6/8(橙) 5YR5/3(にぶい 黄褐)	在地産カ 9世紀第 4四半期
				SI6	土師器・甕	(14.0)	—	(8.4)				5YR6/8(橙) 5YR5/3(にぶい 黄褐)	

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数	出土位置	種別・器形			法量 (cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外面・内面)	生産地・ 年代
				細別	口径	底径	器高								
173	27	谷田遺跡 (第1地点第 2次)	SI6	土師器・甕	—	(7.6)	(5.4)	銅部外面は斜位及び 裏位のハラクス リ溝整及びヘフミ ガキ調整。内部は傾 位のナデ調整、輪柄 み粗。底部は木葉組	—	砂粒 (白 多・透多・ 銀多・赤)	良好	10YR4/2 (灰 黄褐)	在地産カ 9世紀第 4四半期		
				土師器・甕	—	(9.0)	(7.0)						5YR3/4 (暗赤褐色) 7.5YR7/4 (にぶい 緑) ~ 5YR6/6 (橙) ~ 7.5YR2/1 (黒)		
				土師器・甕	—	(7.4)	(2.8)								
173	31		SI6	土製品・支 脚	長さ (14.7)	幅 (6.0)	重量 (400) g	被熱により器 頭が者しく剥 落	90	—	良好	2.5Y7/3 (浅黄)	在地産カ 9世紀第 4四半期		
				土師器・甕	(18.5)	—	(21.6)								
174	32		SI7	土師器・甕	—	(10.8)	口縁部外面は傾 位のナデ調整、銅 部外面は斜位の ナデ調整。	—	30	砂粒 (白 多・透多・ 銀多・赤)	良好	5YR6/6 (橙)	在地産カ 9世紀第 4四半期		
				土師器・甕	(18.0)	—	(19.1)								
				土師器・甕	(26.0)	—									
174	33		SI7	土師器・甕	(20.0)	—	(10.0)	口縁部外面は傾 位のナデ調整、銅 部外面上半は斜位 のナデ調整。	—	20	砂粒 (白 多・透多・ 銀多・赤)	良好	10YR5/3 (にぶ い黄褐) 7.5YR7/6 (相 似)	在地産カ 9世紀第 4四半期	
				土師器・甕	(20.0)	—	(13.8)								
174	34		SI7	土師器・甕	(24.0)	—	(7.2)	口縁部外面は傾 位のナデ調整。	—	砂粒 (白 多・透多・ 銀多・赤)	良好	5YR6/6 (相 似) 7.5YR7/8 (黃 褐)	在地産カ 9世紀代		
				土師器・甕	(24.0)	—	(7.5)								
175	39		SI7	土師器・甕	—	(8.0)	(13.5)	銅部外面は傾位 のヘラギ調整。内 面は傾位のナデ調 整。輪柄み粗。外 部に壓付着。底部 は木葉組。	—	砂粒 (白 多・透多・ 銀多・赤)	良好	5YR6/6 (橙) 10YR6/4 (に ぶい黄褐)	在地産カ 9世紀代		
				土師器・甕	—	6.8	(17.0)								
				土師器・甕	—	(7.0)	(9.5)								
178	1	水戸城跡 (第7地点第 27次)	藤棚柱5	磁器・碗・ 丸皿A	—	(6.0)	(5.9)	銅部外面は傾位 のヘラギ調整。内 面は傾位のナデ調 整。輪柄み粗。外 部に壓付着。底部 は木葉組。	—	砂粒 (白 多・透多・ 銀多)	良好	10YR1.7/1 (黒) 2.5YR4/6 (赤 褐) 10YR4/1 (褐色 灰)	在地産カ 9世紀代		
				藤棚柱2	磁器・碗・ 丸皿B	—	(9.2)								
178	2		藤棚柱2	磁器・碗・ 丸皿C	—	(7.3)	無縫皮形・透 通施釉。表面無 施釉。高台・垂腹 全面施釉。文様なし ・高台内リ压 着。底部は木 葉組。内面砂付	—	35	—	—	—	七曲腹碗 (精製七曲碗) 1838 (天保 9)年製		

図版	番号	遺跡名・ 地点名・ 次数)	出土位置	種別・器形			法量(cm)			観察所見	残存率 (%)	胎土	焼成	色調 (外・内面)	生産地・ 年代等
				細別	口径	底径	器高	重量							
178	3	水戸城跡 (第7地点第 27次)	藤棚柱2 瓦・小丸軒 棟瓦	全長 (6.5)	厚さ (1.8)	重量 (135) g	板作り・型當て・型 押形/埴あり/ 小丸瓦当類欠損	一	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1(灰)	产地不明 1841年前後~			
			藤棚柱2 瓦・小丸軒 棟瓦	全長 (6.4)	厚さ (1.8)	重量 (218) g	板作り・型當て・型 押形/埴あり/	一	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1(灰)	产地不明 1841年前後~			
			藤棚柱4 瓦・板状不 明	全長 (5.5)	厚さ (1.6)	重量 (107) g	板作り・型當て成形 /埴あり/刻印 「丸に安」	一	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1(灰)	产地不明 1841年前後~			
			藤棚柱4 瓦・平瓦	全長 (13.3)	厚さ (2.2)	重量 (397) g	板作り・型當て成形 /埴あり/穿孔 1箇所	一	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1(灰)	产地不明 1841年前後~			
			藤棚柱4 瓦・板状不 明	全長 (7.5)	厚さ (2.0)	重量 (138) g	板作り・型當て成形 /埴あり/倒印 「丸に安」	一	砂粒(白・ 黒)	硬質	N4/1(灰)	产地不明 1841年前後~			
			表面探集	円筒埴輪	—	—	(3.6)	—	砂粒(白・ 多・透・ 黒)	良好	5YR6/6(橙)	古墳時代 中期前葉			
			表面探集	軒丸瓦	内区径 (16.0)	厚さ (2.4)	重量 (180) g	—	砂粒(白・ 多・透・ 黒)	良好	5YR6/1(灰)	奈良時代 3127A型式			
179	1	愛宕山古墳	表面探集	軒丸瓦	内区径 (16.0)	厚さ (2.4)	重量 (180) g	—	砂粒(白・ 多・透・ 黒)	良好	5YR6/6(橙)	古墳時代 中期前葉			
180	1	台渡里府寺 跡(報道堂 山地K)	表面探集	軒丸瓦	内区径 (16.0)	厚さ (2.4)	重量 (180) g	—	砂粒(白・ 多・透・ 黒)	良好	5YR6/1(灰)	奈良時代 3127A型式			
181	1	四又入窓跡 群	表面探集	須恵器無・ 台杯蓋	最大径 (17.0)	—	(1.5)	内外両面ともにロク 口式整形器。蓋ま た部を欠く。	砂粒(白多・ チャート覆 い葉裏)	堅織	10YR4/3(に ふい葉裏) 2.5Y5/1(黄灰)	8世紀第2四 半期~第3四 半期			
			表面探集	須恵器・有 台杯	最大径 (17.0)	高台径 (12.4)	(3.0)	内外両面ともにロク 口式整形器。口縁 部を欠く。	砂粒(白・ 多・黒)	堅織	2.5Y5/1(黄灰)	8世紀第2四 半期~第3四 半期			
182	1	藤井町遺跡	表面探集	繩文土器・ 粗製深鉢	—	—	(6.9)	前面には縦走する柱 溝を有し、その間に隣 帶を有り、指掛け、指頭 押つけで施設する張 仕造りをしている。内 面には5mm幅の縫合 する痕跡が3箇所あ る。	砂粒(白・ 多・透・ 赤)	良好	10YR4/2(灰黄褐) 10YR5/3(に ふい葉裏)	加曾利B式			
			表面探集	繩文土器・ 精製深鉢	—	—	(3.8)	3号の土器。外面 中央には付の痕跡を 配置する。それにかう 長い張突と短く、内 面にも同様の長い張突 を有する。丁寧にミガ キを施す。把部は楕円 形を有し、中央に手凹 の跡を有する。左右 に直径4.5mm程度の 竹筋状工具で円形の削 突文を配置	砂粒(白・ 透多)	良好	5YR4/6(赤褐) 7.5YR4/3(褐)	加曾利B 式新段階			

*括弧内の数値は、復元された口径や底径、または残存高を示す。

*色調に記載の色については上段が外面、下段が内面を示す。複数の色調が認められる場合には、10Y8/1(灰白)～10Y5/1(灰)のように示す。

(第7表) 出土品

*「施」の記号には、次の記号を使用する。

「金」：金色を呈する風化した黒墨削片(まさに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「銀」：銀色を呈する風化した白墨削片(まさに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「骨粉」：白色骨粉物質とも表記される海綿骨粉(まさに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「白」：白色不透明で長石あるいは石英と考えられる粒子(まさに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「黒」：黒色で光沢を有し輝石あるいは角閃石と考えられる粒子(まさに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「赤」：赤色柘榴石あるいは赤色チャートと考えられる粒子(まさに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

「透」：透明で石英と考えられる粒子(まさに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。)

第8表 石器・石製品観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
13	8	大井古墳群 (第1地点第2次)	トレンチ2	磨製石斧	滑石カ	6.1	3.5	0.6	19.0	縄文時代
16	8	渡里町遺跡 (第11地点)	トレンチ1 硬化面上	砥石	不明	17.7	5.4	3.2	(455.0)	縄文時期不明
	9			砥石	流紋岩カ	(5.4)	(5.4)	(3.4)	(179.0)	縄文時期不明
19	4	渡里町遺跡(第12地点)	トレンチ一括	磨石／敲石	安山岩	(4.3)	(7.1)	(3.2)	(120.0)	縄文時代カ
75	16	坪遺跡(第16地点)	第2次調査 トレンチ4	磨製石斧	ホルンフェルスカ	(6.4)	3.2	1.6	56.7	縄文時代
152	36	一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	SD01	珪石	石英斑岩カ	(17.75)	(9.3)	(5.7)	(1134.0)	古墳時代前期
154	15		SD01	砥石	砂岩	15.0	8.7	7.1	(1898.0)	平安時代カ
155	5	遺構外	打製石斧	粘板岩カ	(7.2)	(3.9)	(1.1)	(45.0)	縄文時代カ	
	9			双孔円板	滑石カ	(3.8)	(4.2)	(0.4)	(12.0)	古墳時代中期中葉
167	17	堀遺跡 (第22地点第2次)	SD01	軽石製品	軽石	7.8	6.3	5.3	(68.83)	7世紀第4四半期 魚網用の浮子カ
173	30	谷田遺跡 (第1地点第2次)	SD06	砥石	流紋岩カ	(7.6)	(7.4)	(3.4)	(195.79)	平安時代(9世紀代)

第9表 金属製品観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器種	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
49	5	台渡里官衙遺跡 (台渡里第76次)	トレンチ1	釘	鉄	14.1	1.2	0.7	32.96	奈良・平安
128	4	釜久保遺跡(第5地点)	トレンチ2	燈籠	銅・真鍮	(5.3)	(0.9)	(0.35)	(2.78)	近世
146	8	香掛遺跡(第4地点)	遺構外	鍍貨	青銅	(2.4)	(0.8)	(1.0)	(2.0)	銅一文古寛永(寛文8(1669)年初鋤)カ
155	12	一戦塚遺跡 (第1地点第2次)	遺構外	鍔	青銅	3.9	2.0	最大厚 (0.4)	21.0	奈良・平安 刀身部長2.9cm, 刀 身部幅0.3~0.7cm

引用・参考文献

- 井 博幸 2012 「茨城県県央部における前期・中期古墳の展開」『婆良岐考古』第34号 婆良岐考古同人会
- 井 博幸 2021 「常陸における前期・中期の埴輪」『古代文化』第72号第4号 公益財团法人古代学協会
- 井 博幸・小宮山達夫 1999 「第7章 内原町周辺的主要古墳と出土遺物」『牛伏4号墳の調査』内原町教育委員会
- 稲田健一 2010 「古墳時代の武田遺跡群」『武田遺跡群 総括・補遺編』ひたちなか市教育委員会・財團法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社
- 井上義安編 1990 「薬王院東道路 千波中学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書」水戸市薬王院東道路発掘調査会
- 井上義安・蓼沼香未山・仁平妙子・根本瞳子 1999 「水戸市埋蔵文化財分布調査報告書 平成10年度版」水戸市教育委員会
- 茨城県教育委員会 2001 「茨城県遺跡地図」
- 内原町教育委員会 1999 「牛伏4号墳の調査」
- 大洗町教育委員会 2018 「大洗町第2回埋蔵文化財企画展 太平洋を見下ろす大洗の王墓」
- 太田有里乃・染井千佳・土生朗治 2015 「小堀遺跡(第3地点) 都計道7・6・1号外3路線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」水戸市教育委員会
- 川口武彦・渥美賢吾・折原 覧 2011 「台渡里22 一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(台渡里第79次)一」水戸市教育委員会
- 川口武彦・渥美賢吾編 2007 「平成17年度水戸市内遺跡発掘調査報告書」水戸市教育委員会
- 川口武彦・渥美賢吾・木本翠周 2009 「平成18年度長者山地区範囲確認調査概報一」水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2009 「平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書」水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2010 「平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書」水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2011a 「平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書」水戸市教育委員会
- 川口武彦・色川順子編 2011b 「台渡里4 一宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(台渡里第64次)一」水戸市教育委員会
- 川口武彦・木本翠周 2009 「台渡里庶跡出土軒瓦の新資料—3127型式と矢羽式軒平瓦の再検討—」『婆良岐考古』第31号 婆良岐考古同人会
- 川口武彦・米川暢敬・渥美賢吾・関口慶久 2020 「塙遺跡(第9地点区画No.1~12) 一造成地内における個人住宅建築に伴う平成19~21年度内遺跡発掘調査報告書一」水戸市教育委員会
- 河野一也・斎藤清貴 2018 「東前原遺跡(第15地点第2次) 一区画道路6-23号外1路線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一」水戸市教育委員会
- 栗原 悠 2018 「第二章 水戸市愛宕山古墳の測量調査(速報)」『茨城県中央部の古墳調査—測量報告(墳丘・石室・遺物)一 黒羽古墳 愛宕山古墳 三ツ塚古墳群 徳化原古墳 附・磯崎小学校敷地内第1号墳』茨城大学人文社会科学部考古学研究室
- 斎藤 新 2020 「那珂川久慈川流域の前期古墳の様相」『古代文化』第72号第2号 公益財团法人古代学協会
- 佐々木義則 1995 「木葉下窓跡群産杯A I の変化について—消費地における形態と調整技法の様相—」『婆良岐考古』第17号 婆良岐考古同人会
- 1997 「木葉下窓跡群の須恵器生産—奈良時代前半を中心に—」『婆良岐考古』第19号 婆良岐考古同人会
- 2001 「茨城県における8・9世紀の須恵器概観」『婆良岐考古』第23号 婆良岐考古同人会
- 2009 「武田遺跡群における平安時代土師器環・小皿編年」『婆良岐考古』第31号 婆良岐考古同人会
- 2013 「木葉下窓跡群須恵器有台环・有台环蓋・有台盤の編年」『婆良岐考古』第35号 婆良岐考古同人会
- 佐々木義則・早川麗司 2017 「茨城県における東北地方からの移民の痕跡—長煙道カマドと東北系遺物から俘囚移配を考える—」『帝京大学文化財研究所研究成果公開シンポジウム「俘囚・俘夷」と呼ばれたエミシの移配と東国社会—強制移住させられたエミシはどこに居たのか?そして何をしていたのか?—』帝京大学文化財研究所・山梨県考古学協会
- 黄保昌弘 2014 「出土瓦にみる中央集権国家形成期陸奥国支配体制の画期とその侧面」『日本考古学』第37号

- 日本考古学協会
- 須田 勉 2005 「多賀城様式瓦の成立とその意義」『国士館大学文学部人文学会紀要』第37号 国士館大学文学部
- 関口慶久編 2013 『IV. 隆奥国古瓦の系譜と東国』『考古調査ハンドブック 18 古瓦の考古学』ニューサイエンス社
- 関口慶久・川口武彦・渥美賢吾 2013 『日本古代の寺院・官衙造営—長屋王政権の国家構想—』吉川弘文館
- 関口慶久・川口武彦・渥美賢吾 2013 『日新堀跡 第1次～第6次発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 関口慶久・川口武彦・渥美賢吾 2009 『吉田古墳Ⅲ 史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号分の第4・5次発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 関口慶久・川口武彦 2007 『吉田古墳Ⅱ 史跡整備計画に伴う吉田古墳群第1号墳の第3次発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 関口慶久・渥美賢吾・米川暢敬編 2017 『七面製陶所跡 遺構・遺物編 第1～3次発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 蓼沼香未由 2018 「事例（調査）磯浜古墳群の調査」『大洗町第2回埋蔵文化財企画展 太平洋を見下ろす大洗の王墓 講演会発表資料集』大洗町教育委員会
- 蓼沼香未由編 2019 『茨城県東茨城郡大洗町 磯浜古墳群Ⅰ 姫塚古墳・車塚古墳・日下ヶ塚（常陸鏡塚）古墳 平成21～24年度測量調査・範囲確認調査成果総括報告書』大洗町教育委員会
- 根本康弘 1983 『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書6 木葉下遺跡I（窓跡）』財团法人茨城県教育財團
- 土生朗治・新垣清貴 2019 『茨城県水戸市 東前原遺跡（第17地点第2次）（仮称）ツルハドラッグ水戸東前店新築工事にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会
- 林 邦雄・渥美賢吾編 2013 『台渡里15 一市道常磐223号線扶助い道路整備工事及び公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第114次）一』水戸市教育委員会
- 常陸古代窯業史研究会 1998 『水戸市山田窯跡群確認調査報告』『茨城県考古学協会誌』第10号 茨城県考古学協会
- 藤澤良祐 2005 『瀬戸美濃と志戸呂・初山』『陶磁器から見る 静岡県の中世社会—東でもない西でもない—』発表要旨・論考編』菊川シンポジウム実行委員会
- 細谷弘一・佐藤次男・川井正一・根本康弘・市毛津子 1994 『内原町の遺跡—内原町遺跡分布調査報告書—』内原町史編さん委員会
- 米川暢敬・渥美賢吾・色川順子・坂本幸子・関口慶久・川口武彦編 2019 『平成21年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうにねんどみとしないいせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	平成 22 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書						
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告 第 126 集						
編集者名	川口武彦						
著者名	川口武彦・米川暢敬・渥美賢吾・関口慶久						
編集・発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒 310-8610 茨城県水戸市中央 1-4-1 ☎ 029-224-1111 (代)				
発行年月日	2022 (令和 4) 年 3 月 29 日						
所収遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
金剛寺遺跡 (第 8 地点)	関町字寺山 2113 外	08201 134	36° 24' 03"	140° 23' 40"	2010.4.13	208.5	戸ターハリ発 着工建設
香椎遺跡 (第 5 地点)	見川町 2570-2	08201 167	36° 21' 33"	140° 26' 39"	2010.4.16	33.92	伐採・伐根
吉田古墳群 (第 9 地点)	元吉田町 84-2, 84-9, 85-9	08201 072	36° 21' 34"	140° 28' 27"	2010.4.23	18.0	個人住宅建築
吉田古墳群 (第 10 地点)	元吉田町字東組 706 番 1	08201 072	36° 21' 17"	140° 28' 33"	2010.4.23	18.0	個人住宅建築
大井古墳群 (第 1 地点第 2 回)	飯高町 (市道飯高 224 号線)	08201 089	36° 25' 35"	140° 24' 50"	2010.5.11 ~ 5.12	54.6	削溝埋設工事
渡里町遺跡 (第 11 地点)	渡里町 2819-4, -5	08201 121	36° 24' 27"	140° 26' 14"	2010.5.21	50.0	共同住宅建築
渡里町遺跡 (第 12 地点)	渡里町字八幡前 2503 番 1	08201 121	36° 24' 24"	140° 26' 21"	2010.8.3	72.0	宅地造成工事
小塙遺跡 (第 5 地点第 4 回)	阿利田 3 丁目 2536	08201 042	36° 22' 16"	140° 24' 29"	2010.10.5	72.0	市立河田保育 所建設工事
赤塚遺跡 (第 6 地点)	阿利田 3 丁目 2324-1, 2, 3 の 一部、8, 9, 2325-1 の一部、 2327-1 の一部	08201 042	36° 22' 16"	140° 24' 29"	2010.5.27	34.0	宅地造成
台渡里官衙遺跡 (台渡里第 62 次・第 72 次)	渡里町字アラヤ 3057-2	08201 276	36° 24' 35"	140° 25' 30"	2010.6.1 (台渡里第 62 次) 2010.6.13 (台渡里第 72 次)	69.08	個人住宅建築
台渡里官衙遺跡 (台渡里第 63 次)	渡里町字前原 2865	08201 276	36° 24' 30"	140° 26' 06"	2010.6.9	59.1	宅地造成
台渡里官衙遺跡 (台渡里第 65 次)	渡里町 2835-2, 2835-11, 2835- 12	08201 276	36° 24' 33"	140° 26' 07"	2010.8.10	14.0	駐車場造成
台渡里官衙遺跡 (台渡里第 66 次)	渡里町字前原 2865-6	08201 276	36° 24' 28"	140° 26' 06"	2010.8.20	18.0	個人住宅建築
台渡里官衙遺跡 (台渡里第 67 次)	渡里町字前原 2865	08201 276	36° 24' 27"	140° 26' 07"	2010.8.20	13.8	個人住宅建築
台渡里官衙遺跡 (台渡里第 71 次)	渡里町字前原 2880-1, 287703, 2879-2, 2881-2 の一部	08201 276	36° 24' 30"	140° 25' 50"	2010.9.21	3.75	物置及びガーボ ー建設
台渡里官衙遺跡 (台渡里第 74 次)	渡里町字前原 2867	08201 276	36° 24' 29"	140° 26' 03"	2010.11.30	27.0	宅地造成
台渡里官衙遺跡 (台渡里第 75 次)	渡里町字前原 2894-8, 2, 37 番 地	08201 276	36° 24' 23"	140° 25' 59"	2010.12.1	10.2	個人住宅建築
台渡里官衙遺跡 (台渡里第 76 次)	渡里町字前原 2832-9	08201 276	36° 24' 30"	140° 26' 06"	2010.12.2	15.0	個人住宅建築
台渡里官衙遺跡 (台渡里第 78 次)	渡里町字前原 2898-1	08201 276	36° 24' 25"	140° 25' 57"	2010.12.17	45.0	貸店舗・建物
台渡里官衙遺跡 (台渡里第 80 次)	渡里町字長野山 3070 地先～ 3082 地先 (市道前割 223 号線)	08201 276	36° 23' 17"	140° 25' 50"	2011.1.5 ~ 1.6	15.9	道路拡幅及び公 共下水道埋設
台渡里官衙遺跡 (台渡里第 82 次)	渡里町字宿屋 3013-5	08201 276	36° 24' 30"	140° 26' 03"	2011.3.2	19.5	個人住宅建築
谷田古墳群 (第 12 地点)	西門町 590-1 番地	08201 069	36° 20' 58"	140° 29' 52"	2010.6.4	49.0	共同住宅建築
釜神町遺跡 (第 5 地点)	關前町 752 番地 8	08201 020	36° 22' 22"	140° 27' 55"	2010.6.4	44.0	個人住宅建築
釜神町遺跡 (第 24 地点)	關前町 808 番地 2	08201 020	36° 22' 31"	140° 27' 51"	2010.12.24	4.5	個人住宅建築

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上平遺跡（第1地点）	剣崎町字上平 2241-6	08201	193	36° 22' 31"	140° 27' 54"	2010.7.1	17.0	個人住宅建築
馬場尻遺跡（第3地点）	山野町字馬場尻 168-1	08201	147	36° 25' 17"	140° 24' 54"	2010.7.6	35.0	店舗建築
馬場尻遺跡（第4地点）	山野町 175, 176 の一帯, 177-2 番地	08201	147	36° 25' 21"	140° 24' 50"	2010.9.21	4.5	個人住宅建築
井遺跡（第13地点）	河和田1丁目 1637-1, 1638	08201	015	36° 25' 21"	140° 24' 50"	2010.7.16	23.0	集合住宅建築
井遺跡（第14地点）	河和田3丁目 2376-1, 2376-2	08201	015	36° 22' 19"	140° 24' 34"	2010.7.6 (第1次) 2010.10.29 (第2次)	36.0 (第1次) 42.0 (第2次)	個人住宅建築
井遺跡（第16地点）	河和田2丁目 1713-10番	08201	015	36° 22' 22"	140° 24' 37"	2011.2.4	60.0	宅地造成
美工院東遺跡 (第2地点第3次(区画No.2))	元吉田町字東組 573番15	08201	128	36° 21' 34"	140° 28' 41"	2010.7.15 ~ 7.16	6.0	個人住宅建築
美工院東遺跡 (第2地点第3次(区画No.3))	元吉田町字東組 573番16	08201	128	36° 21' 34"	140° 28' 41"	2010.7.15 ~ 7.16	6.0	個人住宅建築
美工院東遺跡 (第2地点第3次(区画No.6))	元吉田町字東組 573番20	08201	128	36° 21' 35"	140° 28' 42"	2011.2.10	9.6	個人住宅建築
駒遺跡 (第3地点(区画No.1))	渡里町字森台 3231番10	08201	064	36° 24' 33"	140° 25' 39"	2010.12.1	9.45	個人住宅建築
駒遺跡（第22地点）	渡里町字森台 3307番20	08201	064	36° 24' 33"	140° 25' 39"	2010.7.28	17.25	個人住宅建築
駒遺跡（第24地点）	駒町字馬場東 307-2, 307-3	08201	064	36° 24' 28"	140° 25' 19"	2010.8.27	5.7	個人住宅建築
駒遺跡（第25地点）	駒町字馬場東 297-3	08201	064	36° 24' 29"	140° 25' 14"	2010.9.15	10.0	個人住宅建築
駒遺跡（第28地点）	駒町 382-1, 293-3	08201	064	36° 24' 27"	140° 25' 13"	2011.2.16	30.0	個人住宅建築
南行遺跡（第3地点）	上園井町 3906番地	08201	036	36° 26' 45"	140° 26' 13"	2010.8.18	18.6	個人住宅建築
アラヤ遺跡（第3地点(台 渡里町第68次)）	渡里町字金沢 3111, -字アラヤ 3090-3	08201	024	36° 24' 39"	140° 25' 33"	2010.9.1	8.0	個人住宅建築
大嗣町遺跡（第12地点）	元吉田町 2311-7番地	08201	011	36° 21' 20"	140° 29' 04"	2010.9.10	15.0	個人住宅建築
西原遺跡（第2地点）	渡里町字野木 3387番132, 133	08201	026	36° 24' 41"	140° 25' 22"	2010.9.15	9.3	個人住宅建築
文京1丁目遺跡 (第1地点(区画No.1))	文京1丁目 1898-8番地	08201	023	36° 23' 57"	140° 26' 37"	2010.10.14	9.0	個人住宅建築
文京1丁目遺跡 (第1地点(区画No.2))	文京1丁目 1898-7番地	08201	023	36° 23' 57"	140° 26' 58"	2010.11.25	10.5	個人住宅建築
谷田遺跡 (第1地点第2次)	谷田町 630-1	08201	002	36° 21' 17"	140° 30' 18"	2010.11.4	64.5	共同住宅建築
茨城高等学校遺跡 (第1地点第4次)	八幡町 8-54	08201	062	36° 23' 15"	140° 27' 35"	2010.11.24	4.0	八幡宮社殿及び 城郭の保存修理 に伴う電気・水道 配管設置
下道田遺跡（第2地点）	丘平町字原屋敷 334-1	08305	179	36° 21' 03"	140° 20' 30"	2011.2.1	13.0	個人住宅建築
豊久保遺跡（第5地点）	大塙町字豊久保 1612番2	08201	124	36° 23' 12"	140° 23' 55"	2011.2.8	36.0	寄宿舎建築
下畠遺跡（第3地点）	元石川町 1749-1番地	08201	006	36° 19' 28"	140° 29' 58"	2011.2.10	41.5	個人住宅・農業 用倉庫建築
新地遺跡（第2地点）	八坂田町 955番の一部	08201	184	36° 19' 28"	140° 29' 55"	2011.2.21	10.1	個人住宅建築
下本郷遺跡（第4地点）	千波町 24番地1ほか	08201	012	36° 19' 28"	140° 29' 58"	2011.1.21	0.9	個人住宅建築
下本郷遺跡（第5地点）	千波町 688-1, -2, 686	08201	012	36° 19' 28"	140° 29' 58"	2011.2.22	37.5	宅地造成
水戸城跡 (第2地点第25次)	三の丸 1-6-29 (昭弘遺跡)	08201	172	36° 22' 31"	140° 28' 38"	2010.10.4 ~ 10.8	2.0	史跡の既存に伴 う原状復旧
青舟遺跡 (第4地点第2次)	見川町 2570番1, 4	08201	167	36° 21' 32"	140° 26' 41"	4月 13日 ~ 6月 11日	418.0	個人住宅建築

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
一畠塚遺跡 (第1地点第2次)	牛伏町 181番1ほか	08201	069	36° 23' 35"	140° 21' 14"	7月13日～8月13日	168.32	個人住宅建築
塙遺跡 (第22地点第2次)	渡里町字高野台 3307番20	08201	064	36° 24' 29"	140° 25' 32"	9月9日～10月2日	65.3	個人住宅建築
白渡里官衙遺跡 (第69次)	渡里町字前原 2865番6	08201	276	36° 24' 29"	140° 26' 5"	10月2日～10月7日	67.26	個人住宅建築
白渡里官衙遺跡 (第70次)	渡里町字前原 2865番	08201	276	36° 24' 28"	140° 26' 6"	10月2日～10月15日	68.0	個人住宅建築
塙遺跡 (第22地点第2次)	渡里町字高野台 3307番20	08201	064	36° 24' 30"	140° 25' 32"	9月9日～10月2日	65.3	個人住宅建築
谷田遺跡 (第1地点第2次)	谷田町 630-I	08201	002	36° 21' 17"	140° 30' 18"	11月15日	120.5	共同住宅建築
水戸城跡 (第7地点第25次)	三の丸1丁目 6-29(非伝道駅)	08201	172	36° 22' 33"	140° 28' 40"	1月12日	—	史跡整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
金剛寺遺跡 (第8地点)	包蔵地	近世	溝跡2 (うち追回1)・土坑4	土師質土器 (近世)				
舟掛遺跡 (第5地点)	集落跡	時期不明		土師器				
古田古墳群 (第9地点)	集落跡	奈良・平安・中世		土師器・須恵器 (奈良・平安)・土師質土器 (中世)				
古田古墳群 (第10地点)	集落跡	近世以降	井戸跡 (近世以降)	土師質土器				
天井古墳群 (第1地点第2次)	集落跡							
渡里町遺跡 (第11地点)	集落跡	奈良・平安・近代	地下式坑1・土坑2・硬化面1	平瓦 (奈良・平安)・磁器・土師質土器・瓦質土器 (近代)				
渡里町遺跡 (第12地点)	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安	竪穴建物跡6 (古墳・奈良・平安)	鐵漿具 (縄文カ)・須恵器・土師器 (奈良・平安)				
小塙遺跡 (第3地点第4次)	集落跡	時期不明	井戸跡2					
赤塙遺跡 (第6地点)	集落跡	近世	施塗土坑1 (近世)	陶磁器・土製品・斜平瓦・牡蠣殻 (近世)				
白渡里官衙遺跡 (白渡里第62次・第72次)	官衙跡	奈良・平安・近世・近代	竪穴建物跡1 (奈良・平安)・溝跡2 (奈良・平安)	須恵器・軒丸瓦・平瓦・丸瓦 (奈良・平安)・土師質土器・陶器 (近世)・ガラス製品 (近代)	白渡里官衙遺跡 (白渡里山地区) の正倉院を埋蔵する内側と外側の区画溝跡を確認した。			
白渡里官衙遺跡 (白渡里第63次)	官衙跡	古墳	竪穴建物跡2 (古墳)	土師器・須恵器 (古墳)				
白渡里官衙遺跡 (白渡里第65次)	官衙跡	奈良・平安		土師器・須恵器 (奈良・平安)				
白渡里官衙遺跡 (白渡里第66次)	官衙跡	奈良	竪穴建物跡1	土師器・須恵器 (奈良)				
白渡里官衙遺跡 (白渡里第67次)	官衙跡	古墳	溝跡1 (古墳)	縄文土器 (加曾利E4式)・須恵器 (古墳)				
白渡里官衙遺跡 (白渡里第71次)	官衙跡	平安		土師器 (平安)				
白渡里官衙遺跡 (白渡里第74次)	官衙跡	古墳・奈良・平安	竪穴建物跡2・擬立柱建物跡1・溝跡1	須恵器 (古墳・奈良・平安)				
白渡里官衙遺跡 (白渡里第75次)	官衙跡	奈良・平安	溝跡1 (奈良・平安)	土師器 (奈良・平安)				
白渡里官衙遺跡 (白渡里第76次)	官衙跡	平安	擬立柱建物跡1 (平安)	土師器・須恵器 (平安)・鉢形 (平安)				
白渡里官衙遺跡 (白渡里第78次)	官衙跡	奈良・平安	溝跡2・土坑1・竪穴状遺構1	土師器 (平安)・平瓦 (奈良・平安)				
白渡里官衙遺跡 (白渡里第80・81次)	集落跡 / 官衙跡	縄文・奈良・平安	竪穴建物跡1・膨ら柱建物跡1・溝跡2 (うち追回1)・土坑1	縄文土器 (加曾利B式)・平瓦・丸瓦 (奈良・平安)				
白渡里官衙遺跡 (白渡里第82・83次)	官衙跡	古墳・奈良・平安	竪穴建物跡1 (古墳時代終末期)・擬立柱建物跡1 (奈良・平安)	土師器・須恵器				
谷田古墳群 (第12地点)	包蔵地	時期不明		土器				
釜神町遺跡 (第5地点)	集落跡	縄文・近世・近代		縄文土器 (中崩後壁)・陶器・磁器 (近世～近代)・土製品 (近代)				
釜神町遺跡 (第24地点)	集落跡	近世・近代	溝跡1 (近世)	陶器・磁器 (近世～近代)・ガラス製品 (近代)				
上平遺跡 (第1地点)	集落跡	近世	溝跡1 (近世)	縄文土器・土師器 (奈良・平安)・陶器 (近世)				
馬場尻遺跡 (第3地点)	集落跡	古墳		土師器 (古墳時代前期)				
馬場尻遺跡 (第4地点)	集落跡	時期不明	竪穴建物跡1	土師器・須恵器				
引遣跡 (第13地点)	集落跡	時期不明	溝跡1・土坑3 (時期不明)					
引遣跡 (第14地点)	集落跡	縄文・奈良・平安・中世	溝跡3 (中世以降)・土坑2・竪穴建物跡 (奈良・平安)・ピット1	縄文土器 (阿玉台1b式・加曾利E2～E3式・加曾利E4式・大木式)・磨製石斧 (縄文)・土師器・須恵器 (奈良・平安)・土師質土器 (中世)				

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
伊遺跡(第16地点)	集落跡	縄文・近世	溝跡1(近世)	縄文土器(大木式・加賀利E2式)	
第王阿東遺跡	集落跡	弥生・古墳	堅穴建物跡1(弥生後期)	弥生土器(王台式)・土師器(古墳時代中期以降)	
(第2地点第3次)(画No.2)					
第王阿東遺跡	集落跡	奈良・平安	堅穴建物跡1(奈良・平安)	土師器(奈良・平安)	
(第2地点第3次)(画No.3)					
第王阿東遺跡	集落跡	平安	堅穴建物跡2(平安)・土坑1	土師器・箆漉器(平安)	
(第2地点第3次)(画No.6)					
坂遺跡	集落跡	奈良・平安	堅穴建物跡2(奈良・平安)	土師器・箆漉器(奈良・平安)	
坂遺跡(第22地点)	集落跡	奈良・平安	堅穴建物跡1(古墳)・溝跡1(平安)	土師器・箆漉器(古墳・奈良・平安)	
坂遺跡(第24地点)	集落跡	奈良・平安	堅穴建物跡1(奈良・平安)	土師器・箆漉器(奈良・平安)	
坂遺跡(第25地点)	集落跡	奈良・平安		土師器(奈良・平安)	
坂遺跡(第28地点)	集落跡	奈良・平安		土師器・箆漉器(奈良・平安)	
南台遺跡(第3地点)	包囲地	奈良・平安		土師器(奈良・平安)	
アラヤ遺跡(第3地点)(集落里第68次)	集落跡	縄文・平安	土坑1(縄文)	縄文土器(縄之内式・加賀利B式)・箆漉器(平安)	
大鶴町遺跡(第12地点)	集落跡	弥生・奈良・平安	堅穴建物跡2(古墳時代中期以前?)	縄文土器(縄之内式)・弥生土器(王台式)	
西原遺跡(第2地点)	集落跡	奈良・平安・近代	堅穴建物跡2(奈良・平安)	土師器・箆漉器(奈良・平安)・陶器(近代)	
文京丁子遺跡(第1地点区画No.1)	集落跡	縄文	土坑2(縄文中期)	縄文土器(大木Bb式・加賀利E2式)	
文京丁子遺跡(第1地点区画No.2)	集落跡・古墳	縄文・古墳	土坑1(縄文)・古墳周溝	土師器(古墳時代中期)・埴輪(古墳時代中期末～中古初期)	前方後円墳の可能性がある上曲輪7.5～8.0mの古墳の周溝が確認された。
谷田遺跡(第1地点)	集落跡	古墳	堅穴建物跡3(古墳時代中期)	土師器(古墳時代中期)	
美城高等学校遺跡(第1地点第4次)	集落跡	縄文・平安・近世・近現代	土坑4(縄文)・硬化面	箆漉器(平安)・磁器(近世)・海老の土製品(近現代)・ガラス製品(現代)	
下遠田遺跡(第2地点)	集落跡	古墳・奈良・平安		土師器・箆漉器(奈良・平安)	
豪久保遺跡(第5地点)	集落跡	古墳・近世	堅穴建物跡1(古墳時代前期)	土師器(古墳時代前期)・椎貫(近世)	
下郷遺跡(第3地点)	集落跡	縄文・古墳	土坑4(縄文)	縄文土器(早中期末・加賀利E1式・加賀利E2式・加賀利E3式・加賀利E4式・堅穴内E式・堅穴内E2式・加賀利B1・中期)	
新地遺跡(第2地点)	包囲地	中世・近世		土師質土器(中世～近世)	
下本郷遺跡(第4地点)	包囲地	時期不明		片(瓦拍石質)	
下本郷遺跡(第5地点)	包囲地	縄文・古墳		縄文土器(加賀利E式・舞利式・連弧文形)・埴輪	筑波山麓近くもしくは常陸太田市元太田山窯の製品と考証される埴輪片が出土し、当遺跡内未確認の古墳が存在する可能性が示唆された。
水戸城跡(第7地点第25次)	城館跡	近世	大型円形土坑1・溝状構造(近世)	陶器・磁器・土師質土器・軒丸瓦・平瓦(近世)	正庁の落成会典の床下から張道陶器以前の戸跡が検出され、石材・瓦・土器・陶磁器・漆器等の生活用具や焼成和子が出土し、廻廊に囲む和造房の存在を示す。また、廻廊時代の遺構も確認され、廻廊により開拓する部分の施設が示されたことが判明した。
春掛遺跡(第4地点第2次)	集落跡	縄文・古墳・近世	土坑15(近世・時期不明14)・ピット10(古墳時代1・時期不明9)	縄文土器(加賀利E式・後期以降)・土師器(古墳前期)・土師質土器・裁貝(近世)	牛伏古墳群に接する本地点では、古墳時代中期から後期にかけて六角形の埴輪が検出されるとともに、古墳時代中期の石製埴輪品今や古墳時代中期の土器の上部等が出土する。古代と古墳時代の土器に開拓した集落跡跡である可司門性が示されてきた。また、廻廊時代の遺構を示す。廻廊時代の遺構も確認され、廻廊により開拓する部分の施設が示されたことが判明した。
一駒塚遺跡(第1地点第2次)	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	堅穴建物跡1(古墳)・溝跡1(奈良・平安)	縄文土器(滑乳芯)・打製石斧・秀生土器(王台式)・石器(古墳)・箆漉器(奈良・平安)・石器(古墳)・堅穴建物跡(古墳・奈良・平安)・土師器(古墳・奈良・平安)・亂石(古墳)	斜め方舟を採用する7段築後平に沿って設置された柵列が確認された。
台渡里官衙遺跡(第69次)	官衙跡	古墳・奈良・平安・近世	柵列1(古墳)・井戸跡(近世)	土師器(古墳)・箆漉器(古墳・奈良)・瓦(奈良・平安)・土師質土器・陶器(近世)	7世紀後半に解剖され、8世紀初頭に埋設した井戸跡が確認された。
台渡里官衙遺跡(第70次)	官衙跡	古墳・奈良・平安	溝跡1(古墳)	土師器(古墳・奈良)・箆漉器(古墳・奈良)	7世紀後半に解剖され、8世紀初頭に埋設した井戸跡が確認された。
坂遺跡(第22地点第2次)	集落跡	古墳・奈良・平安	堅穴建物跡1(古墳)・溝跡1(平安)・土坑1(時期不明)	土師器(古墳・平安)・箆漉器(奈良・平安)・瓦(平安)	7世紀後半の堅穴建物跡と9世紀後半に井戸跡が解剖されたと想定される。井戸跡周辺の遺構設置の開拓年が平安時代であることが確定した。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
呑田遺跡 (第1地点第2次)	集落跡	縄文・古墳・平安	竪穴建物跡5(古墳3・平安2)	圓文土器(黒汎式・加賀利E式・桶之内式)・土師器(古墳)・須恵器(奈良・平安)・砥石(平安)・土製支脚(平安)	これまで縄文時代と古墳時代後期の集落遺跡と認識されていた当遺跡内において、古墳時代前期・後期・終末期・奈良時代・平安時代の竪穴建物が確認され、古墳時代前期・平安時代などこれまで知られていなかった土地利用が明らかとなった。
水戸城跡 (第7地点第27次)	城館跡	近世	—	磁器・小丸軒瓦・板状瓦・平瓦(近世)	

水戸市埋蔵文化財調査報告 第126集

平成22年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

印刷 令和4年3月29日

発行 令和4年3月29日

編集 水戸市教育委員会

発行 水戸市教育委員会

印刷 佐藤印刷株式会社

〒310-0043 水戸市松が丘2丁目3番23号

TEL 029-241-1212(代)